

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第289集

岩村田遺跡群

# 西一本柳遺跡XXIV

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡第24次発掘調査報告書

2022.3

佐久市教育委員会





H9-14 鯨歯状石製品の未製品？

H23-15 磨製石鏃製作に  
用いられたと思われる砥石

H8-22 摺切り痕が認められる石材



H23-55 磨製石鏃未製品



H23-54 磨製石鏃未製品



H23-24 磨製石鏃未製品

H8-15 磨製石鏃未製品  
穿孔途中で欠損したものH23-22 磨製石鏃未製品  
穿孔途中で欠損したもの

H23-20 磨製石鏃未製品



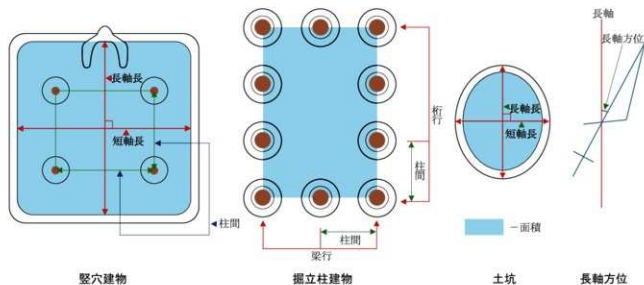


## 例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する岩村田遺跡群西一本柳遺跡XXIVの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者有限会社平和住宅が行う宅地造成に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 西一本柳遺跡XXIV (INPXIV) 佐久市岩村田字中一本柳2274-1他
- 4 調査期間及び面積 発掘作業：令和元年12月2日～令和2年6月5日  
整理作業：令和2年6月8日～令和4年3月18日
- 5 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図(1:2,500)、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図(1:5,000)である。
- 6 遺構測量はTSを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構君」により図化した。図面トレースは「遺構君」で行い、Adobe Illustratorで調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshopで補正等を行った。編集はAdobe InDesignで行った。
- 7 本書の作成・編集は小林が行った。
- 8 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺構の略記号は古代以前の竪穴建物-H、中世以降の竪穴建物-Ta、掘立柱建物-F、土坑-D、溝址-M、ピット-Pである。
- 2 挿図の縮尺は遺構1/80、遺物1/4を基本とする。これ以外のは挿図中のスケールを参照されたい。
- 3 海拔標高は、水系標高をスケールに「標高」と記してある。土層の色調は、1999年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 4 遺物挿図番号・遺物写真番号・遺物観察表番号は一致する。
- 6 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 7 遺構の形態は長軸長と短軸長の差が1割を超えたものを長方形、楕円とした。
- 8 挿図中の網掛けは以下の表現である。



## 目 次

例 言	i
凡 例	i
目 次	ii
第 I 章 発掘調査の経過	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査体制	1
第 3 節 調査日誌	1
第 II 章 遺跡の立地と環境	2
第 1 節 自然的環境	2
第 2 節 歴史的環境	2
第 III 章 調査の方法	4
第 1 節 調査の方法	4
第 2 節 基本層序	5
第 3 節 検出遺構・遺物の概要	5
第 IV 章 遺構と遺物	6
第 1 節 竪穴建物	6
H 1 号竪穴建物	6
H 2 号竪穴建物	6
H 3 号竪穴建物	6
H 4 号竪穴建物	7
H 5 号竪穴建物	7
H 6 号竪穴建物	8
H 7 号竪穴建物	8
H 8 号竪穴建物	9
H 9 号竪穴建物	11
H 10 号竪穴建物	11
H 11 号竪穴建物	12
H 12 号竪穴建物	17
H 13 号竪穴建物	19
H 14 号竪穴建物	25
H 15 号竪穴建物	25
H 16 号竪穴建物	25
H 17 号竪穴建物	30
H 18 号竪穴建物	30
H 19 号竪穴建物	32
H 20 号竪穴建物	32
H 21 号竪穴建物	35
H 22 号竪穴建物	35
H 23 号竪穴建物	37
H 24 号竪穴建物	38
H 25 号竪穴建物	44
H 26 号竪穴建物	44
H 27 号竪穴建物	44
H 28 号竪穴建物	47
H 29 号竪穴建物	49
Ta 1 号竪穴建物	50

Ta 2 竪穴建物	50
Ta 3 竪穴建物	53
Ta 4 竪穴建物	54
Ta 5 竪穴建物	55
Ta 6 竪穴建物	55
Ta 7 竪穴建物	55
Ta 8 竪穴建物	55
Ta 9 竪穴建物	57
Ta10 竪穴建物	57
Ta11 竪穴建物	57
Ta12 竪穴建物	58
Ta13 竪穴建物	58
第2節 掘立柱建物	58
F 1号掘立柱建物	58
F 2号掘立柱建物	58
F 3号掘立柱建物	64
F 4号掘立柱建物	64
第3節 土坑	65
第4節 ビット	65
第5節 遺構外出土遺物	65
第V章 まとめ	66
第1節 弥生時代	66
第2節 古墳時代	69
第3節 中世	71
引用・参考文献	74
表	75
写真図版	PL-01
抄録・奥付	

# 第 I 章 発掘調査の経過

## 第 1 節 調査に至る経緯

令和元年 8 月 30 日、有限会社平和住宅は岩村田遺跡群内で宅地造成を計画し、文化財保護法 93 条を市教育委員会に届出た。これを受け佐久市教育委員会では、令和元年 11 月 7、8、13、14 に試掘・確認調査を実施した。その結果遺跡の保護措置がとれない部分について記録保存目的の発掘調査を実施することとなった。

## 第 2 節 調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	樹澤晴樹
			吉岡道明（令和 3 年 5 月～）
事 務 局	社会教育部	部 長	青木 源（令和元年度）
			三浦一浩（令和 2 年度）
	文化振興課	課 長	土屋 孝（令和 3 年度）
			東城 洋（令和元、2 年度）
		企 画 幹	平林照義（令和 3 年度）
			吉田 晃（令和元年度）
			岡部政也（令和 2 年度）
			谷津和彦（令和 3 年度）
	文化財調査係	係 長	山本秀典
		係	富沢一明 上原 学 羽毛田卓也 久保浩一郎
			小林真寿
		調 査 員	甘利隆雄 岩松茂年 大矢志肇 小林喜久子
			小林節子 小林敏雄 清水律子 副島充子
			田中ひさ子 花岡美津子 細谷秀子
			堀籠滋子 宮川真紀子 山口ひとみ 山村容子
			柳沢孝子 柳澤千賀子 山田叔正 油井満芳

## 第 3 節 調査日誌

### 令和元年

8 月 30 日	有限会社平和住宅から文化財保護法 9 3 条第 1 項等の届出。
9 月 2 日	長野県教育委員会に副申。
9 月 6 日	長野県教育委員会より通知。
11 月 7・8・13～15 日	試掘・確認調査。
11 月 18 日	発掘調査終了報告。
12 月 2～6 日	現場調査。（北側進入路部分）
12 月 9 日～	室内整理作業着手。

### 令和 2 年

2 月 20 日	令和元年度調査終了。
----------	------------

4月 2日	令和2年度埋蔵文化財調査業務受託契約。
6月 5日	現場調査終了。
6月 8日	室内整理作業着手。
6月 9日	佐久警察署長に埋蔵文化財の発見の届出。
6月10日	長野県教育委員会に発掘調査終了の報告。
6月18日	長野県教育委員会から文化財認定及び県帰属について。(通知)
令和3年	
3月19日	令和2年度調査終了。
4月 1日	令和3年度埋蔵文化財調査業務受託契約。
令和4年	
3月18日	報告書を刊行し全ての作業を終了する。

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 自然的環境

千曲川上流域の東西幅約6km、長さ約15kmの南北に長い菱形の平野部が佐久平であり、標高は660～740mを測る。行政区分的にはほぼ佐久市に属する。地形地質の成因的には二大別され、旧佐久市の中心部を東西に流れる滑津川を境に著しい差異が認められる。滑津川以南の佐久平は千曲川流域沖積層地帯で標高680m内外の平坦地で、千曲川とその支流の用水を活用した水田地帯である。滑津川以北は千曲川右岸にあたり、北部県境にそびえている浅間火山の堆積物分布地帯で標高700m内外と以南に比べ一段高台をなしている。浅間火山はわが国の火山としては最も新しい三重式成層火山で現在も活動を続けている。佐久平北部はその噴出物に覆われており、噴出物の南縁部は旧岩村田町・中込原にまで及んでいる。西一本柳遺跡は旧岩村田町の西南端湯川右岸沿に立地している。

西一本柳遺跡付近の地層の最下部層は浅間火山第一次黒斑火山の最活動期の山体を破壊した水蒸気爆発による塚原泥流が山麓南面一帯に流下して、平坦部千曲川沿岸で圧力を減じ溶岩熱泥流の内容物を散在堆積したものである。この塚原泥流は塚原部落・三岡駅付近まで流れ大小100ヶを越す残丘を作っている。これらの残丘は基盤整備以前は現在よりも多数存在しており、古墳や墓地に利用されている例も多い。

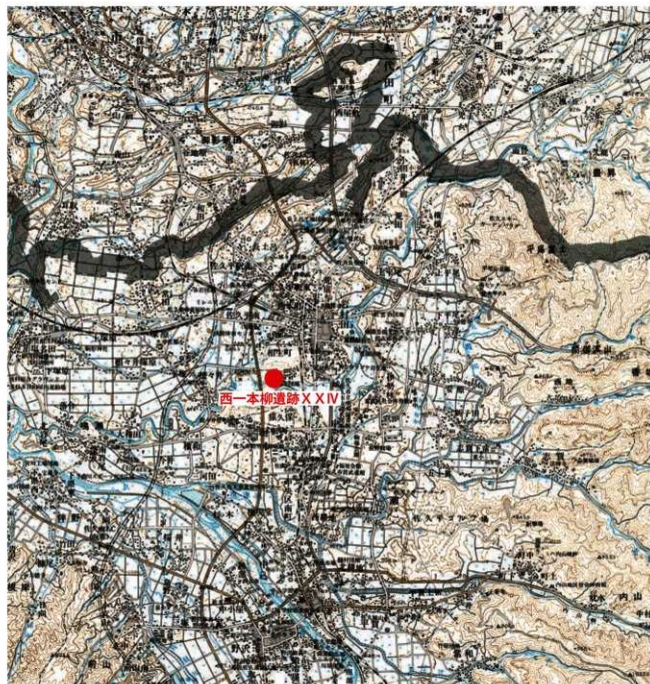
この塚原泥流の堆積上面は不規則な凹凸であったが、黒斑火山の長期に亘る火山活動の火山弾火山灰砂礫が厚く堆積し平準化した。佐久市北部の火山堆積物は全てこれに属し、第一軽石流(P<sub>1</sub>)第二軽石流(P<sub>2</sub>)の二期に大別され小諸懐古園や鼻顔稲荷神社付近でその厚い堆積層を見ることが出来る。この軽石流の堆積時期は内部に含まれている自然木炭のC<sup>14</sup>の測定によって10,650±250YBP洪積期終期とされている。この堆積層は主として火山灰砂礫浮石によって構成されているため水の浸食に弱く、山麓緩傾斜地では水流洪水に浸食され、御代田・三岡付近では火山地域特有の「田切り地形」が見事に発達し、長土呂・小田井にまで及んでいる。

西一本柳遺跡付近は塚原泥流最終末端部分にあたり、その地表面の低所には地下水の湧出、雨水湧水の貯留等による湿地沼沢地も形成されており、若宮神社付近には沼沢状濕田が分布しており、古くから開拓された水田地帯であるといわれている。(1990佐久埋蔵文化財センター調査報告書第22集 故白倉道明先生の文書の一部別添引用)

### 第2節 歴史的環境

西一本柳遺跡は岩村田遺跡群を構成する代表的な遺跡のひとつであるとともに、佐久市を代表する大規模弥生集落遺跡でもある。今回の調査地点は遺跡の北東端部にあたり、湯川の河岸段丘縁に立地する。

周辺部では過去において数多くの調査が実施されてきた。その端緒は昭和43年宅地造成に伴い実施された東一本柳遺跡の調査であり、古墳時代後期の竪穴建物5軒などが検出された。昭和46年には東一本柳古墳の調査が行われ、金銅製の豪華な馬具が発見されている。昭和47年には北一本柳遺跡が調査され、弥生時代の竪穴建物7軒、平安時代の竪穴建物10軒などが検出されている。平成3・4年度に行われた西一本柳遺跡の第1次調査では弥生時代中期後半の土偶形容器の頭部が発見されている。この資料は佐久市を代表する遺物のひとつとなっている。平成7・8年に行われた西一本柳遺跡の第3・4次の調査では東信濃で初めて弥生時代中期後半の石戈が発見された。平成18～21年にかけて行われた北一本柳遺跡の第3次調査では弥生時代後期の竪穴建物から



第1図 西一本柳遺跡X XIV位置図(1:50,000)



鉄剣や板状鉄斧2点が、西一本柳遺跡の14次調査では弥生時代中期後半の土偶形容器の頭頂部が出土している。今回の調査地点の東北隣りでは、平成21～23年に東一本柳遺跡の第2次調査が実施され、弥生時代の円形周溝墓や環壕、古墳時代・中世の集落が検出され、弥生時代後期の人面付土器の腕、胴体、陽形土製品などが出土した。また、今回の調査地点の北隣で行われた第22次調査では、弥生時代後期の複数の環壕、人型土器の頭部片、ベンガラが詰められた甕や、古墳時代後期の石製模造品の製作址などが検出されている。以上のことから東・北・西一本柳遺跡は、佐久地方の古代史上最も重要な遺跡のひとつと認識されている。

## 第三章 調査の方法

### 第1節 調査の方法

#### 遺跡名・調査区

佐久市詳細分布図の遺跡に照らし合わせ、西一本柳遺跡X XIVとした。ローマ数字は調査回数である。

開発に際し、測量会社が設定した複数の測量基準点を利用し、TSにより測量を行ったため、調査範囲にグリッドは設定していない。

#### 遺跡略記号・遺構略記号

遺跡略記号は以下の決まりに従い付けられている。

- アルファベット3文字の先頭は旧大字のローマ字表記の頭文字である。 I = 岩村田
- アルファベット3文字の2番目は遺跡名のローマ字表記の頭文字である。 N = にし
- アルファベット3文字の3番目は遺跡名のローマ字表記の任意の文字である。 P = ばん
- 末尾のローマ数字は発掘調査回数を表す。

遺構略記号は以下のとおりであり、佐久市共通である。

- H = 古代以前の竪穴建物
- F = 掘立柱建物
- D = 土坑（陥穴、貯蔵穴等）
- P = ビット（柱状のものを建てたと思われる、多くは小径の掘り込み）
- M = 溝状遺構（環壕、水路、道路、堀等）
- T a = 中世以降の竪穴建物

#### 遺構調査

竪穴建物は均等に4分割し、対面する2区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・炉・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。遺物は4分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続するNoを付け3次元の記録を行い取り上げた。

土坑は長軸方向に沿って2分割し、土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は分割した区毎に東西南北の英語頭文字を付し取り上げた。

ビットも土坑と同様であるが、遺物は遺構Noで一括した。

溝・周溝墓は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。

#### 遺構測量

平面図・断面図ともにTSを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構君」により図化した。測量基準座標は開発業者が設定した、複数の基準点をもとに調査区内に設定した座標を用いた。

## 写真

現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによるRAW画質モードと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、データの状態では報告書に使用した。

## 遺構・遺物の整理等

遺構の図面修正は株式会社CUBICの「遺構君」により行った。

遺物洗浄は竹ブラシを用い手で行い、室内で自然乾燥させた。

注記は白色のポスターカラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。

遺物の接合はセメダインCを使用し、遺物復元の際の充填材はエポキシ樹脂XNR6504・XNH6504を用いた。

金属器については、バキュームシーラによるパックで現状保存した。

遺物実測は手取りと、デジタル一眼レフカメラで撮影した画像をAdobe社製「Photoshop」で補正した写真実測を併用して行った。

遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り取蔵庫に収納した。

## 報告書

文章はInDesignに直接打ち込んだ、表についてはMS社製「エクセル」で作成した。遺物実測図はAdobe社製「Illustrator」によりデジタルトレースを行い、写真・拓本はAdobe社製「Photoshop」により補正加工を行った。これらのデータをAdobe社製「InDesign」に取り込み、印刷原稿を作成し、入稿した。

## 第2節 基本層序

基本層序は第2図のとおりである。南側の湯川河岸段丘縁は畑地化に際し、IV層まで達する削平が行われている。遺構検出は4層上面で行った。

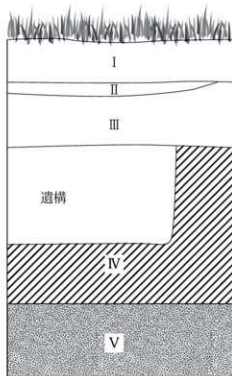
I—灰黄褐色土層(10YR4/2)耕作土。

II—黄褐色土層(10YR5/6)部分的に堆積。

III—灰黄褐色土層(10YR5/2)遺構によってはこの堆積土中から掘り込まれていることが確認できた。

IV—ぶい黄橙色土層(10YR7/4)浅間火山第一軽石流(P<sub>1</sub>)の堆積。

V—湯川由来の砂利層。



第2図 基本層序模式図

## 第3節 検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

### 検出遺構

竪穴建物(古代以前)—29軒、竪穴建物(中世以降)—13軒

掘立柱建物—4棟、土坑—49基、ピット—192基

### 出土遺物

弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器・石製品、金属器



## 第IV章 遺構と遺物

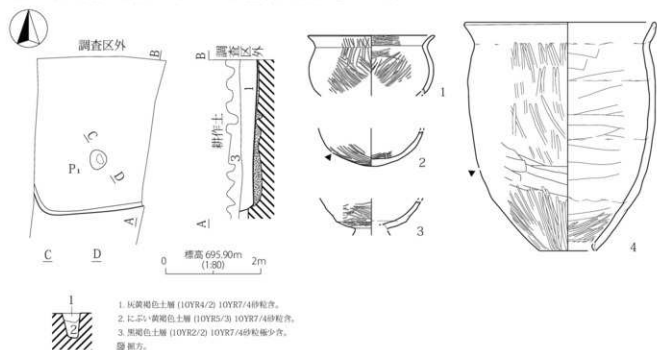
### 第1節 竪穴建物

#### H1号竪穴建物 (第3図)

調査区北端で検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.17mの規模である。調査範囲内にカマドは存在しなかった。主柱穴が床面上で1基検出されている。周溝は有さない。

遺物は土師器が出土している。坏、高坏、甔の器種が認められる。坏は鉢としたほうが良いかもしれない。内外面に暗文状のヘラミガキが施される。高坏は坏部に稜が認められる。甔は大型で、底部が開口する。

以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と思われる。



第3図 H1号竪穴建物

#### H2号竪穴建物 (第4図)

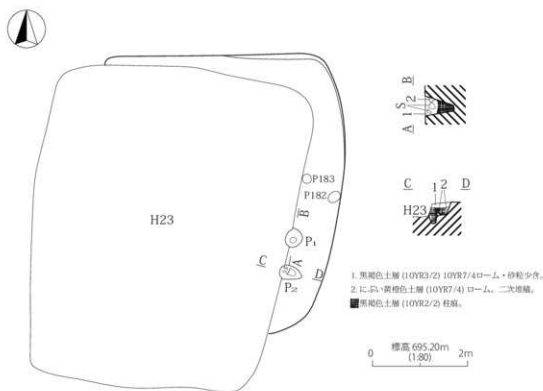
調査区中央西寄で検出された。H23に切られる。壁残高0.05mの規模である。壁は北辺に僅かに残るだけであり、床面だけの状態であった。そのため、P1・2の2基のピットについても本址に確実に伴うか否か定かではない。

図示しないが、弥生中期後半粟林式土器片が出土しており、本址の年代も弥生中期後半粟林式期と思われる。

#### H3号竪穴建物 (第5図)

調査区東端中央やや北寄りで検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.30mの規模である。検出された3基のピットの内、P1・P2の2基のピットは主柱穴である。調査範囲内にカマドは存在しなかった。壁下には周溝が巡る。

遺物は弥生土器、土師器、石器が出土している。弥生土器3・4は壺であるが、混入品である。土師器は坏、壺の器種が認められる。坏1は小型で、外面底部にヘラケズリ調整が施される。土師器壺2は球胴で、口縁部にヘラミガキが施される。内面体部はナデ、外面はヘラケズリ調整である。石器は編物石、磨石、使用痕のある剥



第4図 H2号竪穴建物

片が出土している。剥片の石材は黒曜石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀前半の所産と思われる。

#### H4号竪穴建物 (第6図)

調査区東端中央やや南寄りで検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.31mの規模である。床面上、掘方から検出された3基のピットの内、P2は主柱穴と思われる。土坑D1は本址に伴うか否か定かではない。

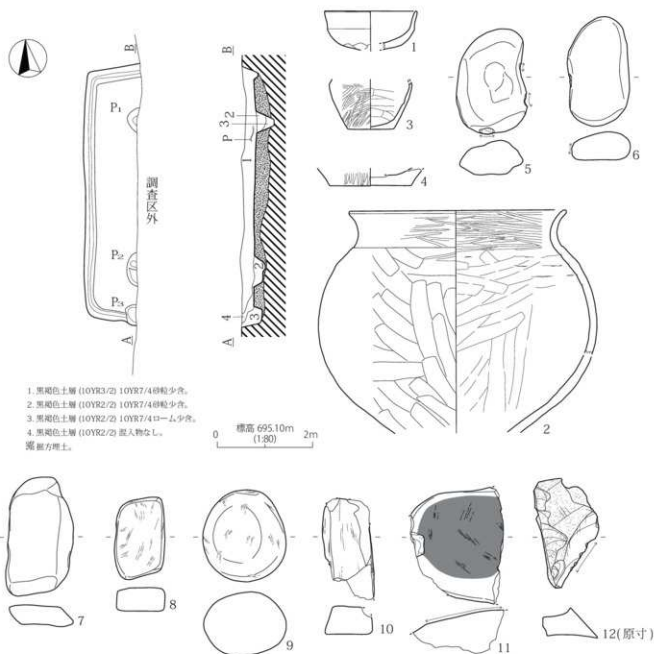
遺物は土師器甕と須恵器甕が1点づつ出土している。甕は体部に最大径を有し、内面ナデ、外面ヘラケズリ調整後ヘラミガキが施される。須恵器甕は大型で、頸部から口縁部を欠損する。体部下半に叩き痕を残し、最大径部分に柳描波状文が施され、穿孔が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代中期5世紀後半の所産と思われる。

#### H5号竪穴建物 (第7図)

調査区東南端付近で検出された。Ta1、D42に切られる。N-7° -Wに長軸方位をとる。長軸長4.30m、短軸長4.25m、壁残高0.39mの規模である。カマドは北辺の中央やや東寄りに石芯を粘土で被覆して構築される。対面する南辺には張出部があり、貯蔵穴が構築されている。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。ピットは11基検出されたが、均等に配置されるP1~P4の4基が主柱穴である。φ11cm台の柱痕が確認された。遺物は土師器、陶器、石器、鉄製品が出土した。土師器には坏、甕の器種が認められる。坏は半球状の1・2と半球状の体部から口縁部が外反する3が存在する。1がケズリ調整で仕上げられるのに対し、2・3はケズリ調整後ミガキ調整が施される。甕は2点ともに体部に最大径を有する。陶器はこね鉢と碗が1点ずつ出土しているが、重複するTa1やD43に帰属するものと思われる。石器は磨石が、鉄製品は断面円形の軸状のものが各1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と思われる。



第5図 H3号竪穴建物

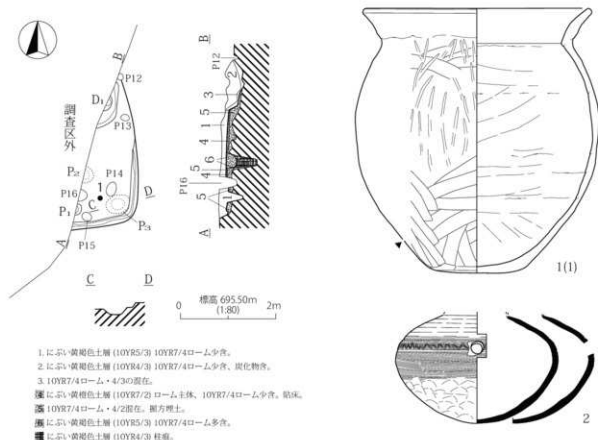
## H6号竪穴建物 (第8図)

調査区西端中央南寄りで見出された。H29、D37・38・40・45・46に切られ、西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.21mの規模である。南壁下には周溝が巡り、ピットは1基検出されたが支柱穴か否かは不明である。

出土遺物は皆無であるが、H29に切られるためH29の所産期が本址の所産期の下限となるが、H29からは所産期を決定出来る遺物が出土していないため、本址の所産期は不明である。

## H7号竪穴建物 (第9図)

調査区東側で見出された。P49に切られ、カクランによる破壊を受ける。N-128°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.49m、短軸長2.69m、壁残高0.23m、面積10.38㎡の規模である。カマドは東壁の東南隅よりに構築さ



第6図 H4号竪穴建物

れるが、火床が残存するだけであった。P1・2の2基のピットが主柱穴であり、 $\phi 11\text{cm}$ 大の柱痕が確認された。北西隅から西南隅の壁下には周溝が巡る。

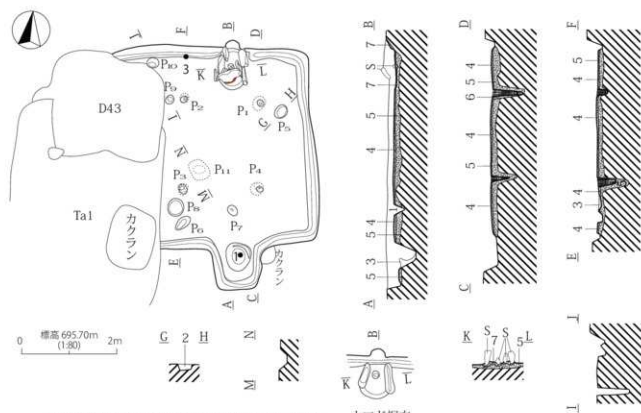
遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏と高坏の器種が認められる。坏は半球状の体部から短い口縁部が外反するものが3点、やや内径気味に直立するものが1点出土している。いずれも暗文状のヘラミガキが内外面に施され、2は内面黒色処理が施される。高坏は坏部に稜を持つもので、口縁端部が摘み上げられる。内外面に暗文状のヘラミガキが施される。石器は台石が1点出土している。表裏に磨面や条痕が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と思われる。

#### H8号竪穴建物 (第10・11図)

調査区中央東側で検出された。H13・15・17、D5、P48・58・59に切られる。N-5°-Wに長軸方位をとり、長軸長7.56m、短軸長5.39m、壁高0.15m、面積36.61㎡の規模で、長方形の平面形態である。H13が遺構中央部分を破壊するため、炬は判然としない。主柱穴も同様であるが、P2・3・8・9などは比較的深度があり、 $\phi 16\text{cm}$ の柱痕が確認できるものもある。南壁を除く壁下には周溝が認められる。また、間仕切状の溝址が遺構中央に認められる。

遺物は弥生土器、石器、鉄製品が出土している。弥生土器には甕、台付甕、壺の器種が認められる。2の様な中期的な形態と、1の様な後期的な形態が混在する。3は台付甕の可能性が高いが、比較的大型でヘラ描きによる特異な文様が体部に施文される。台付甕5は、「コ」字重ね文ではなく、重三角文である。壺は6の様な小型の内外赤彩のものもあるが、その他は大型のものである。9・10は受口の口縁部形態である。頸部が所謂「太首」なのは10だけである。また、赤彩は9のみに認められるが、内面が被熱により劣化しており、内面赤彩の有無は不明である。文様は受口のもの以外は頸部文様帯に集約されており、多段のヘラ描平行沈線間に縄文施文



1. 赤・黄褐色土層 (10YR4/3) 灰・焼土多含、10YR7/6ローム多含、人為埋土。

2. 褐色土層 (10YR4/1) 10YR7/4砂粒極少含。

3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。

■ 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少含、粘土。

■ 赤・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2極少含、脈方埋土。

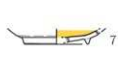
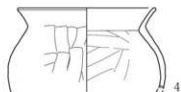
■ 赤・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多含。

■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム少含、カマド埋方埋土。

■ 焼土。

■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

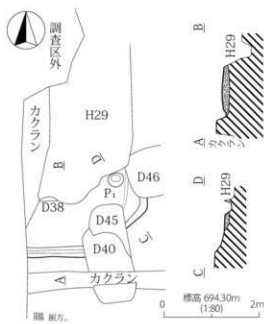
カマド掘方



第7図 H5号竪穴建物

が基本であるが、9は柳摺籬文、波状文、横線文が施される。受口口縁のものは口縁部文様帯にヘラ描の波状文が施されている。口唇部の加飾は9を除く全てに縄文が刻目が認められる。最大径は体部中位に上がる傾向が認められ、9は稜を成す。石器は砥石、磨製石斧、磨・敲石、磨製石鏃、磨製石鏃の素材が出土している。17は刃部を欠損した磨製石斧を2次利用した磨・敲石である。磨製石鏃は全て欠損品であり、製作過程で壊れたものである。その素材の出土からも明らかのように本址は磨製石鏃の製作址でもある。石材は片岩である。出土した砥石や磨・敲石は磨製石鏃の製作工具の可能性が高い。23の鉄製品は先端が尖る、断面四角形のものである。

以上の出土遺物は弥生時代中期後半栗林式であるが、後期的な要素も認められることから栗林式期の終末期の



第8図 H6号竪穴建物

される。体部は、3は櫛描斜走文が縦羽状に、4・5は櫛描波状文、2は縦位に櫛描波状文が施される。壺は13の破片資料を除き受口口縁のものは認められない。口唇部には縄文か刻目の加飾が施される。文様は頸部文様体に集約される。基本はヘラ描による多段の平行沈線文であり、地文として縄文が施されるものもあるが、無文のものもある。12のように文様帯そのものを持たないものも存在する。8・10・12は体部が緩を成して強く張る。石製品14は磨製石鏃の未製品ではなく、所謂「鮫歯状石製品」の未製品の可能性が高い。石器は15～18の打製石鏃ないしその未製品。19の磨製石鏃の未製品。20は石包丁の未製品の可能性がある。21・22は磨石、23は使用痕のある剥片、24は2次加工痕のある剥片である。25の鉄製品(内釘)は重複するTa8の混入品であろう。26は器種不明の鉄製品である。

以上の出土遺物は弥生時代中期後半栗林式であるが、後期的な要素も認められることから栗林式の終末期の様相を呈しているものと思われる。

#### H10号竪穴建物 (第15・16図)

調査区西側で検出された。D21・24・25・33に切られる。壁残高0.12mの規模である。床面だけが残存している状態であり、平面形態等は不明である。炬は緑石を伴う地焼炬である。P4・5・7からはφ16cmの柱痕が確認された。P4・7は主柱穴の可能性が高い。P5は棟持柱であろう。本址は床面上に炭化物が堆積しており、焼失遺構と思われる。

遺物は弥生土器、陶器、石器が出土している。陶器は混入品である。弥生土器には高坏、台付甕、甕、壺の器種が認められる。高坏は坏部の破片であり、脚は欠損する。口縁部が鈎状になり、内外面に赤彩が施される。台付甕は受口気味に口縁部が立ち上がる。頸部に櫛描籠状文、口縁部・体部に櫛描波状文が施される。甕3は口縁部を欠損する。体部には縦羽状の櫛描斜走文が施文される。4は壺の可能性もある。受口口縁の破片で、口唇部縄文、口縁部には波状文が施される。壺5は口縁部の破片で、端部が短く立ち上がる。口唇部に縄文、口縁部には波状文が施される。6は小型の壺で、口唇部縄文、頸部に3本の平行沈線が巡り、地文に縄文が施される。最大径は体部中位にある。石器は砥石、磨製石鏃、磨製石鏃製作過程で生じた片岩の剥片や素材が出土しており、本址が磨製石鏃の製作所であることを示している。

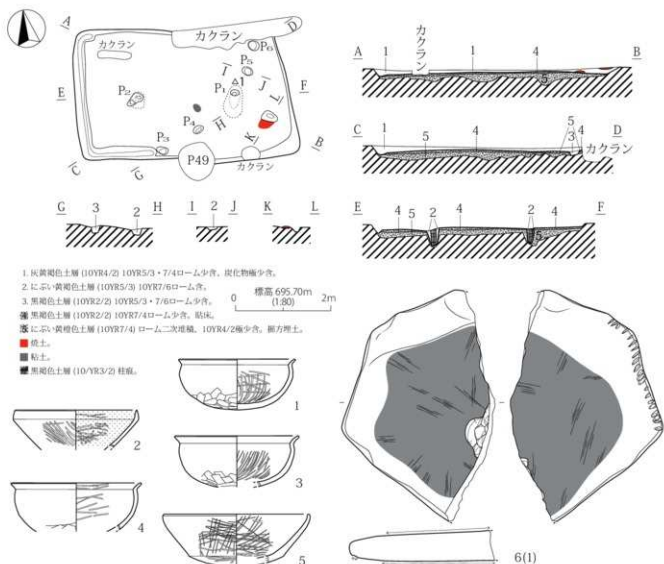
以上の出土遺物は弥生時代中期後半栗林式であるが、後期的な要素も認められることから栗林式の終末期の様

相を呈しているものと思われる。

#### H9号竪穴建物 (第12～14図)

調査区中央北側で検出された。H19、Ta8等に切られる。N-21°-Wに長軸方位をとり、長軸長7.56m、短軸長4.89m、壁残高0.20m、面積34.75㎡の規模で、長方形の平面形態である。炬は遺構中央部分に構築され、地焼炬である。P1～P3の3基が主柱穴である。本址は存在するもう1基はH9により消滅している。φ11cmの柱痕が確認されている。P4・6は棟持柱、P8・9は出入口施設と思われる。東壁の一部の壁下には周溝が巡っている。本址は焼失遺構であり、床面及び覆土内には多量の炭化物が内包されていた。

遺物は弥生土器、石器、石製品、鉄製品が出土している。弥生土器には高坏、甕、壺の器種が認められる。高坏は脚部分が1点出土している。短脚で外面には赤彩が施される。甕は短い口縁部形態で口唇部に縄文が加飾される。2は受口で、櫛描波状文が施される。台付甕の可能性が高い。頸部には籠状文が施



第9図 H7号竪穴建物

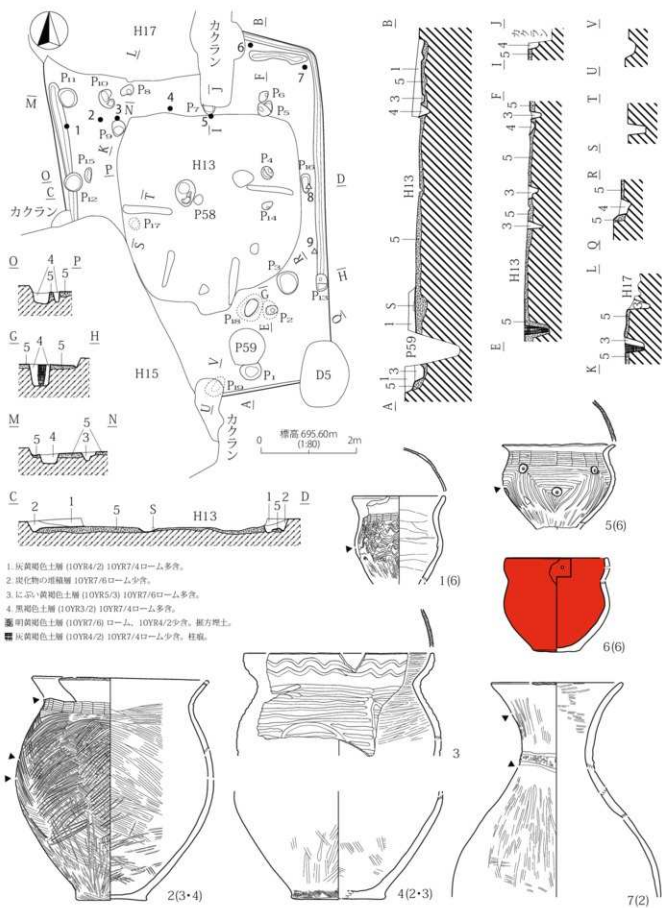
相を呈しているものと思われる。

#### H11号竪穴建物 (第17~20図)

調査区中央で検出された。H20・21を切り、P60に切られる。隅丸方形の平面形状で、N-5°-Wに長軸方位をとり、長軸長7.87m、短軸長7.74m、壁残高0.53m、面積50.64㎡の規模である。カマドは北壁中央部分に所謂「地山削出」で構築されていた。均等に配置されたP1~P4の4基のピットが支柱穴である。掘方から近接して、異なる一組の支柱穴と、一回り小型の竪穴建物の痕跡が確認されたことから、本址は拡張されていることが判明した。周溝は一部断絶しながらもカマド部分を除く壁下を巡っている。南壁中央壁下に穿たれたP10は出入口施設と思われる。

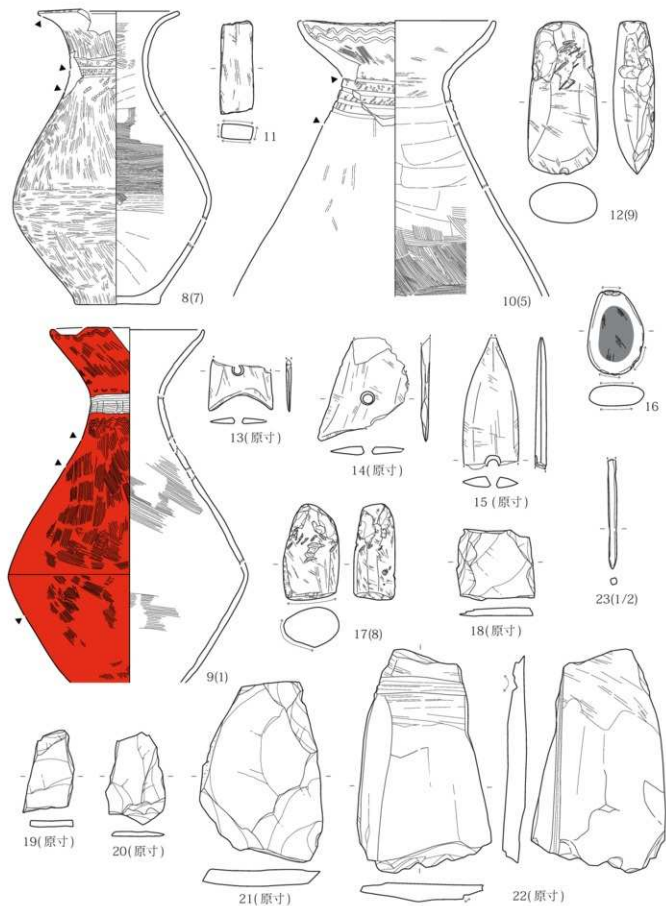
遺物は、土師器、弥生土器、土製品、石器、鉄製品、鉄滓が出土している。土師器には坏、鉢、甕、壺の器種が認められる。坏には2の北武蔵型や、4・5のような有段口縁坏も認められるが、須恵器坏蓋模倣形態の3・7・12や、半球状の底部から口縁部が大きく外反する8・13、平坦な底部から口縁部が大きく外反する9~11のような形態、両者の折衷形態の様な6が存在する。鉢は平坦な底部を持ち、内湾しながら立ち上がった体部から口縁部が短く外反する形態で、内外面にミガキ調整後、内面に黒色処理が施されている。甕の底部は残存する



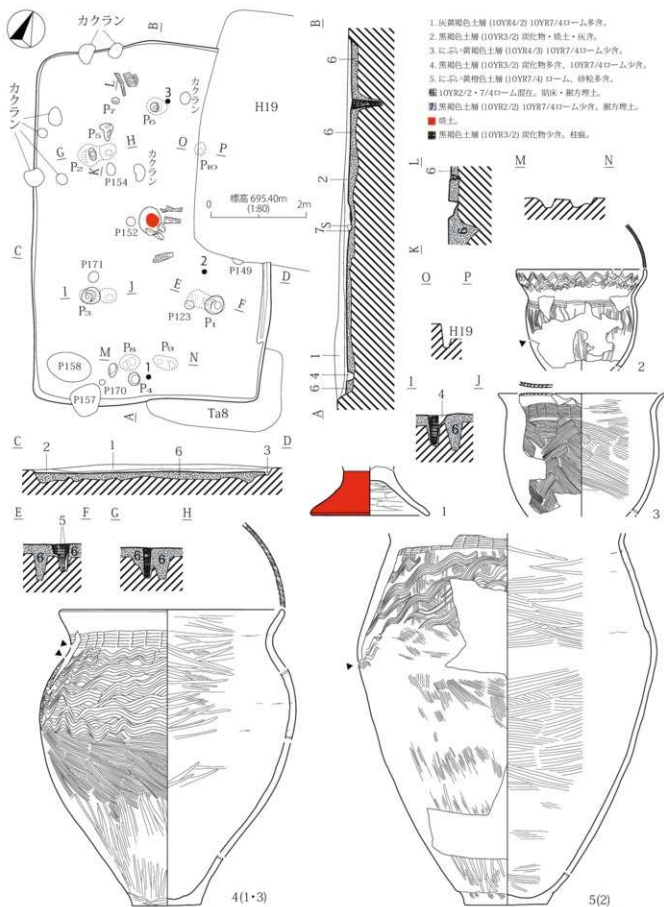


第10図 H 8号竪穴建物 (1)

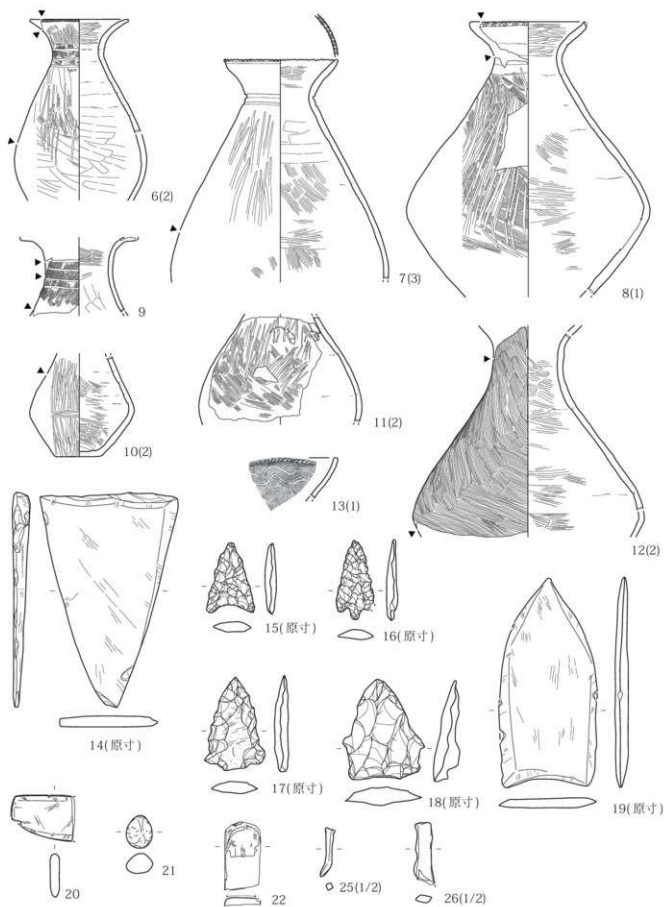




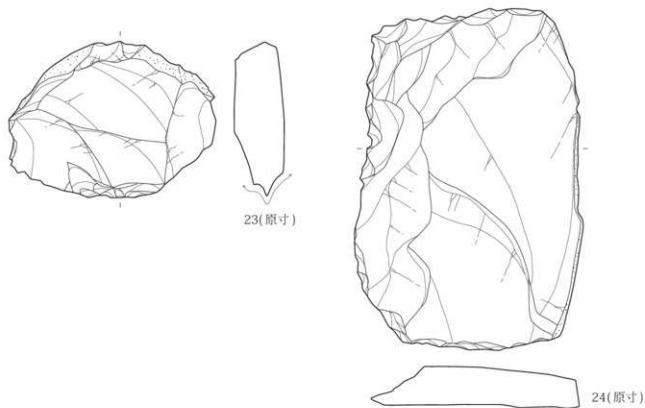
第11圖 H8号竖穴建物(2)



第12図 H9号竪穴建物(1)



第13图 H9号竖穴建物(2)



第14図 H9号竪穴建物(3)

ものは突出した形態である。最大径を体部に有するものと、口縁部に有するものが存在する。調整はナデ、ケズリがほとんどであるが、ハケメが施される20・28も存在する。20は東海地方からの搬入品と思われる。壺は特異な形態の32が1点出土している。弥生土器は中期後半粟林式の壺が2点出土している。土製品は35・36の丸玉、37の弥生時代の人型土器の腕と思われる破片が出土している。石器は砥石、台石、打製石鏃、編物石、磨石、敲石、磨製石鏃製作過程で生じたものであろう片岩の剥片が出土している。鉄製品は角釘、角軸が認められる。

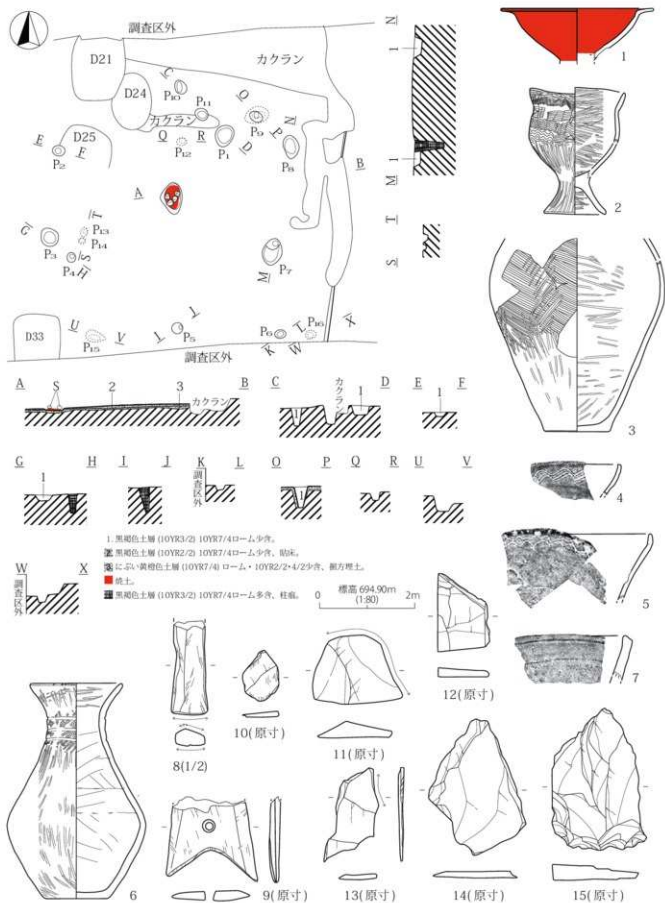
以上の出土遺物の特徴から本址は6世紀中葉の所産と考えられる。

#### H12号竪穴建物(第21～22図)

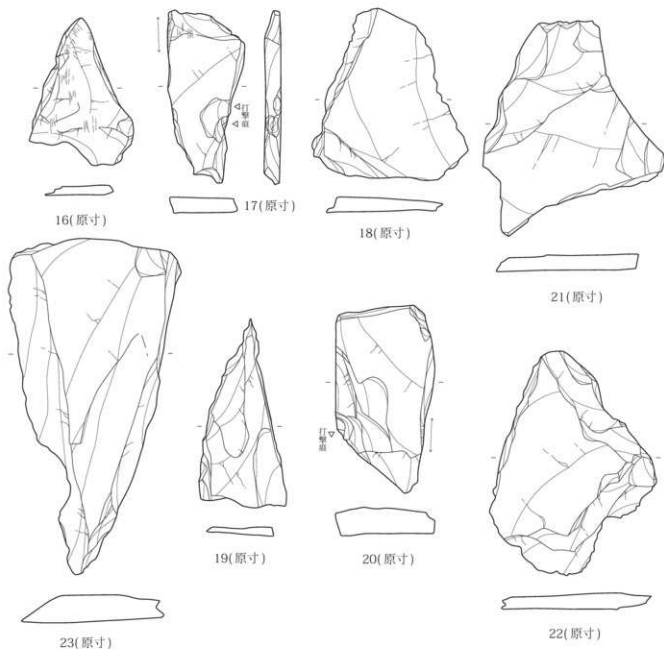
調査区中央やや東寄りで検出された。H18を切り、P54～57に切られる。隅丸長方形の平面形態で、N-Eに長軸方位をとり、長軸長4.55m、短軸長3.87m、壁残高0.50m、面積13.35㎡の規模である。カマドは北壁中央東寄りに石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド東の東北隅には貯蔵穴が構築されている。南壁中央下に構築されるP5は出入口施設と考えられるが、P2～P3については主柱穴として捉えて良いか否か判断できない。カマド部分を除く壁下には周溝が巡っている。

遺物は土師器、石器、鉄製品が出土している。土師器には坏、甕、壺の器種が認められる。坏は須恵器坏蓋模倣形態の2や半球状を呈する1、平坦な底部から口縁部が開く3の形態が混在する。甕は体部に最大径を有する4と口縁部に最大径を有する5が存在する。いずれも、調整はナデ、ケズリである。壺は小型広口の6が1点出土した。石器は磨石、磨敲石、磨製石鏃製作時の片岩の剥片、石核が出土している。鉄製品は角釘が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は6世紀中葉の所産と考えられる。



第15図 H 10号竪穴建物(1)

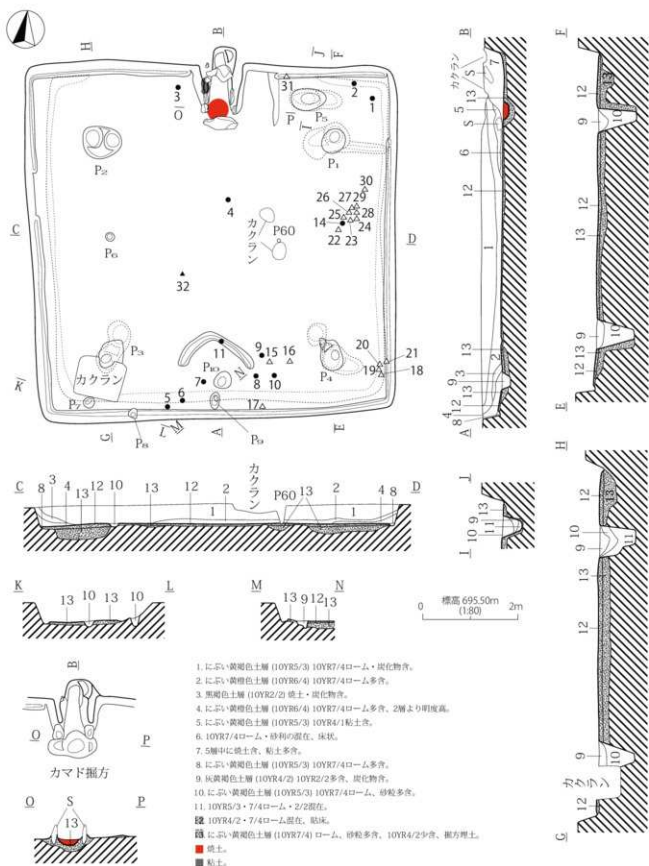


第16図 H10号竪穴建物(2)

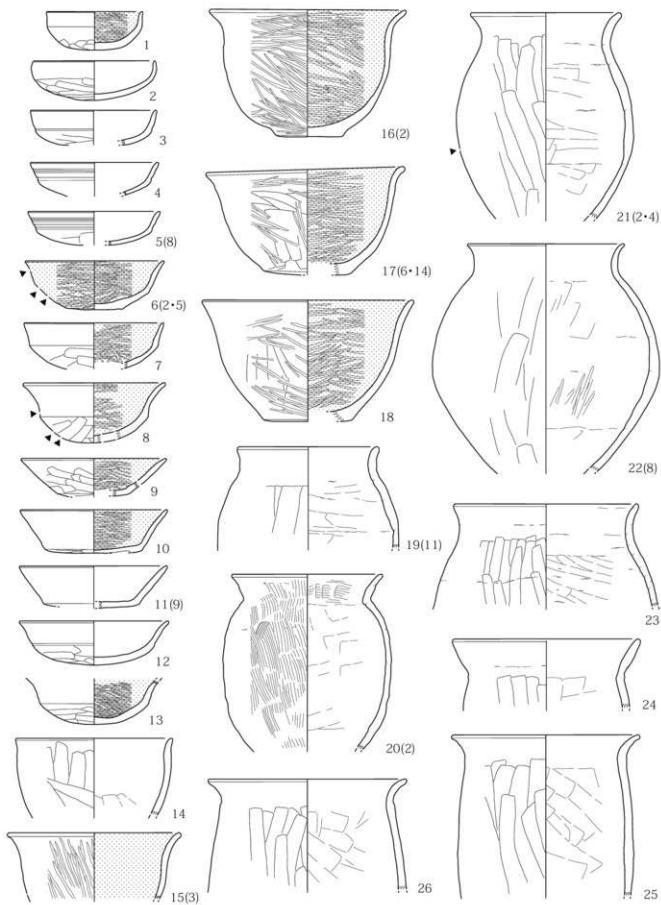
## H13号竪穴建物(第10・11図)

調査区中央東側で検出された。P48・58に切られ、H8を切る。N-1°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.32m、短軸長3.94m、壁残高0.25m、面積13.50㎡の規模であり、南壁中央に方形の張出部分を有する長方形の平面形態である。カマドは北壁中央やや東寄りに火床だけが残存していた。3基検出されたピットは主柱穴か否か判断できないが、P1からはφ6cmの柱痕が確認された。間仕切状の溝4本についても、本址のものか重複するH13に帰属するものか判断できない。重複するH8に帰属するものであれば、山梨県や諏訪地方の影響と考えられる。

遺物は土師器、弥生土器、土製品、石器が出土している。土師器には坏、鉢、甕、壺、甎の器種が認められる。坏は半球状と半球状の底部から短い口縁部が外反する形態が存在する。鉢は丸底から内湾しながら立ち上がった体部から短い口縁部が外反する形態である。甕は5・4のような小型甕と、体部に最大径を有する7のような大

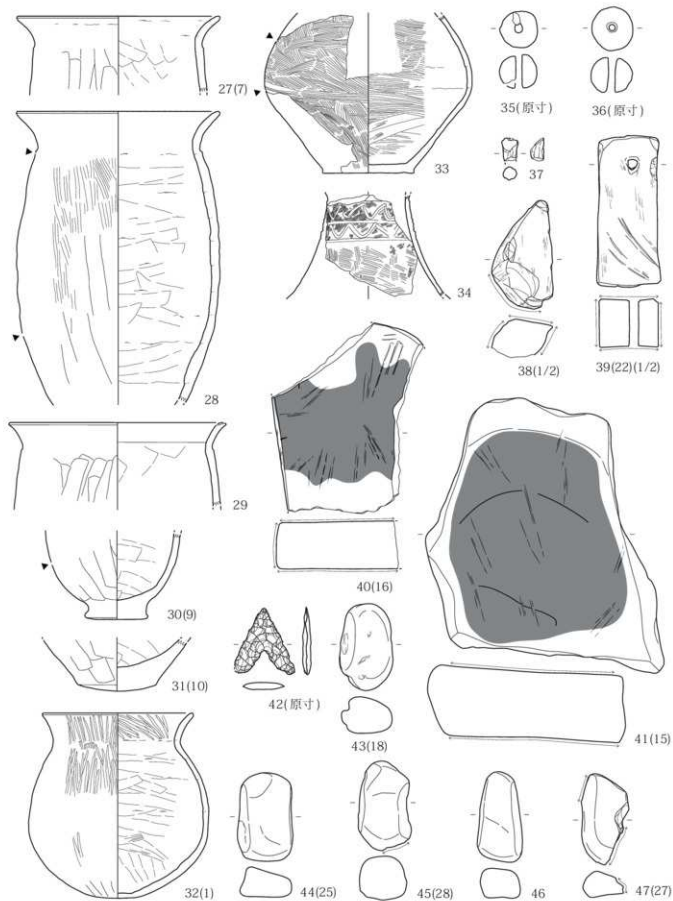


第17図 H 11号竪穴建物(1)

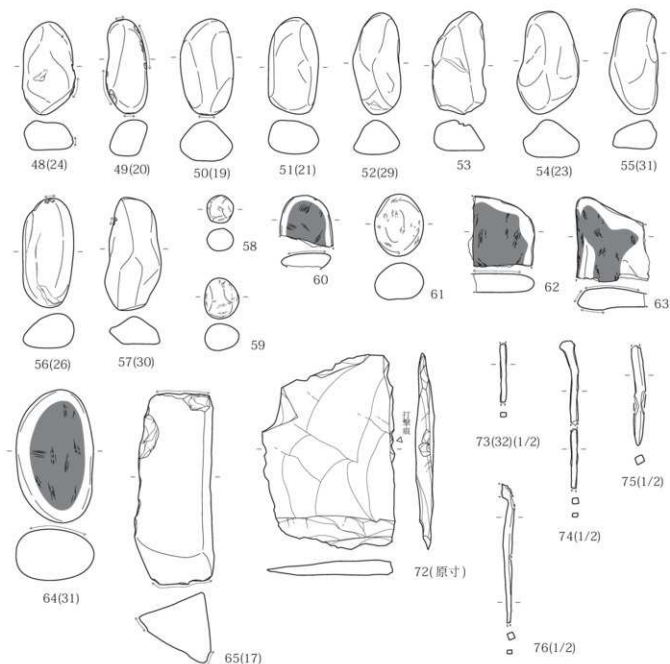


第18图 H 11号整穴建物(2)





第19图 H 11号整穴建物(3)



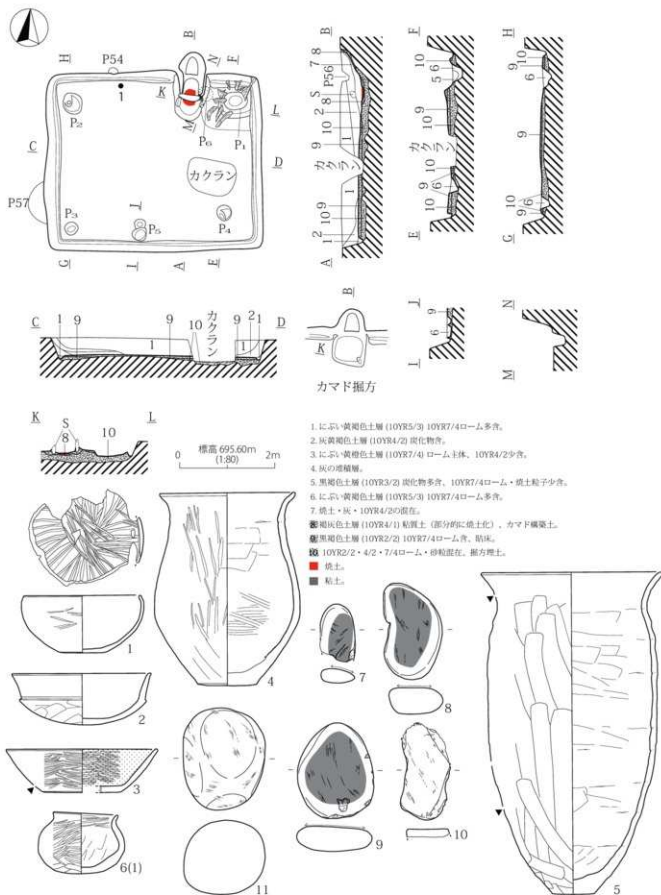
第20図 H11号竪穴建物(4)

型のものが出土している。壺は扁形のもの、甔は単孔の植木鉢形のものそれぞれ1点出土している。弥生土器はコの字重ね文の台付甕が1点出土した。土製品はカマドの支脚が2点出土した。石器には編物石、磨石、磨砕石、2次加工のある剥片、磨製石鏃製作時の片岩の剥片が出土している。弥生土器及び剥片は重複するH13に帰属するものである。

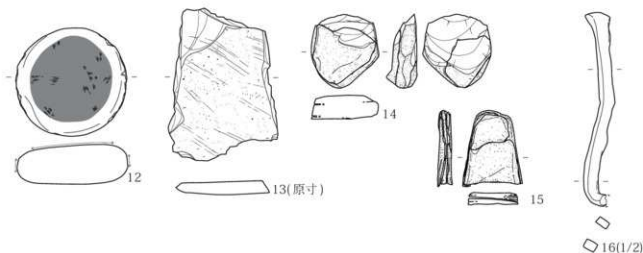
以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と思われる。

#### H14号竪穴建物(第25図)

調査区東側で検出された。P50を切る。壁残高0.57mの規模である。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。調査範囲内にカマド、支柱穴は存在しないが、壁下には周溝が巡り、南北方向に展開する間仕切が1本検出された。また、掘方からピットが1基検出されている。



第21図 H 12号竪穴建物(1)



第22図 H12号竪穴建物(2)

遺物は土師器、須恵器、石器が各1点出土している。土師器は甕の体部片、須恵器は壺の底部片、石器は磨礫石である。

以上の出土遺物から本址は6世紀中葉の所産と思われる。

#### H15号竪穴建物（第26～28図）

調査区中央で検出された。H18・16を切り、H13に切られる。隅丸方形の平面形態で、N-25°-Wに長軸方位をとり、長軸長6.58m、短軸長6.33m、壁残高0.65m、面積34.25㎡の規模である。カマドは北壁中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。均等に配置されたP1～P4の4基のピットが主柱穴である。φ10cm～20cmの柱痕が確認された。南壁下中央東寄りに構築されたP5・6は出入口施設である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。カマド東脇の掘方から検出されたP8は貯蔵穴と思われる。本址は焼矢遺構であり、床面上には炭化材が散乱していた。

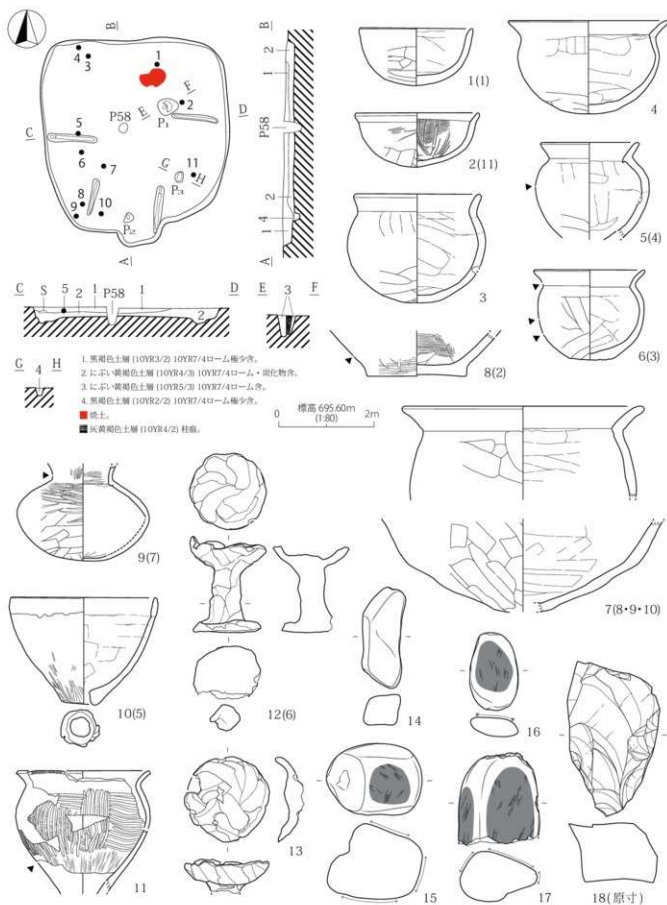
遺物は土師器、弥生土器、石器、石製品、鉄器、鉄製品が出土した。土師器には坏、高坏、鉢、甕の器種が認められる。坏は半球状のものと、半球状の底部から口縁部が短く直立するもの、短く外反するものが存在する。いずれも暗文状のヘラミガキ調整が施される。高坏は須恵器坏蓋模倣形態の坏部片である。鉢は半球状の底部から口縁部が短く外反する坏を大型にしたものである。甕の多くは体部に最大径を有する。調整は基本的にナデ、ケズリであるが、一部ハケメが認められる。弥生土器はH8に帰属するものであろうコの字重ね文の台付甕片が1点出土している。石製品は滑石製の白玉、石製模造品勾玉・剣形や石錐が出土している。石器は編物石、砥石、磨石、磨製石鏃製作時の片岩剥片が認められる。片岩剥片はH8に帰属するものである。鉄器は刀子が、鉄製品は器種不明品が各1点出土した。

以上の出土遺物から本址は5世紀後葉の所産と思われる。

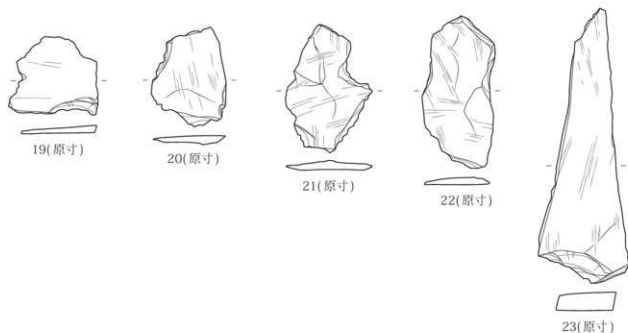
#### H16号竪穴建物（第29図）

調査区中央で検出された。H12・15、D7、P52・53に切られる。隅丸長方形の平面形態で、N-60°-Wに長軸方位をとり、長軸長4.38m、短軸長3.13m、壁残高0.16m、面積11.10㎡の規模である。均等に配置されたP1～P4の4基が主柱穴である。φ16～20cmの柱痕が確認された。P2・3の間には地焼炬が構築される。東壁下の掘方から検出されたP8・9は出入口施設と思われる。P6からは鹿角が検出された。

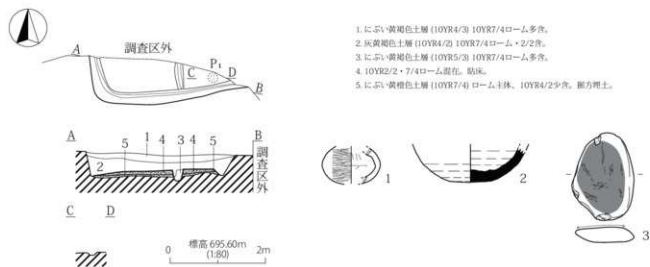
遺物は弥生土器、石器が出土した。弥生土器には鉢、高坏、甕、壺の器種が認められる。鉢は内外面赤彩が施される。口縁部には柳描波状文が巡る。高坏は脚部片である。外面には赤彩が施される。短脚である。甕は受口



第23図 H 13号竪穴建物(1)



第24図 H 13号竪穴建物(2)



第25図 H 14号竪穴建物

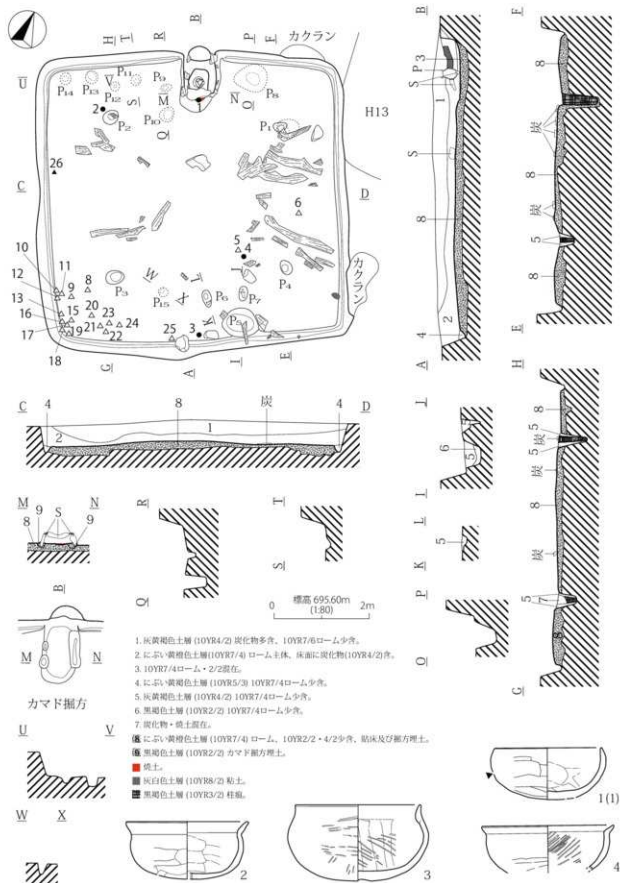
で、口縁部に1条の櫛描波状文が巡る。頸部には簾状文、体部上半には重複しない櫛描波状文が巡る。壺は口縁部に櫛描波状文、頸部にはへら描斜走文を横位羽状に巡らせた下部に鋸歯文が巡る。赤彩は施されないが、体部は稜を成して強く張る。石器は磨礫石と片岩製の磨製石鏃未製品と剥片が出土しており、本址で磨製石鏃が製作されていたものと思われる。

本址はその出土遺物の特徴から弥生時代後期前半吉田期の所産と考えられる。

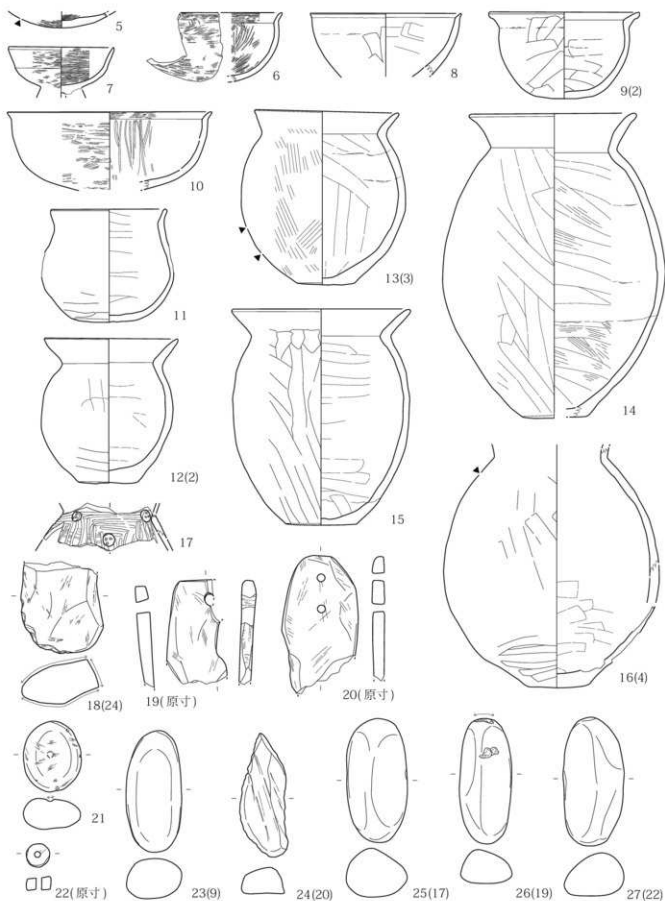
#### H17号竪穴建物（第30図）

調査区中央北端で検出された。H8を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.61mの規模である。ピットは5基検出されたが支柱穴は判然としない。壁下には周溝が巡る。本址は中世の竪穴建物の可能性が高く、所謂「貼床」は存在せず、掘方もない。

出土遺物は鉄製品が1点認められるだけであり、時期は不明である。

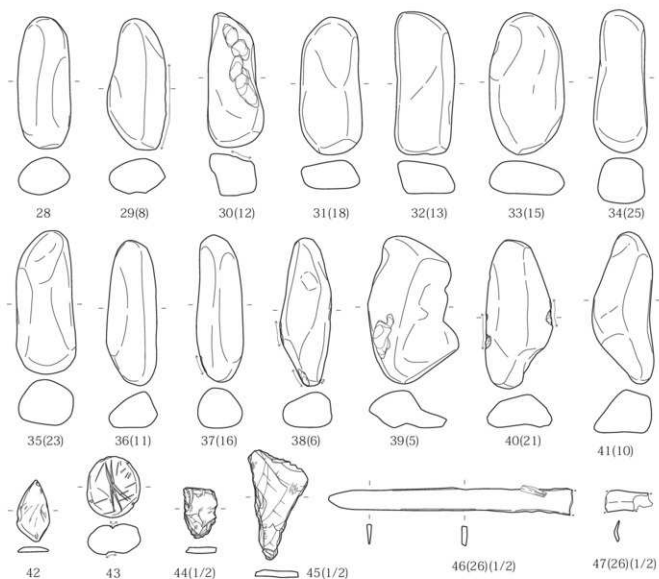


第26図 H15号竪穴建物(1)



第27图 H 15号整穴建物(2)



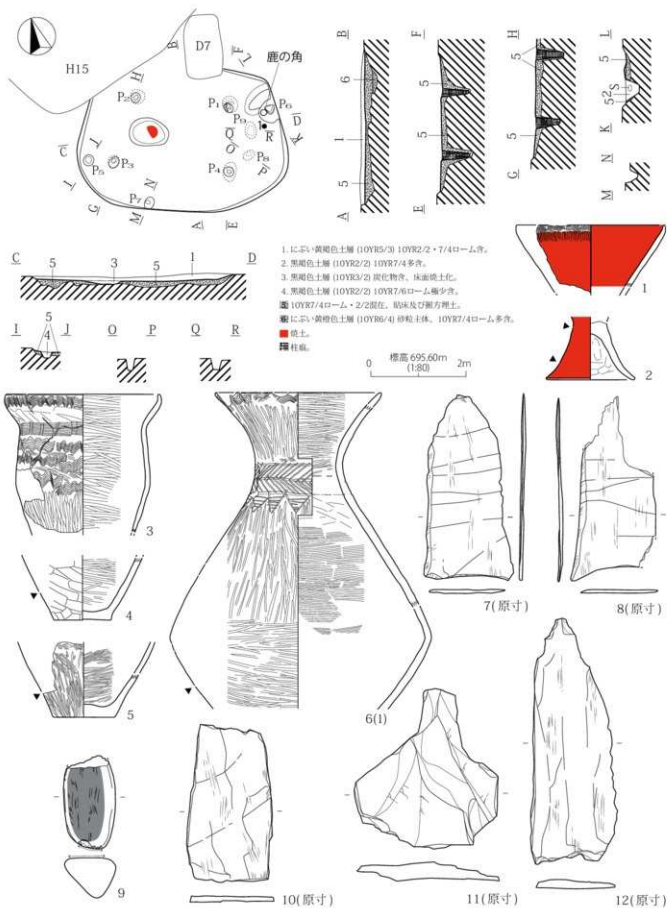


第28図 H15号竪穴建物(3)

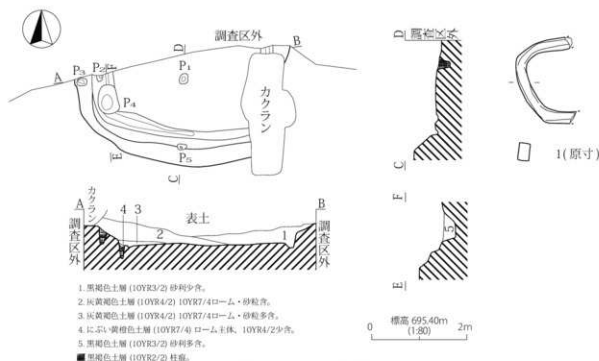
## H18号竪穴建物(第29図)

調査区中央で検出された。H8・16を切る。隅丸方形の平面形態で、N-20°-Wに長軸方位をとり、長軸長6.14m、短軸長5.81m、壁残高0.45m、面積27.48㎡の規模である。北壁中央部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築される。P1・2は主柱穴であり、φ20cmの柱痕が確認された。東南隅の壁下に構築されたD1は貯蔵穴と思われる。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、石器、鉄製品が出土している。土師器には環、高環、鉢、甕、壺、甔の器種が認められる。環は半球状のものや、半球状の底部から口縁部が短く外反するもの、平坦な底部から体部が開き、口縁部が短く直立するものが認められる。調整は暗文状のヘラミガキやナデである。高環は環部に稜を有し、脚が折れ曲がるもので、暗文状のヘラミガキが施される。鉢は半球状の底部から口縁部が短く外反する環を大きくしたものであるが、ミガキ調整ではなくナデ、ケズリ、ハケメ調整が施される。甕は体部に最大径を有する。壺は体部が球胴でミガキ調整ものであるが、17は形態的には甕である。しかし、口縁部内外面に赤彩が施されるため壺とした。甔は底部が全開するもので、19は甕と同様な器形であるが、他の個体は口縁部に最大径を有する。石器は砥石、台石、打製石斧、磨製石鏃、磨石の器種が認められる。打製石斧、磨製石鏃は混入品である。鉄製品は器種不明の破片が1点出土した。



第29図 H16号竪穴建物



第30図 H17号竪穴建物

以上の出土遺物から本址は5世紀後葉の所産と思われる。

#### H19号竪穴建物 (第34図)

調査区中央北端で検出された。H19を切る。東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N-10°-Wに長軸方位をとり、壁残高0.67mの規模である。北壁中央部分と思われる部分に、石芯を粘土で被覆したカマドが構築される。P1・2は主柱穴である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。P2と西壁下の周溝間の掘方から間仕切が検出された。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土した。土師器には坏、甔の器種が認められる。坏は須恵器坏蓋模倣形態のものである。甔は底部が欠損する植木鉢形態のものである。須恵器は甔の口縁部片が1点出土している。弥生土器は櫛描斜走文が施文される甕の底部が1点出土した。石器は磨製石鏃及び磨製石鏃製作時の片岩の剥片が出土している。石器及び弥生土器は重複するH9に帰属するものである。

以上の出土遺物から本址は6世紀中葉の所産と思われる。

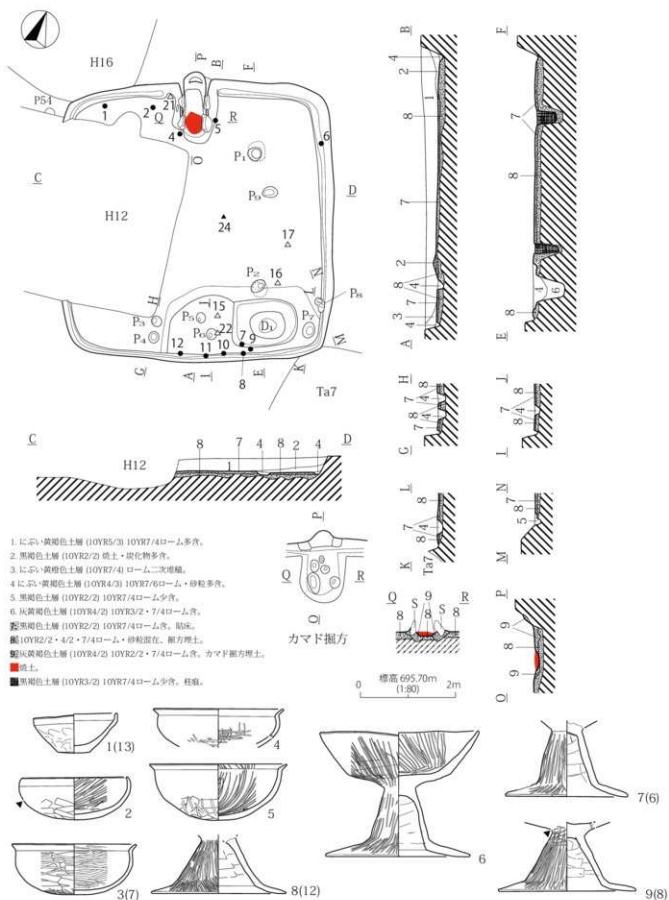
#### H20号竪穴建物 (第35図)

調査区中央で検出された。H11に切られる。隅丸長方形の平面形態で、N-9°-Wに長軸方位をとり、長軸長4.50m、短軸長4.24m、壁残高0.11m、面積16.75㎡の規模である。均等に配置されるP1~P3が主柱穴である。φ11cmの柱痕が確認されている。炉は竪穴中央に存在する。地焼炉である。南壁中央壁下に構築されたP4・5は出入口施設と思われる。周溝は有さない。

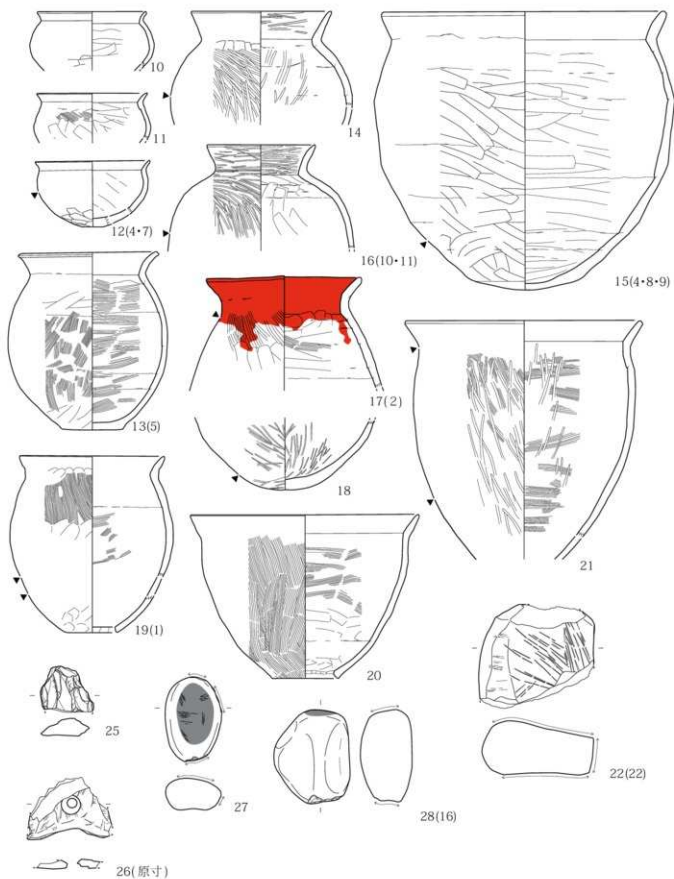
遺物は弥生土器が3点出土した。甕の底部片、櫛描波状文が施される台付甕の体部片、ミニチュア土器である。以上の出土遺物から本址は弥生時代後期の所産と考えられる。

#### H21号竪穴建物 (第36図)

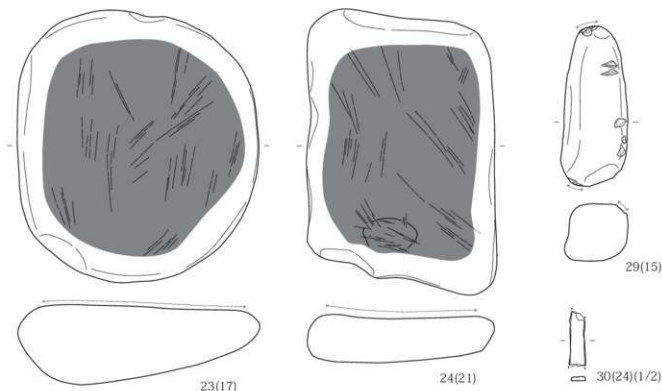
調査区中央で検出された。H11・22、D10~15に切られる。隅丸長方形の平面形態で、N-13°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.96m、短軸長3.59m、壁残高0.19m、面積15.93㎡の規模である。均等に配置される



第31図 H 18号壁穴建物(1)



第32图 H 18号整穴建物(2)



第33図 H 18号竪穴建物(3)

P1・2は主柱穴である。掘方から古いピットが確認されており、本址は建て替えが行われたことが明らかとなった。P5・7は出入口施設と思われるが、他のピットについては性格は不明である。重複する他遺構に破壊されたことにより、炉は存在しなかった。

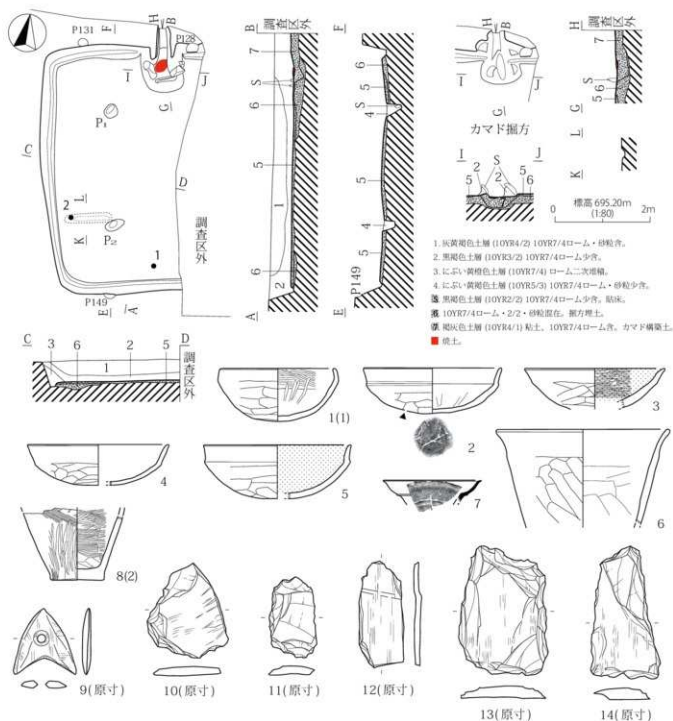
遺物は弥生土器、石器、鉄製品が出土している。弥生土器には台付甕、壺の器種が認められる。台付甕は台あるいは台の接合部分の破片が2点出土した。壺は3点全て口縁部片である。3は口唇部～口縁部に縄文が施文され、2本のヘラ描沈線による波状文が施される。4は受口で、口唇部に刻目が加飾される。5は内外面赤彩で、受口である。口縁部に櫛描波状文が巡り、円形の貼付文が付加されている。石器は砥石、凹石、剥片の器種が認められる。砥石は混入品である。鉄器は長茅鏝が、鉄製品は角釘及び不明製品が出土しているが、全て混入品である。

以上の出土遺物の特徴から、本址は弥生時代中期後半栗林期の所産と思われる。

#### H 22号竪穴建物(第37・38図)

調査区中央で検出された。Ta11、P61・62・160・161に切られ、H21、D30・31を切る。隅丸長方形の平面形態で、N-21°-Wに長軸方位をとり、長軸長5.66m、短軸長5.07m、壁残高0.58m、面積23.11㎡の規模である。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが主柱穴である。φ10～20cmの柱痕が確認されている。カマドは北壁中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。東南隅近くの南壁下には貯蔵穴が構築される。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、周溝から4基の主柱穴に向かい間仕切が伸びている。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器、石製品、鉄器、鉄製品が出土している。土師器には坏、高坏、甕、壺の器種が認められる。坏は半球状の底部から口縁部が短く外反する形態で、暗文状のミガキ調整が施される。高坏は坏部に稜を持ち、脚が折れる形態で、暗文状のヘラミガキが調整が施される。甕は最大径を体部に有する胴張の形態が主体であるが、10は最大径を口縁部に持つ。壺は底部が1点のみ出土した。須恵器は甕の口縁部片と、櫛歯による刺突列が施される甕の体部片が出土した。縄文土器は後期の深鉢口縁部片が1点出土している。



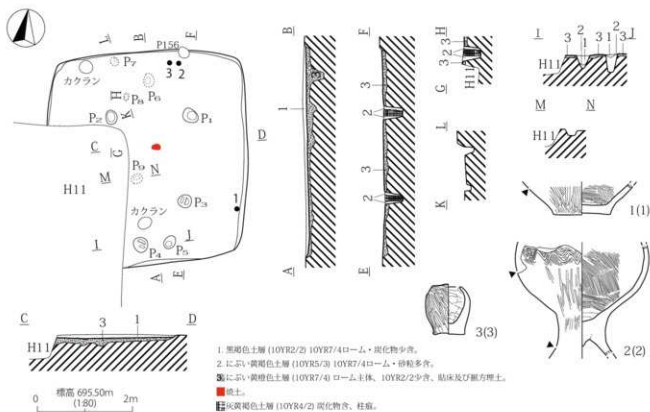
第34図 H19号竪穴建物

石器は砥石、打製石鏃、編物石、磨石、磨製石鏃製作時の片岩削片、使用痕がある剥片が出土している。石製品は石製模造品の白玉・有孔円盤・剣形が出土している。鉄器は鎌が、鉄製品は器種不明品が出土した。

以上の出土遺物から本址は5世紀後葉の所産と考えられる。

#### H23号竪穴建物 (第39～42図)

調査区中央西南で検出された。F2に切れ、H2、P190を切る。隅丸長方形の平面形態で、 $N-9^{\circ}-E$ に長軸方位をとり、長軸長6.86m、短軸長5.48m、壁残高0.31m、面積32.70㎡の規模である。均等に配置される



第35図 H20号竪穴建物

P1～P4の4基のピットが主柱穴である。φ16cmの柱痕が確認されている。炬は緑石を有する地焼炉で、P1・2間に構築される。南壁下に構築されるP8・27の2基のピットは出入口施設と思われる。周溝は有さない。

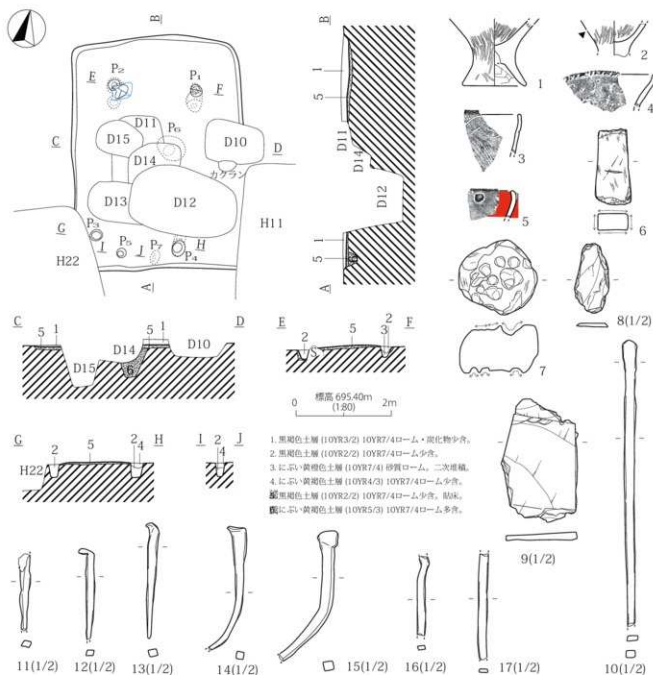
遺物は土師器、弥生土器、石器、石製品、鉄製品が出土している。土師器は混入品で、半球状の底部から口縁部が短く外反する坏である。弥生土器には鉢、甕、壺の器種が認められる。鉢は内外面赤彩が施される。高坏の可能性もある。甕は体部片が2点、口縁部片が2点、体部片が1点出土している。口縁部片は受口で、5は口唇部～口縁部に縄文が施文され、口縁部にはヘラ描の波状文が巡る。6は口縁部に櫛描斜走文が施される。体部片7は櫛描簾状文が頸部を巡り、体部には櫛描波状文が施文される。壺8・9は口縁部内面及び外面体部は赤彩が施されるが、口縁部外面が無彩となる。頸部には櫛描横線文・波状文が巡る。10はヘラ描の横線文・鋸歯文内に櫛描斜走文を充填する。11はヘラ描平行沈線下に櫛描横線文を施文、12は櫛描横線文下のヘラ描鋸歯文内に櫛描斜走文を充填する。石器は砥石、台石、石鎌、磨石、磨斫石、磨製石鎌、磨製石鎌未製品、磨製石鎌製作時の片岩剥片などが出土している。砥石15は両面に鍋状の稜を有する特異な形態であるが、同様のものが一本柳遺跡Xでも出土しており、双方ともに磨製石鎌製作址という共通点が認められる。磨製石鎌の製作に特化した砥石かもしれない。鉄製品は器種不明のものが1点出土した、混入品と思われる。本址は磨製石鎌製作に関わる様々な剥片、未製品、製品が出土しており、磨製石鎌製作址と捉えられる。

以上の出土遺物の特徴から本址は、弥生時代中期後半栗林期最終末あるいは後期初頭の所産に位置図けられる。

#### H24号竪穴建物 (第43～44図)

調査区中央西寄りで検出された。P63・166・186に切られる。隅丸方形の平面形態で、N-2°-Wに長軸方位をとり、長軸長5.00m、短軸長4.53m、壁残高0.40m、面積18.04㎡の規模である。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが主柱穴である。φ16cmの柱痕が確認されている。カマドは北壁中央やや東寄りに石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。周溝から各主柱穴に向かい間仕切が掘





第36図 H21号竪穴建物

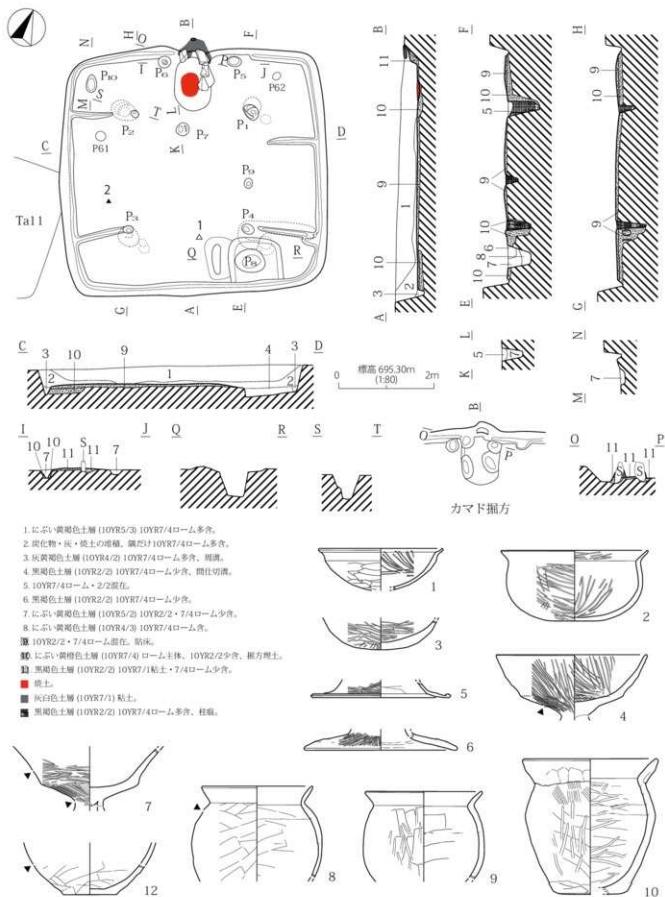
削されている。南壁下中央に構築されたP5は出入口施設と思われる。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には環、高環、鉢、甕、壺の器種が認められる。環は半球状の底部から口縁部が短く外反する形態のもので、鉢3はその大型である。鉢4は甕としても良いのかもしれない。高環は脚部の破片である。甕は体部に最大径を有する。壺は口縁部と底部の破片が各1点出土した。石器は9の石鏃未製品、33の磨製石鏃製作時の片岩剥片を除き編物石である。

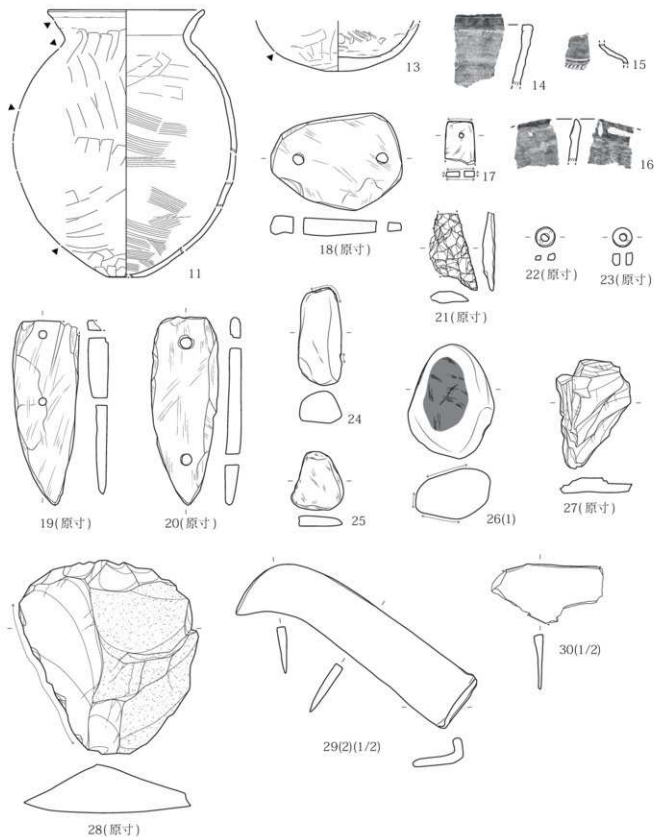
以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と考えられる。

#### H25号竪穴建物 (第45図)

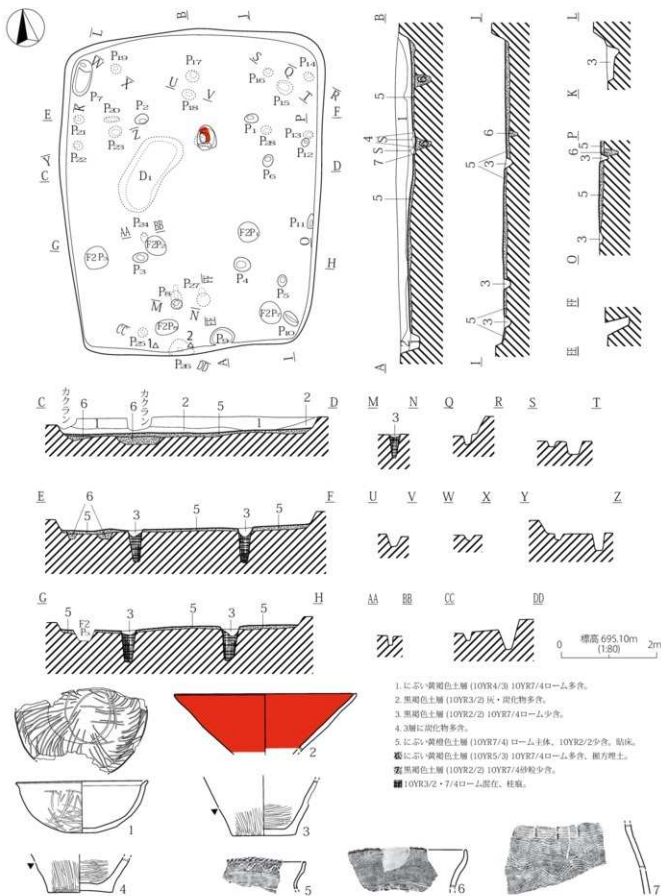
調査区北西端で検出された。H27、P174を切る。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.35mの



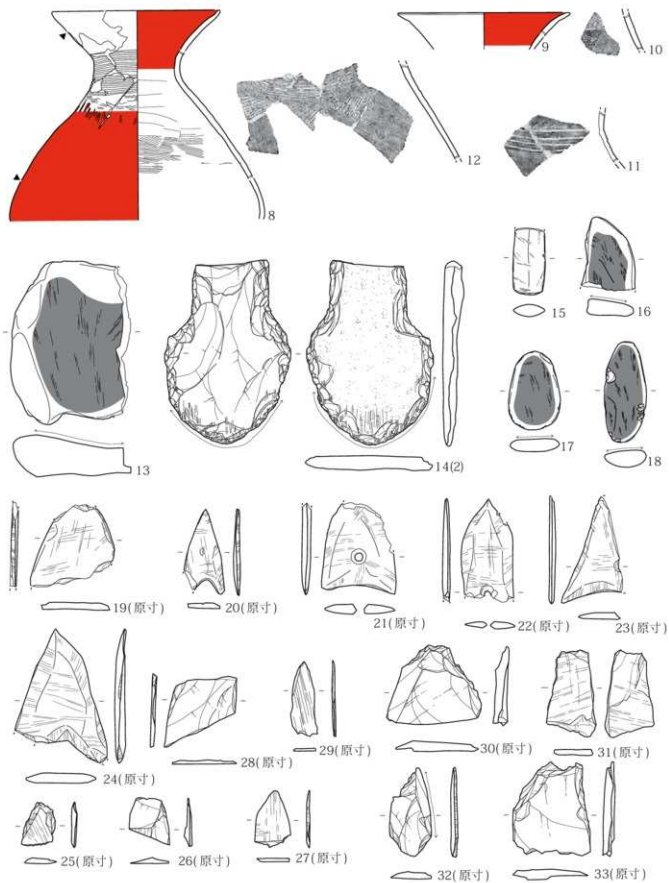
第37図 H 22号竪穴建物(1)



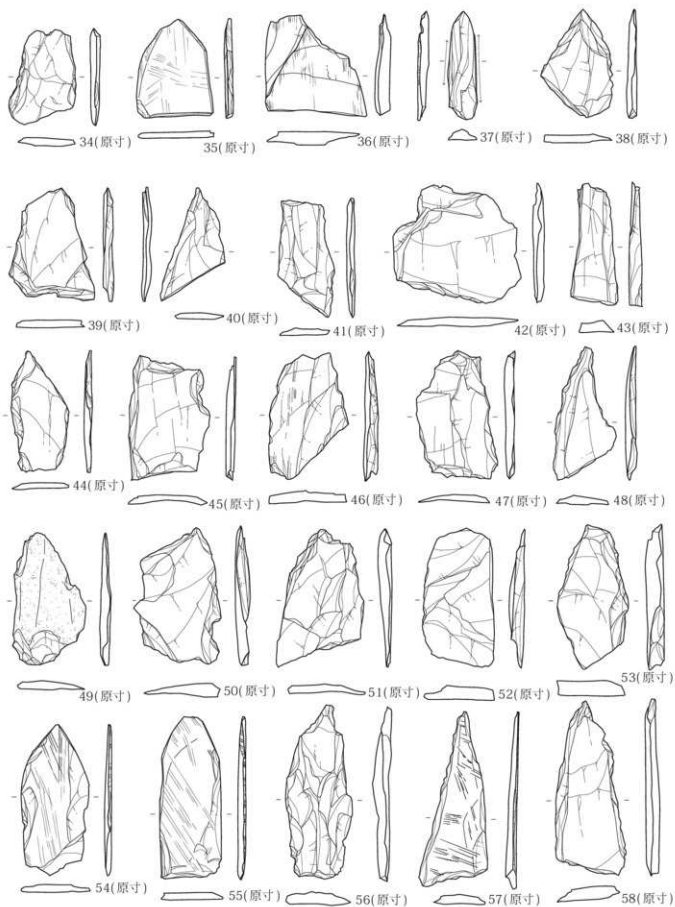
第38図 H 22号竪穴建物(2)



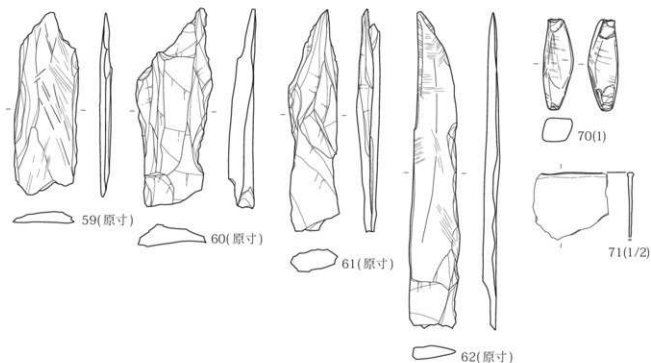
第39図 H 23号竪穴建物(1)



第40图 H 23号壁穴建物(2)



第41图 H 23号整穴建物(3)



第42図 H23号竪穴建物(4)

規模である。調査範囲内にはカマド、炉、ピット、周溝等は存在しない。

遺物は土師器が出土している。器種的には坏、甕、甍の器種が認められる。

出土遺物は断片的であり、本址の時期は不明である。

#### H26号竪穴建物（第46図）

調査区北西端で検出された。P172に切られる。壁残高0.45mの規模である。調査範囲内にはカマド、炉、ピット、周溝等は存在しない。

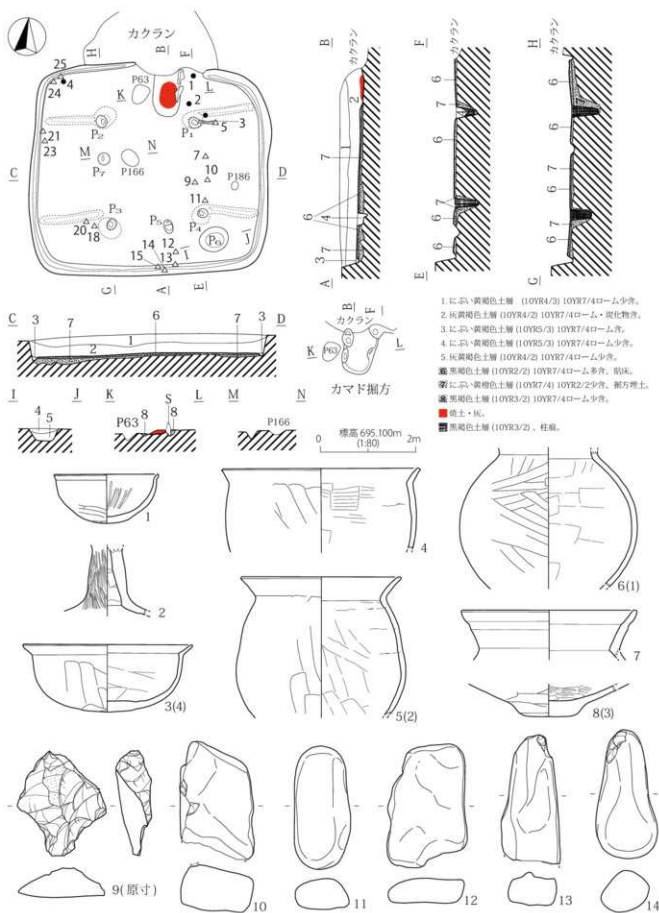
遺物は弥生土器が出土している。器種的には全て甕である。1は底部片、2は口唇部刻目、頸部下櫛描斜走文が施される。3は受口で口縁部、頸部下に櫛描波状文が施される。4も受口で口唇部・口縁部に縄文が施文される。頸部下には櫛描波状文が施される。5は体部片で、櫛描斜走文が縦羽状に施される。

以上の出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期後半粟林期の所産と思われる。

#### H27号竪穴建物（第47～48図）

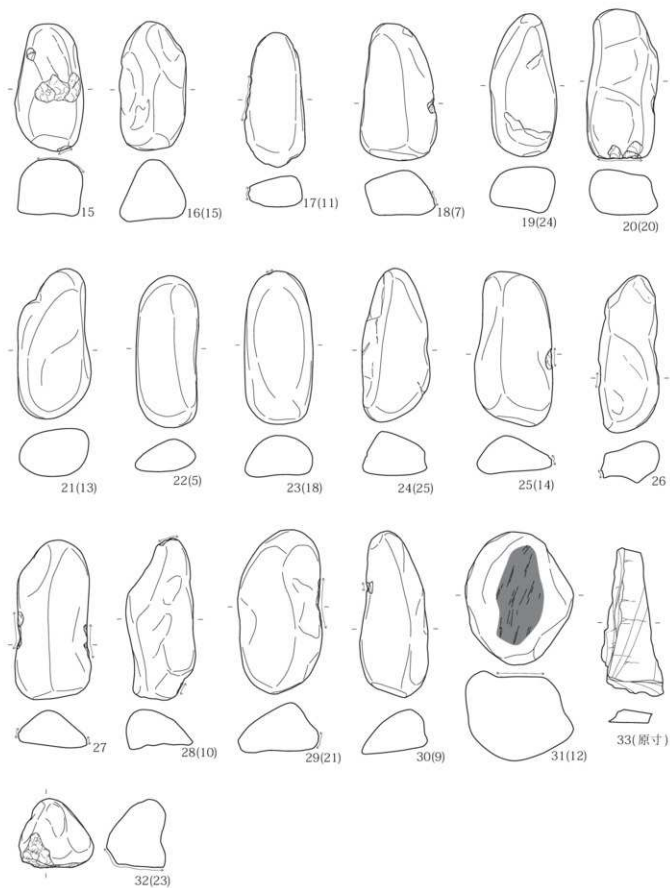
調査区北西端で検出された。H25、Ta3、P174・175に切られる。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N-1°-Wに長軸方位をとり、壁残高0.55mの規模である。P1・2の2基のピットが主柱穴である。φ16cmの柱痕が確認されている。カマドは北壁中央と思われる場所に構築されていたが掘方状態であった。南壁下と東壁下の一部分に周溝が巡る。壁下から主柱穴に向かって間仕切が構築されていた。掘方から一回り小型の竪穴遺構が検出されたため、本址は建替えが行われたことが明らかとなった。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。土師器には坏、甕の器種が認められる。坏は底部片であり器形は不明である。甕は口縁部に最大径を有するものがほとんどであるが、4は体部に有する。底部も6のように突出するものと、7のように平坦なものが存在する。須恵器は坏蓋片が1点出土した。弥生土器は混入品である。高坏、台付甕、甕の器種が出土している。高坏はガラス形で、坏部下部に小突起が4ヶ貼付される特異な形態である。石器は砥石、凹石、打製石斧、石鏃、編物石、磨製石鏃製作時の片岩剥片が認められる。弥生

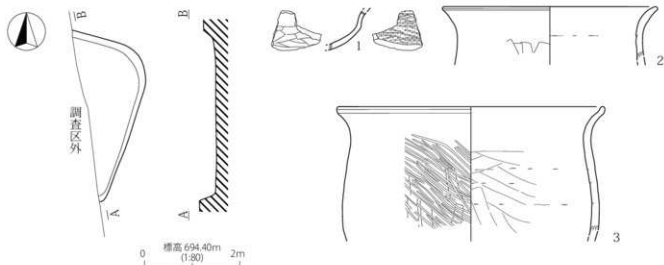


第43図 H 24号竪穴建物(1)

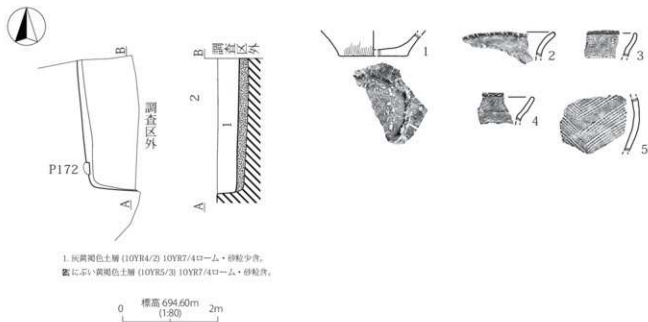




第44図 H 24号竪穴建物(2)



第45図 H 25号竪穴建物



第46図 H 26号竪穴建物

時代のもと思われる石器や土器が出土していることから、本址は調査区外で弥生時代の遺構と重複しているものと思われる。

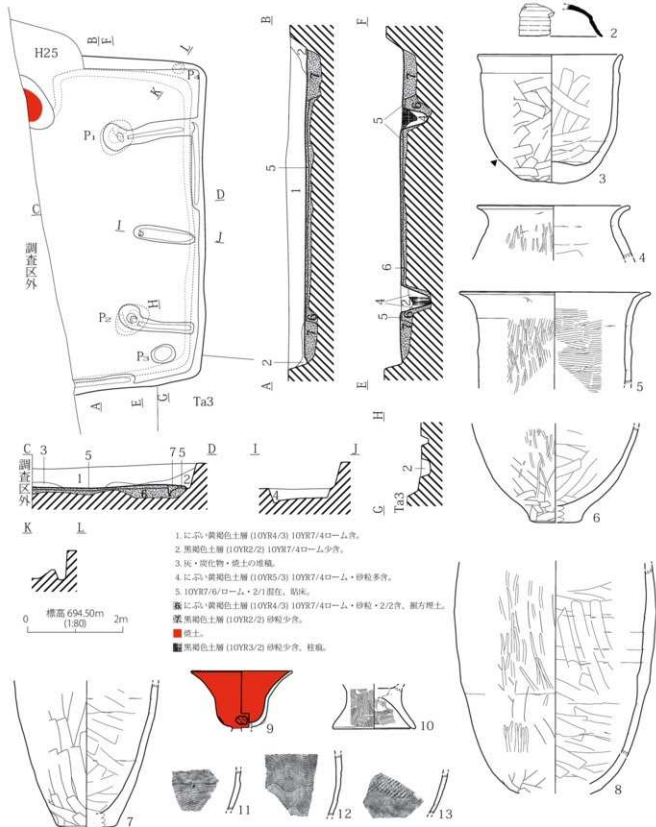
以上の出土遺物の特徴から本址は6世紀中葉の所産と思われる。

#### H28号竪穴建物 (第49図)

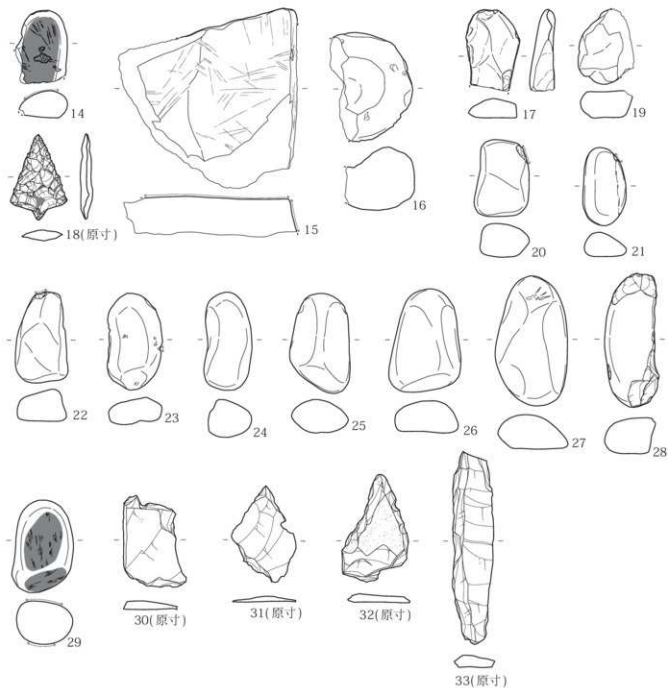
調査区北西端で検出された。炉及びピット1基が残存していた。出土遺物は皆無である。炉は緑石を伴う地焼炉であり、形態的に当遺跡で検出された弥生時代中期後半粟林期のものと同様であることから、概期の所産と思われる。

#### H29号竪穴建物 (第50図)

調査区西端で検出された。D18・37・38・46、P181に切られ、H6を切る。西方向に調査区外に延びるため



第47図 H 27号竪穴建物(1)



第48図 H 27号竪穴建物(2)

全容は不明である。壁残高0.50mの規模である。北壁の調査区外境に地山削出のカマド袖部分が一部露出している。対面する南壁部分がわずかに張り出しており、その壁下に1基のピットが構築されている。貯蔵穴と思われる。東壁下半部分に周溝が存在した。

遺物は連弁文の青磁碗片1点と鉄製刀子が1点出土した。青磁は重複する他遺構からの混入品である。刀子は一部木質が残存していた。

以上の出土遺物からは本址の年代は推し量れない。よって不明である。

#### Ta 1号竪穴建物(第51図)

調査区東南で検出された。H5、D43を切り、D6に切られる。隅丸長方形の平面形態で、 $N-1^{\circ}-W$ に長軸



第49図 H 28号竪穴建物

したが、主柱は存在しない。火処は認められない。

遺物は土師器、弥生土器、石器、鉄製品が出土した。土師器は所謂「かわらけ」と高坏脚部が認められる。高坏は混入品である。弥生土器は重三角文の台付裏片が1点出土しているが、混入品である。石器は敲石が1点、鉄製品は角釘が1点出土した。

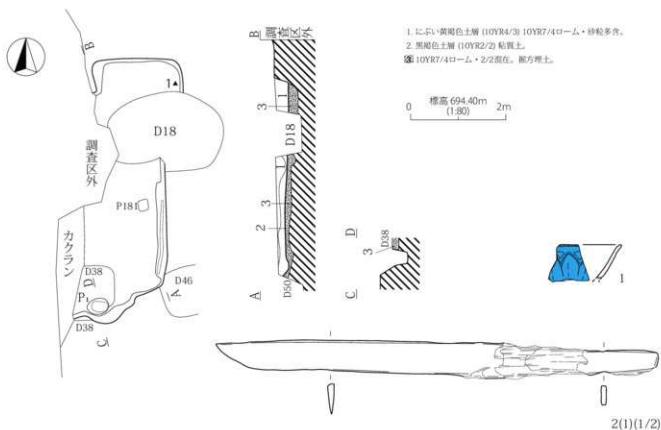
方位をとり、長軸長4.77m、短軸長3.24m、壁残高0.22m、面積12.88㎡の規模である。床面上から12基のビットが検出された。主柱は判然としないが、P1・7でφ10cm前後の柱痕が確認された。東壁は2段の石積が成されていた。火処は認められない。

遺物は土師器、青磁、石器、鉄器が出土している。土師器高坏脚片は重複するH5に帰属するものである。青磁は連弁文の碗片が1点認められる。石器は台石、磨石、磨敲石、敲石が出土している。鉄器は柄が折れ曲がった刀子が1点出土している。

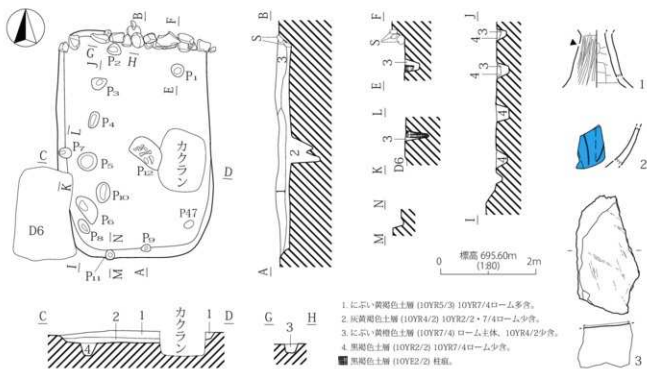
出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

#### Ta 2号竪穴建物 (第52図)

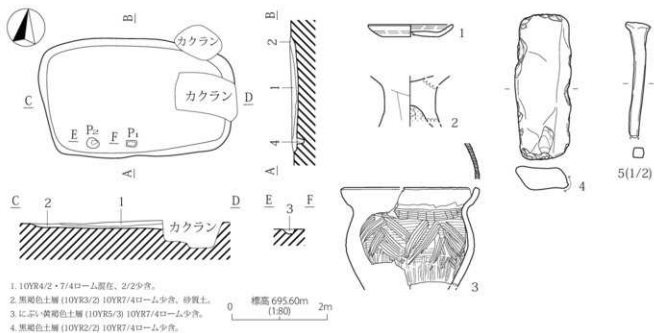
調査区東南で検出された。他遺構との重複関係は有さない。隅丸長方形の平面形態で、N-80°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.08m、短軸長2.46m、壁残高0.19m、面積7.58㎡の規模である。床面上から2基のビットが検出され



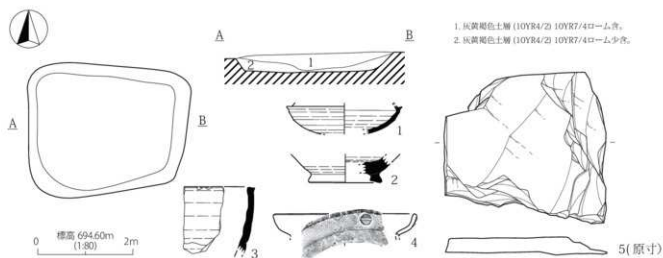
第50図 H 29号竪穴建物



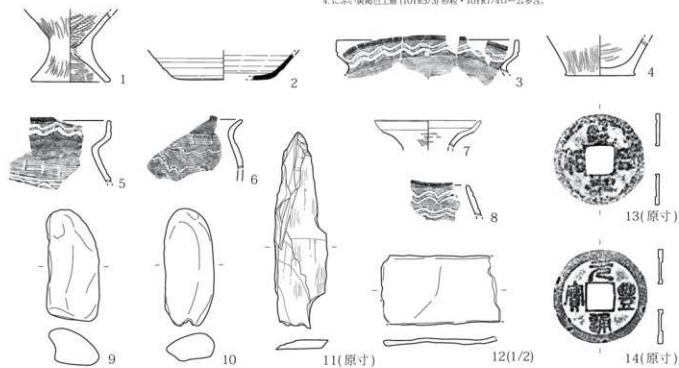
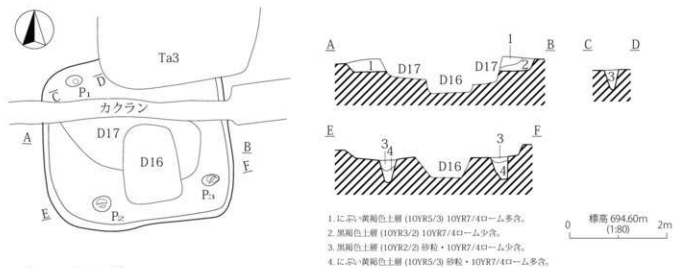
第51図 Ta 1号竪穴建物



第52図 Ta 2号竪穴建物



第53図 Ta 3号壁穴建物



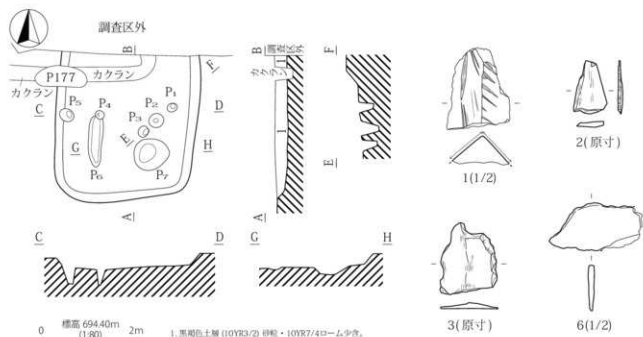
第54図 Ta 4号壁穴建物

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

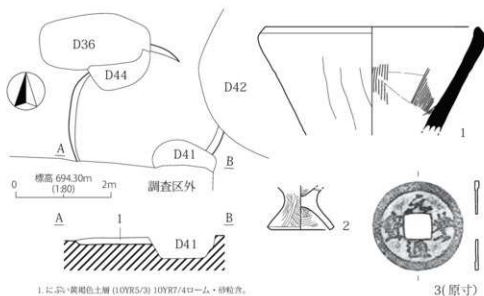
### Ta 3号竪穴建物（第53図）

調査区北西で検出された。H27、Ta4、D19を切る。隅丸長方形の平面形態で、 $N-87^{\circ}-W$ に長軸方位をとり、長軸長3.36m、短軸長2.74m、壁残高0.40m、面積6.17㎡の規模である。ピット、火処は認められない。遺物は須恵器、弥生土器、石器が出土している。全て混入品である。

遺構形態から本址は中世の所産と思われるが、根拠はない。



第55図 Ta 5号竪穴建物



第56図 Ta 6号竪穴建物

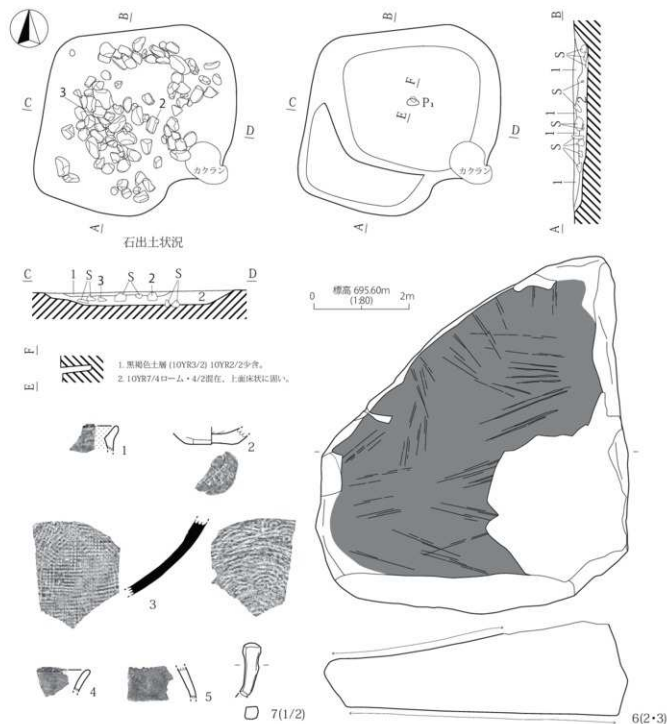


## Ta4号竪穴建物 (第54回)

調査区北西で検出された。Ta3、D16・17に切られる。隅丸方形の平面形態で、N-84°-Eに長軸方位をとり、長軸長3.86m、短軸長3.55m、壁残高0.30m、面積10.81㎡の規模である。床面上で検出された3基のピットは主柱穴の可能性が高い。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄製品、銅製品が出土した。鉄製品、銅製品以外は混入品である。鉄製品は器種不明、銅製品は古銭が2枚である。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。



第57図 Ta 7号竪穴建物

## Ta 5号竪穴建物 (第55図)

調査区西南で検出された。P177に切られ、Ta13、D27・42を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長3.00m、壁残高0.25mの規模である。

遺物は石器、鉄製品が出土している。石器は砥石、磨製石鏃製作時の片岩割片である。割片は混入品である。鉄製品は器種不明品である。

遺構形態から本址は中世の所産と思われるが、根拠はない。

## Ta 6号竪穴建物 (第56図)

調査区西南で検出された。D36・41・42・44に切られる。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.15mの規模である。

遺物は須恵器播鉢、弥生土器台付甕、銅製品古銭が出土した。弥生土器以外は本址に伴うものであろう。

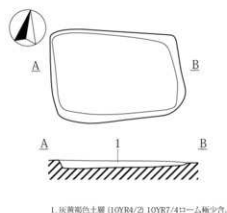
出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

## Ta 7号竪穴建物 (第57図)

調査区東南で検出された。H18を切る。N-28°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.38m、短軸長4.11m、壁残高0.35m、面積9.62㎡の規模である。隅丸の長方形を交差させたような平面形態である。竪穴内部には多量の石が内包されていた。Ta1のような石積が崩れた、あるいは破壊された結果と思われる。遺構中心には小径のピットが1基穿たれていた。

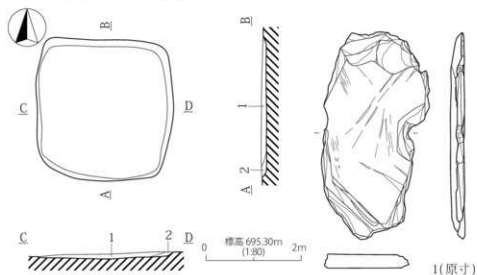
遺物は土師器坏・甕、須恵器甕、弥生土器壺、石器台石、鉄製品角釘が出土している。台石、角釘以外は混入品である。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。



1. 灰黄褐色土層 [10YR4/2] 10YR7/4ローム層少含。

第58図 Ta 8号竪穴建物



1. 灰黄褐色土層 [10YR4/2] 10YR7/6ローム少含。

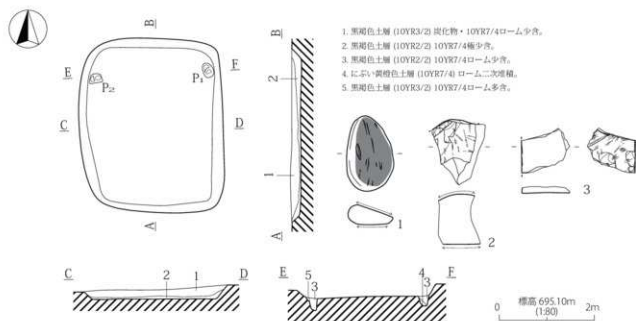
2. 灰黄褐色土層 [10YR4/2] 10YR7/6ローム多含。

第59図 Ta 9号竪穴建物

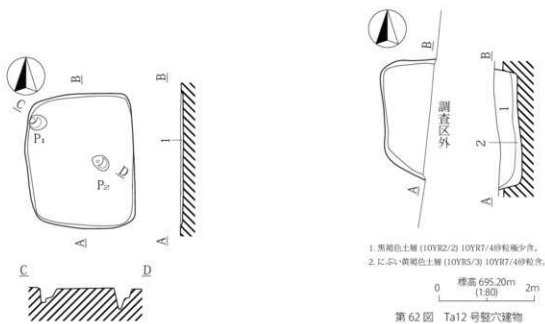
## Ta 8号竪穴建物 (第58図)

調査区中央付近で検出された。H9を切る。N-78°-Eに長軸方位をとり、長軸長2.86m、短軸長1.98m、壁残高0.24m、面積4.31㎡の規模である。隅丸長方形の平面形態である。

遺物は皆無であり、本址の所属時期は不明である。



第60図 Ta10号竪穴建物



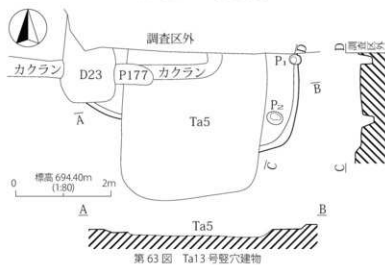
第62図 Ta12号竪穴建物



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・砂粒少量。



第61図 Ta11号竪穴建物



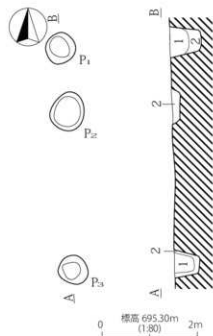
第63図 Ta13号竪穴建物

## Ta9号竪穴建物（第59図）

調査区西南で検出された。他遺構との重複関係は有さない。隅丸方形の平面形態で、 $N-3^{\circ}-E$ に長軸方位をとり、長軸長2.96m、短軸長2.91m、壁残高0.16m、面積6.87㎡の規模である。

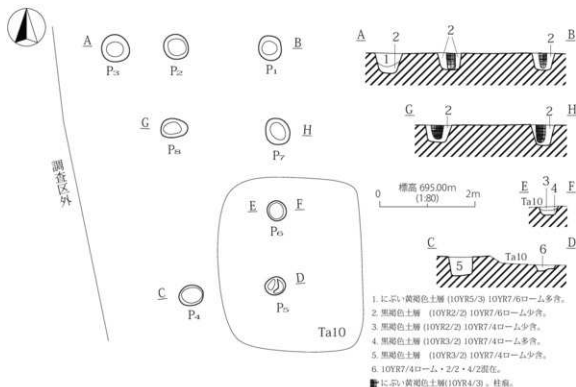
遺物は磨製石鉄製作時の片岩割片が1点出土したが、本址に伴うものではない。

本址の所属時期は不明である。



1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4砂粒少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4砂粒含。

第64図 F1号掘立柱建物址



1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム多含。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ローム少含。
  3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
  4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム多含。
  5. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
  6. 10YR7/4ローム・2/2・4/2混在。
- にぶい黄褐色土層(10YR4/3)。柱敷。

第65図 F2号掘立柱建物址

## Ta10号竪穴建物（第60図）

調査区西南で検出された。F2を切る。隅丸長方形の平面形態で、 $N-O^{\circ}-E$ に長軸方位をとり、長軸長3.67m、短軸長3.02m、壁残高0.30m、面積8.29㎡の規模である。北西隅と北東隅の近くの壁下に検出された2基のピットは支柱穴かもしれない。

遺物は砥石が2点と、硯が1点出土した。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

## Ta11号竪穴建物（第61図）

調査区西南で検出された。

H22、P184・188を切る。隅丸長方形の平面形態で、 $N-3^{\circ}-W$ に長軸方位をとり、長軸長2.83m、短軸長2.25m、壁残高0.09m、面積5.46㎡の規模である。床面上で検出されたピットの性格は不明である。

遺物は不明鉄製品が1点出土した。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

## Ta12号竪穴建物(第62図)

調査区北東で検出された。

D1、P33を切る。東方向に調査区外に延びるため、全容は不明である。壁残高0.36mの規模である。

遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

## Ta13号竪穴建物(第63図)

調査区西南で検出された。Ta5、D23、P177に切られる。壁残高0.24mの規模である。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。2基検出されたピットの性格は不明である。

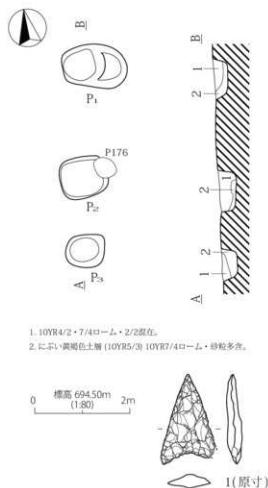
遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

## 第2節 掘立柱建物

## F1号掘立柱建物(第64図)

調査区北東端で検出された。検出範囲では他遺構との重複関係は認められない。N-3°-Wに長軸方位をとる。桁行長4.76m、桁行柱間寸法1.37~3.39mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。



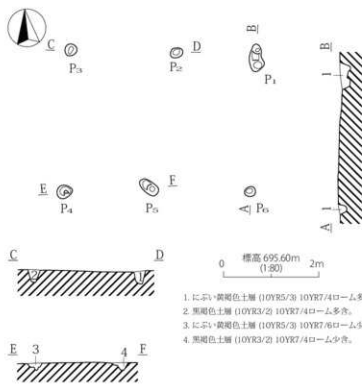
第66図 F3号掘立柱建物址

## F2号掘立柱建物(第65図)

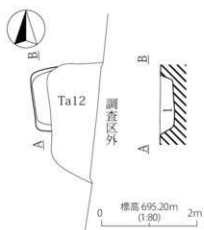
調査区南西端で検出された。Ta10に切られ、H23を切る。

N-0°-Wに長軸方位をとる。桁行長5.03m、桁行柱間寸法1.55~3.54m、梁間柱間寸法1.31~2.23mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

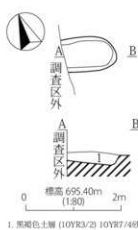


第67図 F4号掘立柱建物址



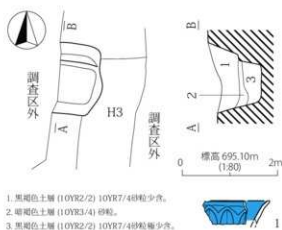
1. 赤い・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6砂粒含。

第68図 D1号土坑



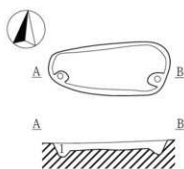
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4砂粒含。

第69図 D2号土坑



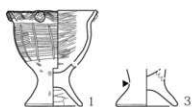
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4砂粒少含。  
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂粒。  
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4砂粒極少含。

第70図 D3号土坑

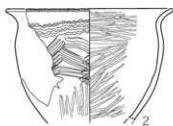


1. 赤い・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少含。

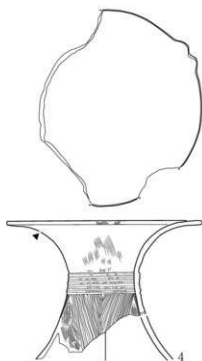
0 標高 695.70m (1:80) 2m



3

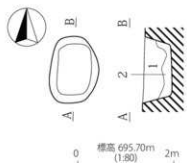


2



4

第71図 D4号土坑



1. 赤い・黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・2/2含。  
2. 赤い・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム・10YR2/2少含。

第72図 D5号土坑



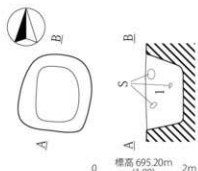
1. 赤い・黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。

第73図 D6号土坑



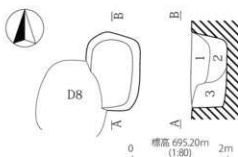
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。  
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含。

第74図 D7号土坑

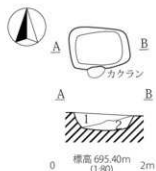


1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・砂粒少々。

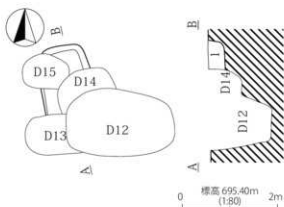
第75図 D8号土坑

1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒多。  
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・砂粒少々。  
3. 灰黄褐色土層 (10YR7/4) ローム・砂粒多。

第76図 D9号土坑

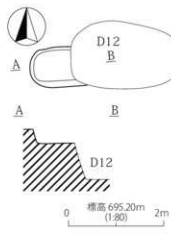
1. 灰黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多。  
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少々。

第77図 D10号土坑

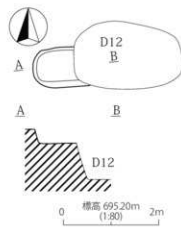


1. 灰黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多。

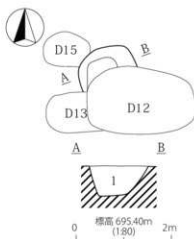
第78図 D11号土坑



第79図 D12号土坑

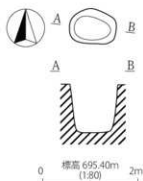


第80図 D13号土坑



1. 灰黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多。

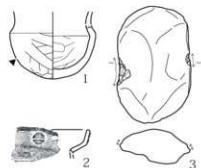
第81図 D14号土坑



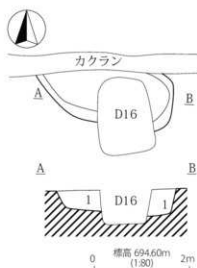
第82図 D15号土坑



1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 土層に10YR7/4ローム多。

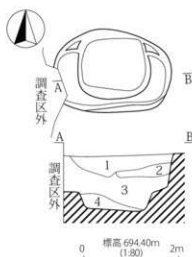


第83図 D16号土坑



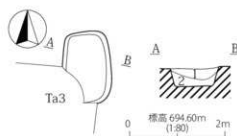
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム状。

第84図 D17号土坑



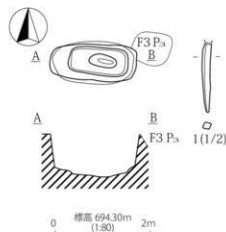
1. 赤い・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム状。  
2. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。  
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム状。  
4. 灰黄褐色土層 (10YR6/2) 砂層。

第85図 D18号土坑

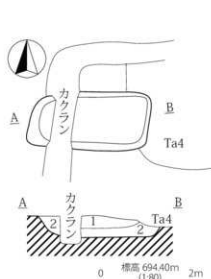


1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒多含。  
2. 赤い・黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒含。

第86図 D19号土坑



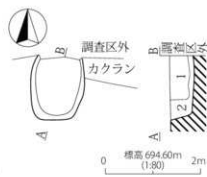
第89図 D22号土坑



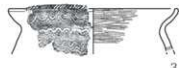
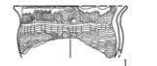
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒少含。  
2. 10YR7/4ローム・4/2混在。



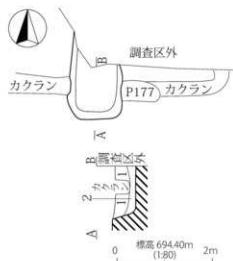
第87図 D20号土坑



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。  
2. 10YR2/2・4/2・7/4ローム混在。入海裡土。



第88図 D21号土坑

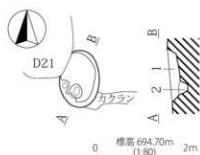


1. 赤い・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・砂粒多含。  
2. 赤い・黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒多含。



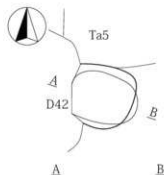
第90図 D23号土坑



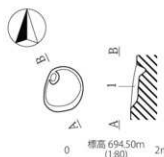


1. 灰・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多。  
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少。

第91図 D24号土坑

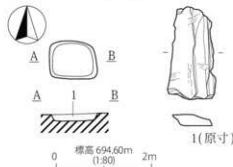


第94図 D27号土坑



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・砂粒少。

第96図 D29号土坑



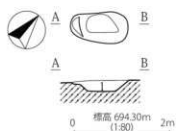
1. 灰・黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多。2/2少。

第99図 D32号土坑



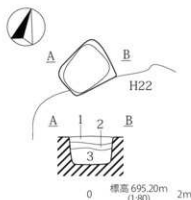
1. 灰・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・砂粒少。

第92図 D25号土坑



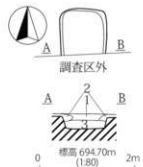
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム・砂粒極少。

第95図 D28号土坑



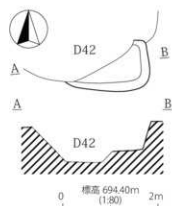
1. 灰・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多。  
2. 灰・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/2少。  
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂粒少。

第97図 D30号土坑

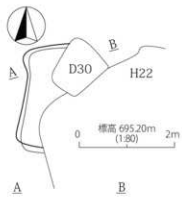
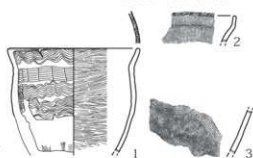


1. 灰黄褐色土層 (10YR6/2) 10YR7/4ローム少。  
2. 浅黄褐色土層 (10YR8/4) ローム二次堆積。  
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少。

第100図 D33号土坑

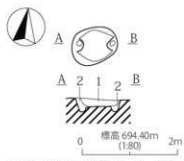


第93図 D26号土坑



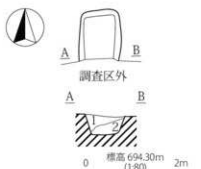
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒多。

第98図 D31号土坑



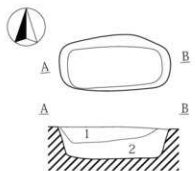
1. 灰・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム。10YR2/2少。  
2. 灰・黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒多。

第101図 D34号土坑



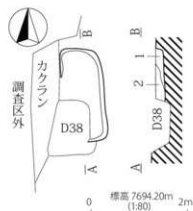
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂粒多含。

第102図 D35号土坑



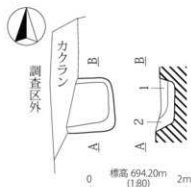
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒含。

第103図 D36号土坑



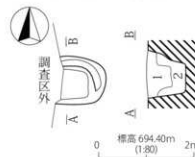
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多含。

第104図 D37号土坑



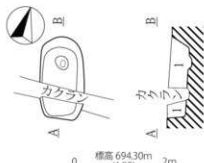
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・2/2少含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。

第105図 D38号土坑



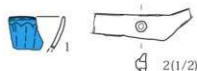
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。

第106図 D39号土坑



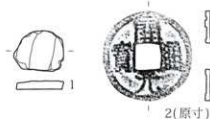
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。

第107図 D40号土坑

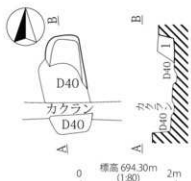


1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR2/2・7/4ローム少含。

第108図 D41号土坑

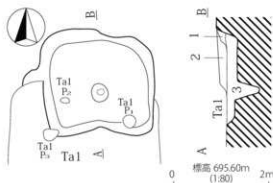


2. (原寸)



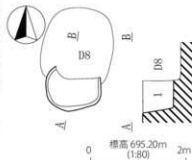
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。

第112図 D45号土坑



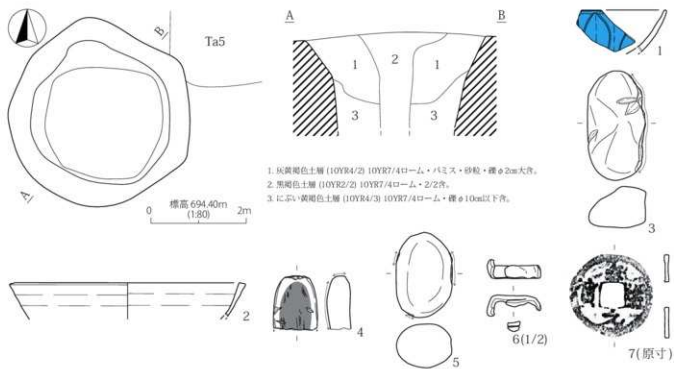
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/2少含。

第110図 D43号土坑

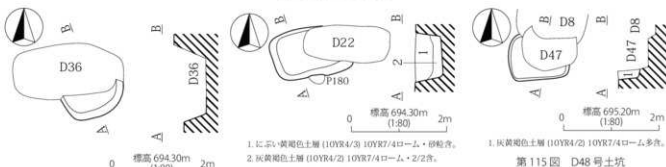


1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム少含。

第114図 D47号土坑



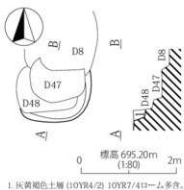
第109図 D42号土坑



第111図 D44号土坑

第113図 D46号土坑

第115図 D48号土坑



第116図 D49号土坑

## F 3号掘立柱建物(第66図)

調査区西端で検出された。P176に切られる。N-9°-Wに長軸方位をとる。桁行長3.94m、桁行柱間寸法1.55~2.36mの規模である。

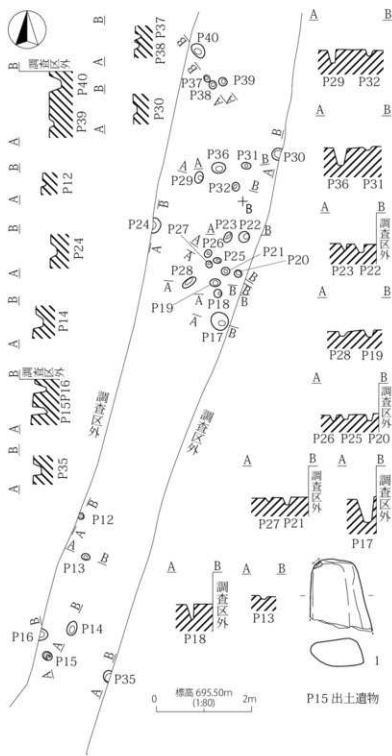
出土遺物は黒曜石製の打製石鏃が1点出土しているが、本址に帰属するものではないため、本址の時期は不明である。

## F 4号掘立柱建物(第67図)

調査区中央南端で検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-83°-Wに長軸方位をとる。桁行長3.95m、梁間長3.02m、面積11.69㎡、桁行柱間寸法1.72~2.73m、梁間柱間寸法1.31~2.23mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。





第118図 P12～32・35～40号ピット

## 第V章 まとめ

### 第1節 弥生時代

中期後半粟林期終末の資料がまとめて出土した。佐久地方における該期の代表的資料は枇杷坂遺跡群直路遺跡H1号住居址出土資料であるが、この資料以外にも良好な資料がなく、今回検出された資料は貴重なものである。また、調査された弥生時代竪穴建物では磨製石鉄製作所という一面を有しており、佐久地方における磨製石鉄の消長を捉えるうえでも重要である。

小山岳夫が弥生中期後半粟林3式とする当該資料は、壺型土器の最大径が胴部下位から中位に上がる傾向を示すものや、頸部文様帯に櫛形波状文・直線文と波状文を多段に施すもの、文様帯下に鋸歯文が付加されるもの、甕の口縁部が伸長し始めるもの、台付甕のコの字重ね文が重三角文に変容するものなどの出現を特徴とするが、当該遺跡の場合、壺型土器の頸部文様帯下への鋸歯文の付加は認められず、後続する後期の竪穴建物であるH16では認められる。また、当該遺跡H23で出土している口縁部外面のみ赤彩を施さない壺は佐久盆地では出土例があまりないが、善光寺平や中野・飯山地域では認められる。口縁部内面にのみ赤彩を施す例もある。善光寺平での出土例は多く、このような手法は善光寺平からの影響と捉えられそうである。時間的には中期後半粟林期にその萌芽が認められ、後期吉田期に増加する。善光寺平での出土遺跡を挙げると松原遺跡、吉田高校グラウンド遺跡、二ツ宮遺跡、塩崎遺跡、薬師堂遺跡、屋地遺跡

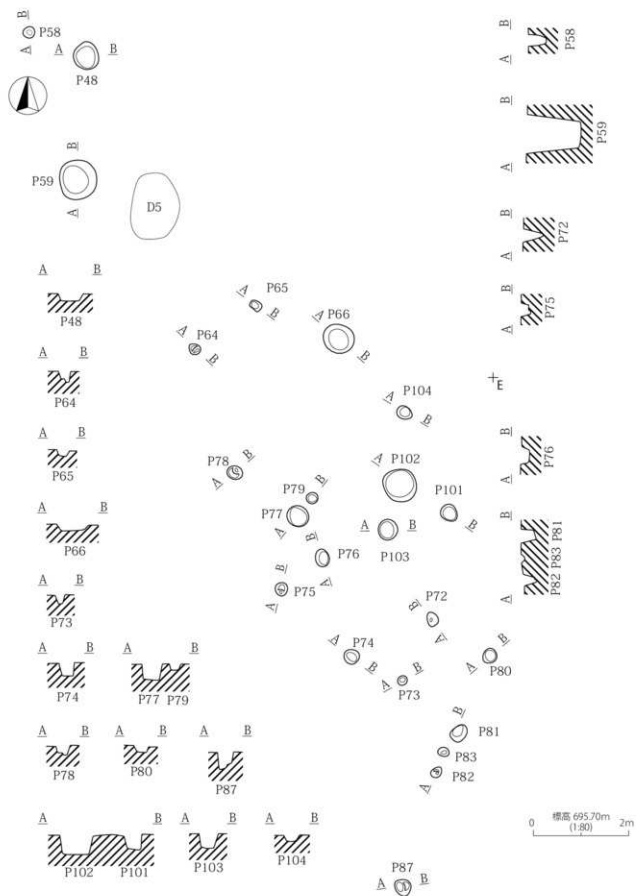
などがある。また、中野・飯山地域では粟林遺跡、小泉遺跡などがある。群馬県高崎市八幡遺跡出土の壺もこの系列に位置すると思われる、樽式土器ではこのような赤彩壺が箱清水土器文化圏より遅くまで存続するようである。

今回の調査では前述のような中期後半粟林期終末期の遺構に切られる粟林期の竪穴建物と、後期前葉吉田期の3期の竪穴建物が発見されたことになる。各時期毎の竪穴建物は以下のとおりである。

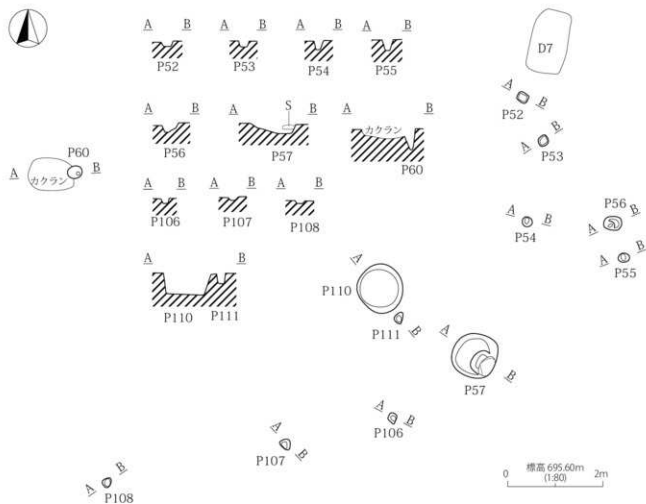
中期後半粟林期—H2、H28、D4

中期後半粟林期終末—H8、H9、H10、H23





第120図 P48・58・59・64～66・72～83・87・101～104号ピット



第121図 P52～57・60・106～108・110・111号ピット

## 後期前葉吉田期—H16

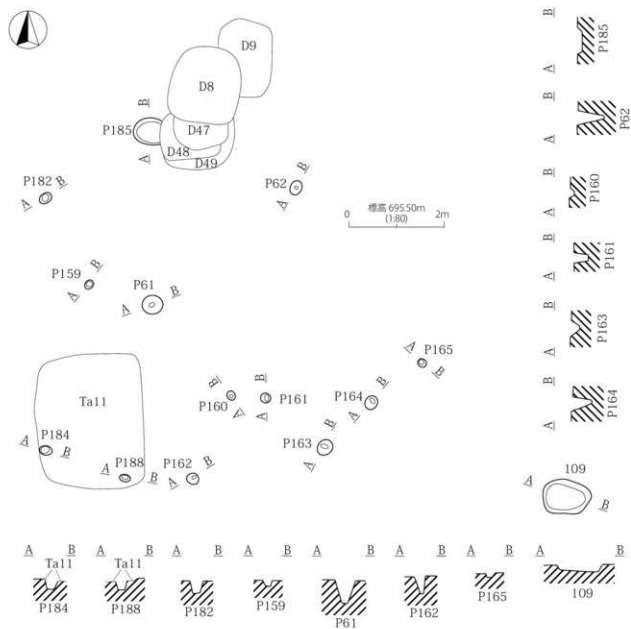
磨製石鏃の製作は中期後半栗林期末～後期前葉吉田期で行われており、その石材は片岩である。「西一本柳遺跡X」の報文中において馬場伸一郎氏は出土した弥生石器群の評価を行っている。(2005年佐久市埋蔵文化財調査報告書第127集第Ⅲ章)ここで馬場氏は、出土した磨製石鏃について製作工程の復元と共に、その製作地の時期について、後期段階と捉え、中期後半栗林期での製作を否定する材料が多いことを他の佐久市内の磨製石鏃出土遺跡を含め言及している。西一本柳遺跡Xにおいて磨製石鏃を出土し、後期住居址と位置づけられたH27・H34・H48・H77の内H27は小山岳夫編年の弥生時代後期1期、H34・H48・H77は栗林3式と捉えることも可能であろう。また、中期の住居址であるH5・H17は製作址と捉えうる内容があるように思われる。

今回の調査結果も踏まえ、佐久市内において磨製石鏃製作は弥生時代中期栗林3期に始まり、後期1期(吉田期前半)まで存続するものと捉えておきたい。ちなみに、現時点における最も新しい時期の磨製石鏃製作址は円正坊遺跡Ⅶで検出された弥生時代後期前半の資料群と考えられる。

## 第2節 古墳時代

古墳時代中期5世紀後葉から、後期6世紀中葉までの集落址が検出されている。土器様相から、3時期に区分したが、5世紀末から6世紀前半の半世紀に満たない短い期間内での変遷と思われる。竪穴建物の平面形態は基本的に方形に近い隅丸長方形で、北カマドである。支柱穴は4本で、壁下には周溝が巡り、カマドと対峙する南



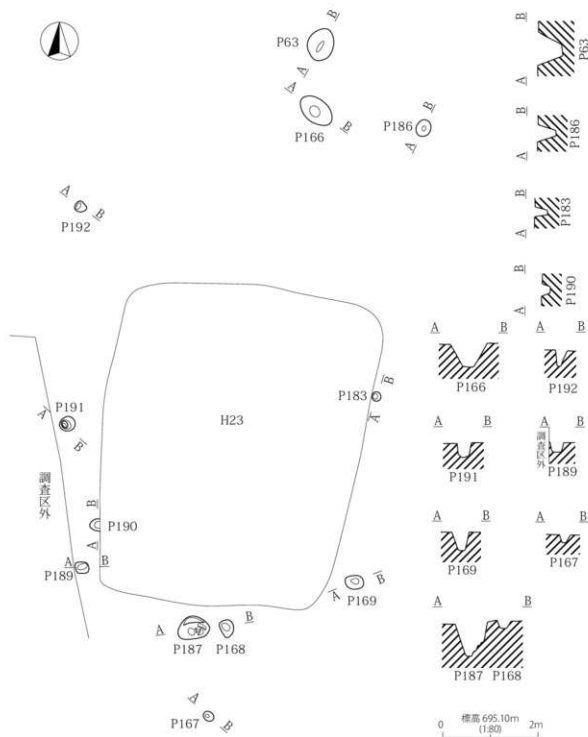


第122図 P61・62・109・159～165・182・184・188号ピット

壁下には出入口施設があり、貯蔵穴を持つものは、カマド東脇か東南隅、あるいはカマドと対峙する南壁に張出部を設けて構築している。

金属器の出土例は少ないが、砥石などの存在から鉄器の普及は進行しているものと推測される。西一本柳遺跡XXII同様に、5世紀後葉の遺構からは石製模造品が出土し、焼失している遺構が多い。

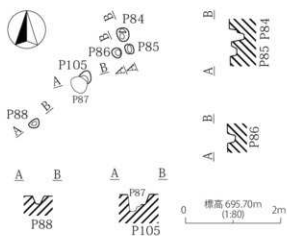
佐久盆地全体の傾向と思われるが、古墳時代に入り減少した集落が5世紀後葉頃急激に増加する。しかし、焼失遺構が多く、石製模造品などの祭祀遺物の出土例が多い傾向や、佐久市北部では該期に地震の痕跡が顕著な遺跡が多いことなどを考え合わせると、不安定な社会も想起される。今回の調査では後統する6世紀後葉以降の古墳時代後期と奈良平安時代の遺構は存在しないことから、集落は遺跡群内の他の場所に移動したものとと思われる。



第123図 P63・166～169・183・186・187・189・190～192号ピット

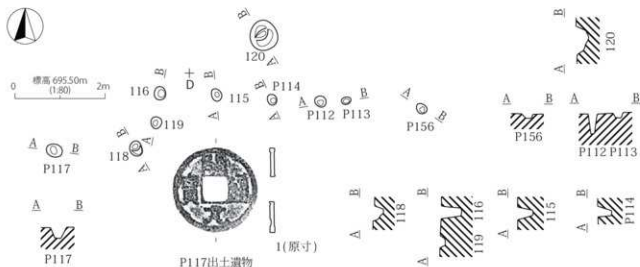
### 第3節 中世

調査区域は鎌倉時代、信濃守護小笠原長清の七男大井朝光が大井荘の地頭となり、国府と並び称されるほどの賑わいを呈したとされる大井荘の一部である。過去の調査でも周辺からは数多くの中世遺構、遺物が検出されている。今回の調査区域は湯川河岸段丘の縁にあたり、南側は畑地にする際に規模の大きな削平を受けていたにもかかわらず、中世の竪穴建物は残存していた。ピットのような小規模な遺構は多数消滅したものと思われる。規

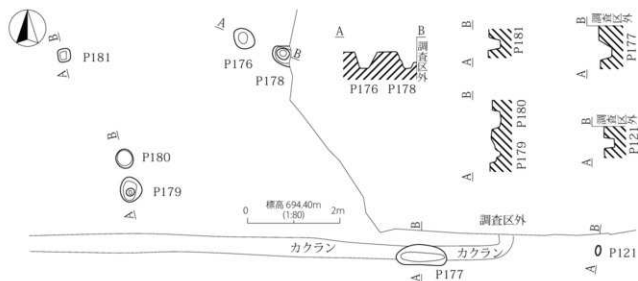


第124図 P84～86・88・105号ビット

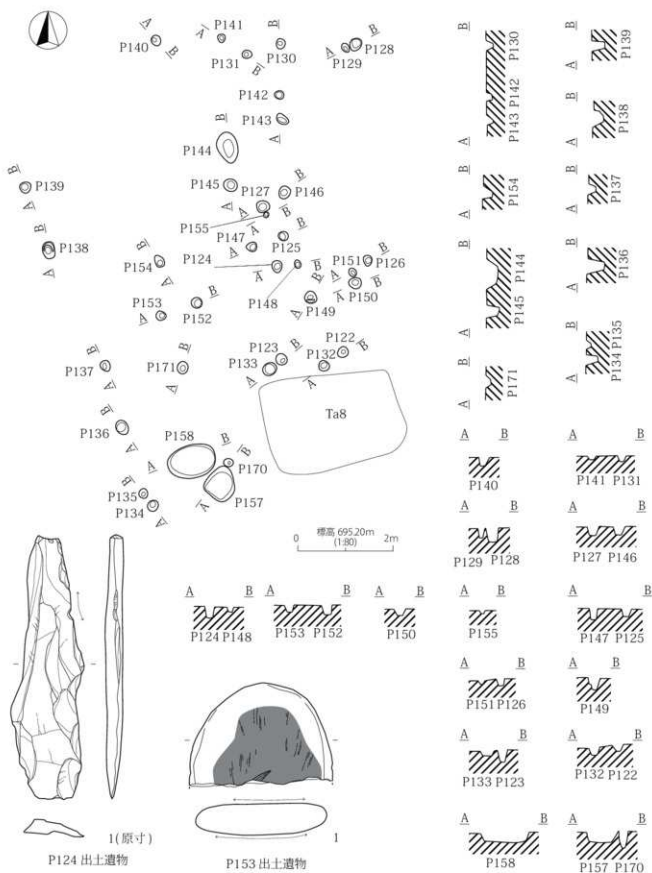
模的には小規模な竪穴建物であるが、複数の土坑やビットなどと組み合わせり複合遺構が形成されていたものと思われる。中世遺跡の常であるが遺物の出土量は多くはない。しかし、青磁片などの出土も見られることから、裕福な集落が成立していたように思われる。また、D42号土坑の様な大きな井戸が掘削されており、生活水を湯川からくみ上げるのではなく、段丘上で確保していたことも明らかとなった。時期的には15世紀を中心とした時期のものと思われる。大きく時を置かず村上正清により1484年町は焼き払われ消滅したと、文献には記されているが、焼失の痕跡は確認されていない。



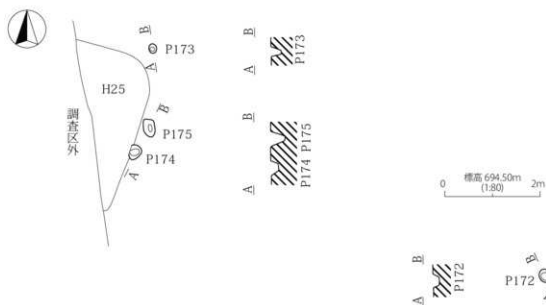
第125図 P112～120・156号ビット



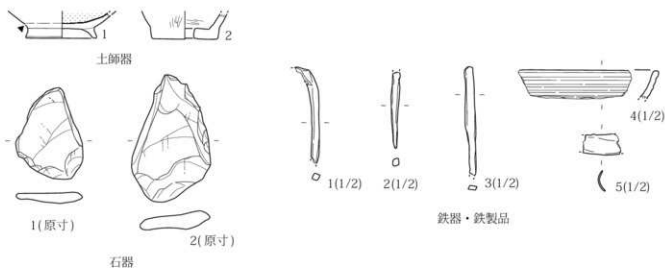
第126図 P121・176～181号ビット



第127図 P122～155・157・158・170・171号ビット



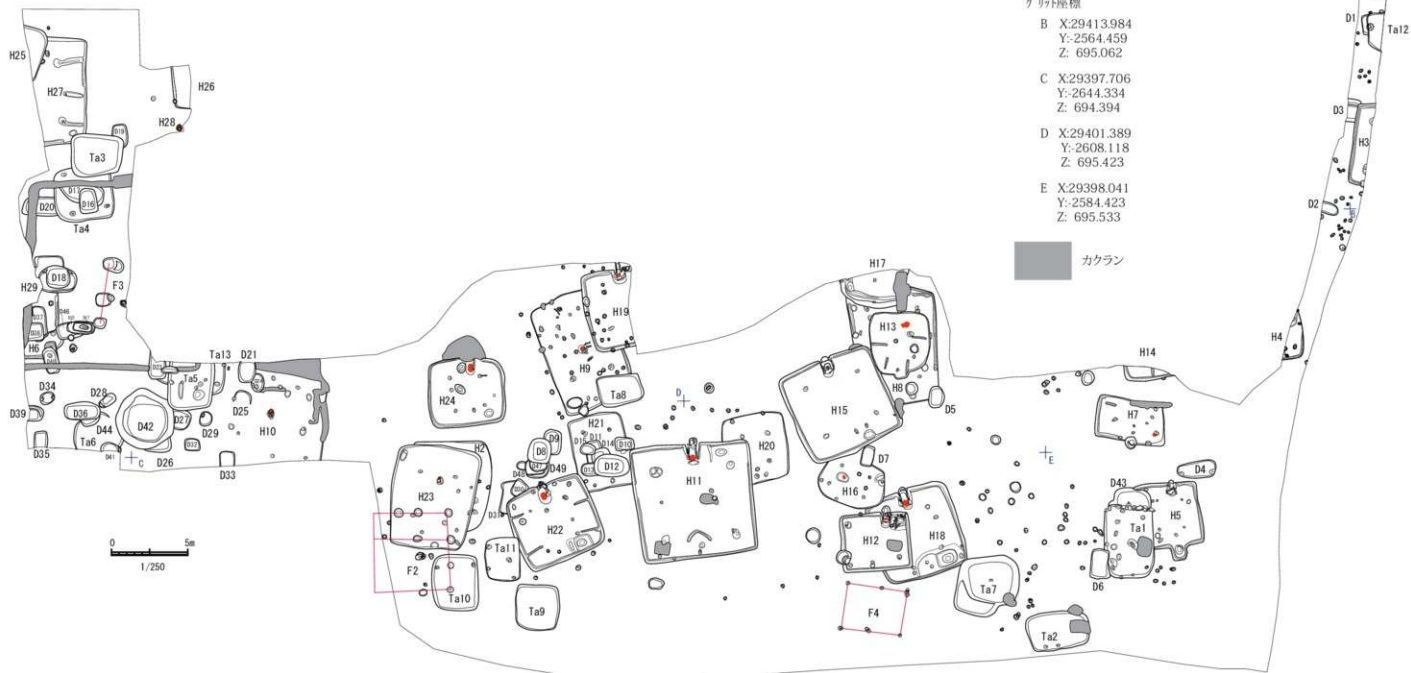
第128図 P172～175号ピット



第129図 遺構外出土遺物

## 引用・参考文献

- |           |       |                           |                             |
|-----------|-------|---------------------------|-----------------------------|
| 富沢一明      | 1996年 | 長野県考古学会誌79                | 佐久平における古墳時代の土器編年試案          |
| 馬場伸一郎     | 2005年 | 佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第127集      | 西一本柳遺跡X 第三章                 |
| 小林眞寿      | 2011年 | 佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第185集      | 円正坊遺跡VII                    |
| 西山克己      | 2013年 | シナノにおける古墳時代社会の発展から律令器への展望 |                             |
| かみつけの里博物館 | 2015年 | ゆくものくるもの                  | —北関東の後期弥生文化—                |
| 小山岳夫      | 2016年 | 専修考古学16号                  | 前方後円墳未築造地域における弥生から古墳時代前期の集落 |
| 小林眞寿      | 2019年 | 佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第260集      | 西一本柳遺跡X X II                |
| 小林眞寿      | 2021年 | 佐久市文化財年報29                | 第2回特別展「腕輪の国」補足資料            |



第130図 西一本柳X X IV全体図(1:250)

竈穴遺物 (H) 計測表

遺構名	重層関係	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	ヒット	付属施設	備考	時期
H1	調査外に接する	—	—	—	0.17	—	1	—	—	5世紀後半
H2	調査外に接する	—	—	—	0.05	—	2	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H3	調査外に接する	—	—	—	0.30	—	3	—	—	6世紀前半
H4	P12～16に接する	—	—	—	0.31	—	3	土坑	—	5世紀後半
H5	T4, D43に接する	N-7°-W	4.25	0.39	—	—	11	カマド、臺出、周溝	—	5世紀後半
H6	H29, D37, F36・40・45・46に接する	—	0.21	—	—	—	1	—	不明	—
H7	H49に接する	—	—	—	—	—	—	—	—	5世紀後半
H8	H13・15, D5, F48・58・59に接する	N-128°-E	4.49	2.69	0.23 (10.38)	6	カマド	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H9	H19, D6, P12～13・17・132・133・144・149・152・155・157・158・170・171に接する	(N-5°-W)	(7.56)	(5.39)	0.15 (36.61)	19	周溝	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H10	D21・24・25・33に接する	N-21°-W	7.56	4.89	0.20 (34.75)	10	周溝	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H11	H90に接する	—	—	—	0.12	—	16	炉	—	6世紀中葉
H12	H15, D7, F92・53に接する	N-5°-W	7.87	7.74	0.53 (50.64)	10	カマド、周溝、貯蔵穴、出入口	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H13	H4～57に接する	N-1°-E	4.55	3.87	0.50 (33.35)	6	カマド、周溝、貯蔵穴	—	—	6世紀中葉
H14	H48・58に接する	N-1°-E	4.32	3.94	0.25 (35.50)	3	カマド	カマド火床のみ	—	5世紀後半
H15	調査外に接する	—	—	—	0.57	—	1	周溝、間仕切	—	6世紀中葉
H16	H13に接する	N-25°-W	6.58	6.33	0.65 (34.25)	15	カマド、周溝、出入口	—	—	5世紀後半
H17	H15, D7, F92・53に接する	N-60°-W	4.38 (3.13)	—	0.16 (11.10)	9	炉	—	—	弥生時代前期前半至中期
H18	H2, H9を穿り、調査外に接する	—	—	—	0.61	—	5	周溝	—	中世
H19	H12・16, T97, F96・57に接する	N-20°-W	6.14 (5.81)	—	0.45 (27.48)	8	カマド、周溝、貯蔵穴	—	—	5世紀後半
H20	P124～129・131・142～151・155に接する	N-10°-W	—	—	0.67	—	2	カマド、周溝	—	6世紀中葉
H21	H11・22, D10～15に接する	N-9°-W	4.50 (4.24)	—	0.19 (16.75)	9	炉、出入口	—	—	弥生時代後半
H22	T41, H91・92・169・181に接する	N-13°-E	4.96 (3.59)	0.11 (15.93)	—	7	—	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H23	D2に接する	N-21°-W	5.66	5.07	0.58 (23.11)	10	カマド、周溝、間仕切、貯蔵穴	—	—	5世紀後半
H24	H3・106・186に接する	N-9°-E	6.86	5.48	0.31 (32.70)	28	炉、出入口、土坑	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H25	H27, P174を穿り、調査外に接する	N-2°-W	5.00 (4.53)	—	0.40 (18.04)	7	カマド、周溝、間仕切	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H26	P172に接する	—	—	—	0.35	—	—	—	—	不明
H27	H28を穿り、調査外に接する	—	—	—	0.45	—	—	—	—	弥生時代中期後半至森林期
H28	H25, T43, P174・175に接する	N-1°-W	—	—	0.55	—	3	カマド、周溝、間仕切	—	6世紀中葉
H29	H26, P172に接する	—	—	—	—	—	1	炉	—	弥生時代中期後半至森林期
H29	D18・37・38・46, P181に接する	—	—	—	0.50	—	1	カマド	カマド土樋のみ	不明

竈穴遺物 (Ta) 計測表 (1)

遺構名	重層関係	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	ヒット	付属施設	備考	時期
Ta1	D46に接する	N-1°-W	4.77 (4.77)	3.24 (3.24)	0.22 (12.88)	12	東壁に石積	—	—	中世
Ta2	カケラに接する	N-80°-E	(4.08)	2.46 (1.9)	0.19 (7.58)	2	—	—	—	中世
Ta3	H27, T41, D19を穿る	N-87°-W	3.36	2.74	0.40 (6.17)	—	—	—	—	中世
Ta4	T43, D16・17に接する	N-84°-E	3.86 (3.55)	0.30 (10.81)	—	3	—	—	—	中世
Ta5	P177に接する	—	—	—	3.00 (0.25)	—	7	—	—	中世
Ta6	D36・41・42・44に接する	N-28°-E	4.38 (4.11)	—	0.15 (9.62)	—	—	—	—	中世
Ta7	H18を穿る	N-78°-E	2.86	1.98	0.24 (4.31)	—	—	—	—	中世
Ta8	H9を穿る	N-3°-E	2.96 (2.91)	0.16 (6.87)	—	—	—	—	—	不明
Ta9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	不明

堅穴建物 (Ta) 計測表 (2)

遺構名	重層関係	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	面積 (㎡)	ピット	付属施設	備考	時期
Ta10	F2を切る	N-0°-E	3.67	3.02	8.29	2	-	-	中世
Ta11	H22, P184・188を切る	N-3°-W	2.83	2.25	0.99	2	-	-	中世
Ta12	D1, P33を切り、調査外に延びる	-	-	-	0.36	-	-	-	不明
Ta13	Ta5, D23, P177に切られ、調査外に延びる	-	-	-	0.24	2	-	-	不明

独立柱建物計測表

遺構名	重層関係	長軸方位	榑行長 (m)	梁間長 (m)	面積 (㎡)	柱直径 (cm)	榑行柱間寸法 (m)	梁間柱間寸法 (m)	備考	時期
F1	-	N-3°-W	4.76	-	-	-	1.37 ~ 3.39	-	-	不明
F2	Ta10に切られ、H23を切る	N-0°-W	5.03	-	-	-	1.35 ~ 3.54	1.31 ~ 2.23	-	不明
F3	P176に切られる	N-9°-W	3.94	-	-	-	1.55 ~ 2.36	-	-	不明
F4	-	N-83°-W	3.95	3.02	11.69	-	1.72 ~ 2.23	-	-	不明

土坑計測表 (1)

遺構名	重層関係	平面形態	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	面積 (㎡)	壁厚高 (m)	備考	時期	
D1	Ta12に切られ、H33を切る	-	-	-	-	0.31	-	-	不明	
D2	調査外に延びる	-	-	-	-	0.25	-	-	不明	
D3	H3に切られ、調査外に延びる	-	-	-	0.74	1.15	-	-	中世	
D4	H8を切る	楕円	N-79°-E	2.6	0.11	0.29	0.29	5.68	-	弥生時代中期後半葉林期
D5	H8を切る	楕円	N-2°-W	1.40	1.04	0.60	0.60	2.95	-	不明
D6	Ta13に切られ、P33を切る	長方形	N-3°-E	1.97	1.33	0.26	0.26	4.35	-	不明
D7	H16を切る	長方形	N-12°-E	1.35	0.80	0.19	1.84	-	-	中世
D8	D9・47・48・49を切る	楕円	N-6°-E	1.61	1.49	0.79	0.79	5.02	-	不明
D9	D8に切られる	楕円	N-0°-W	1.66	1.14	0.75	1.13	-	-	不明
D10	H21を切る	楕円	N-86°-E	1.25	0.88	0.34	1.97	-	-	不明
D11	D12 ~ 15に切られ、H21を切る	-	-	-	-	0.35	-	-	不明	
D12	H21, D11・13・14を切る	楕円	N-90°-E	2.31	1.48	1.31	7.30	-	-	不明
D13	D12に切られ、H21, D1・14を切る	-	-	-	-	0.32	-	-	不明	
D14	D12・13・15に切られ、H21, D11を切る	-	-	-	-	0.63	-	-	不明	
D15	H21, D11・14を切る	長方形	N-66°-E	0.98	0.74	1.02	2.18	-	-	不明
D16	Ta4, D17を切る	長方形	N-67°-E	1.64	1.16	0.75	4.71	-	-	不明
D17	D16に切られ、Ta4を切る	-	-	-	-	0.56	-	-	不明	
D18	H29を切り、調査外に延びる	楕円	N-87°-W	2.51	1.77	1.18	2.82	-	-	不明
D19	Ta3に切られる	楕円	N-4°-W	1.50	1.02	0.37	5.66	-	-	不明
D20	Ta4, D17を切る	楕円	N-88°-W	2.52	1.25	0.46	2.44	-	-	弥生時代中期後半葉林期
D21	H10, D24を切り、調査外に延びる	-	-	-	-	0.52	-	-	不明	
D22	F3, F5に切られ、D46を切る	楕円	N-89°-W	1.83	0.76	0.87	6.77	-	-	中世
D23	P177に切られ、調査外に延びる	-	-	-	-	0.42	-	-	不明	
D24	D21に切られ、H10を切る	-	-	-	-	0.36	-	-	不明	
D25	H10を切る	-	-	-	-	0.07	-	-	不明	
D26	D42に切られる	-	-	-	-	0.81	-	-	不明	



土坑計測表(2)

遺構名	重埋関係	平面形態	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	備考	時期
D27	Ta5、D42に切られる	—	—	—	—	0.77	—	—	不明
D28	—	楕円形	N-49°-E	1.21	0.66	0.22	3.13	—	弥生時代中期後半栗林期
D29	—	楕円形	N-0°-E	0.95	0.81	0.22	4.37	—	不明
D30	H22に切られ、D31を切る	長方形	N-34°-E	0.83	0.65	0.60	1.32	—	不明
D31	H22、D30に切られる	—	—	—	—	0.25	—	—	不明
D32	—	長方形	N-89°-E	1.00	0.81	0.15	0.98	—	不明
D33	H10を切り、調査区外に延びる	—	(N-0°-W)	—	0.97	0.31	—	—	不明
D34	—	楕円形	N-80°-E	1.17	0.79	0.29	0.37	—	不明
D35	調査区外に延びる	—	—	—	—	0.41	—	—	不明
D36	Ta6、D44を切る	長方形	N-86°-E	2.34	1.18	0.68	6.80	—	不明
D37	D38に切られ、H6・29を切る	—	—	—	—	0.17	—	—	不明
D38	H6・29、D37を切る	—	—	—	—	0.33	—	—	不明
D39	調査区外に延びる	—	—	—	—	0.83	—	—	不明
D40	H6、D45を切る	長方形	N-13°-W	1.73	0.94	0.46	0.98	—	不明
D41	Ta6を切り、調査区外に延びる	—	—	—	—	0.50	—	—	不明
D42	Ta5に切られ、Ta6、D26・27を切る	楕円形	N-0°-W	3.98	3.83	2.07	—	井戸	不明
D43	Ta1に切られ、H5を切る	長方形	N-90°-W	2.78	2.23	0.76	1.81	—	不明
D44	D36に切られ、Ta6を切る	—	—	—	—	0.52	—	—	不明
D45	D40に切られ、H6を切る	—	—	—	—	0.34	—	—	不明
D46	D22、P180に切られ、H6・29を切る	—	—	—	1.00	0.58	—	—	不明
D47	D8に切られ、D48を切る	—	—	—	—	0.65	—	—	不明
D48	D8・47に切られ、D49、P185を切る	—	—	—	—	0.46	—	—	不明
D49	D8・47・48に切られる	—	—	—	—	0.25	—	—	不明

ビット計測表(1)

遺構名	重埋関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P1	—	楕円形	0.25	0.22	0.21
P2	調査区外に延びる	楕円形	0.19	0.15	0.18
P3	—	楕円形	0.21	0.18	0.19
P4	—	楕円形	0.20	0.14	0.14
P5	—	円形	0.17	0.16	0.05
P6	—	円形	0.21	0.20	0.13
P7	—	楕円形	0.22	0.18	0.21
P8	—	円形	0.21	0.20	0.10
P9	—	楕円形	0.27	0.20	0.19
P10	—	楕円形	0.21	0.16	0.06
P11	—	楕円形	0.23	0.19	0.09
P12	H4を切り、調査区外に延びる	—	—	—	—
P13	H4を切る	楕円形	0.18	0.14	0.07
P14	H4を切る	楕円形	0.30	0.20	0.19
P15	H4を切る	楕円形	0.21	0.18	0.33
P16	H4を切り、調査区外に延びる	—	—	—	0.26

ビット計測表(2)

遺構名	重埋関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P17	—	円形	0.39	0.36	0.52
P18	—	円形	0.18	0.17	0.32
P19	—	楕円形	0.22	0.16	0.15
P20	—	円形	0.16	0.15	0.15
P21	—	楕円形	0.18	0.16	0.16
P22	—	円形	0.24	0.23	0.17
P23	—	楕円形	0.24	0.15	0.13
P24	調査区外に延びる	—	—	—	0.14
P25	—	楕円形	0.17	0.12	0.10
P26	—	楕円形	0.17	0.12	0.12
P27	—	楕円形	0.15	0.13	0.08
P28	—	楕円形	0.33	0.15	0.10
P29	調査区外に延びる	楕円形	0.25	0.18	0.28
P30	調査区外に延びる	—	—	—	0.08
P31	—	楕円形	0.20	0.14	0.07
P32	—	楕円形	0.19	0.16	0.12

ヒット計測表(3)

通称名	重層関係	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P33	Ta12, D1 に切られる	円形	0.47	0.45	0.14
P34	Ta12 に切られる	—	—	—	0.17
P35	調査区外に及びる	—	—	—	0.16
P36	—	楕円形	0.30	0.23	0.36
P37	—	楕円形	0.16	0.12	0.12
P38	—	円形	0.17	0.16	0.09
P39	—	円形	0.18	0.17	0.09
P40	—	楕円形	0.34	0.24	0.26
P41	—	楕円形	0.38	0.22	0.28
P42	—	円形	0.21	0.20	0.08
P43	—	円形	0.22	0.22	0.22
P44	—	楕円形	0.24	0.21	0.12
P45	—	楕円形	0.31	0.23	0.22
P46	—	楕円形	0.24	0.18	0.09
P47	Ta1 を切る	楕円形	0.22	0.15	0.14
P48	H8・13 を切る	円形	0.59	0.54	0.15
P49	H7 を切る	円形	0.82	0.78	0.37
P50	H14 に切られる	楕円形	0.31	0.21	0.46
P51	—	楕円形	0.97	0.81	0.24
P52	H16 を切る	長方形	0.24	0.21	0.11
P53	H16 を切る	長方形	0.22	0.21	0.13
P54	H12 を切る	楕円形	0.22	0.20	0.19
P55	H12・18 を切る	楕円形	0.24	0.19	0.23
P56	H12・18 を切る	楕円形	0.38	0.32	0.17
P57	H12 を切る	楕円形	1.02	0.97	0.20
P58	H8・13 を切る	円形	0.25	0.25	0.38
P59	H8 を切る	円形	0.83	0.78	1.14
P60	H11 を切る	楕円形	0.31	0.27	0.44
P61	H22 を切る	楕円形	0.44	0.41	0.48
P62	H22 を切る	楕円形	0.32	0.25	0.54
P63	H24 を切る	楕円形	0.70	0.55	0.51
P64	—	楕円形	0.26	0.23	0.23
P65	—	楕円形	0.26	0.21	0.12
P66	—	楕円形	0.67	0.61	0.14
P67	—	楕円形	0.34	0.26	0.15
P68	—	楕円形	0.54	0.30	0.47
P69	—	円形	0.26	0.25	0.32
P70	—	楕円形	0.23	0.20	0.15
P71	—	楕円形	0.37	0.32	0.27
P72	—	楕円形	0.31	0.23	0.42
P73	—	円形	0.21	0.20	0.19
P74	—	円形	0.32	0.31	0.28
P75	—	円形	0.28	0.26	0.21

ヒット計測表(4)

通称名	重層関係	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P76	—	楕円形	0.38	0.30	0.17
P77	—	円形	0.47	0.44	0.34
P78	—	楕円形	0.33	0.29	0.20
P79	—	円形	0.25	0.25	0.13
P80	—	楕円形	0.32	0.29	0.13
P81	—	楕円形	0.38	0.33	0.31
P82	—	楕円形	0.26	0.20	0.27
P83	—	楕円形	0.24	0.18	0.08
P84	—	楕円形	0.30	0.26	0.29
P85	—	楕円形	0.23	0.19	0.13
P86	—	楕円形	0.22	0.20	0.16
P87	P105 を切る	楕円形	0.37	0.34	0.37
P88	—	楕円形	0.23	0.17	0.17
P89	—	楕円形	0.30	0.22	0.17
P90	—	楕円形	0.31	0.28	0.19
P91	—	楕円形	0.26	0.19	0.12
P92	—	楕円形	0.23	0.20	0.13
P93	—	楕円形	0.18	0.15	0.13
P94	—	楕円形	0.47	0.25	0.20
P95	—	楕円形	0.32	0.28	0.14
P96	—	楕円形	0.44	0.39	0.24
P97	—	楕円形	0.31	0.26	0.18
P98	—	楕円形	0.31	0.27	0.27
P99	—	楕円形	0.31	0.24	0.28
P100	—	楕円形	0.26	0.23	0.23
P101	—	楕円形	0.38	0.33	0.32
P102	—	円形	0.74	0.69	0.40
P103	—	円形	0.44	0.41	0.31
P104	—	楕円形	0.34	0.27	0.12
P105	P87 に切られる	—	—	—	0.23
P106	—	楕円形	0.24	0.19	0.11
P107	—	楕円形	0.25	0.20	0.07
P108	—	楕円形	0.22	0.18	0.06
P109	—	楕円形	1.02	0.71	0.15
P110	—	円形	1.05	0.97	0.43
P111	—	楕円形	0.25	0.17	0.22
P112	—	楕円形	0.27	0.24	0.44
P113	—	楕円形	0.22	0.16	0.10
P114	—	楕円形	0.25	0.21	0.31
P115	—	楕円形	0.29	0.22	0.35
P116	—	楕円形	0.30	0.26	0.46
P117	—	楕円形	0.37	0.29	0.26
P118	—	楕円形	0.34	0.27	0.24

ピット計測表(6)

連棟名	重埋関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁線高 (m)
P162	-	円形	0.26	0.24	0.37
P163	-	楕円形	0.35	0.31	0.19
P164	-	楕円形	0.30	0.26	0.41
P165	-	楕円形	0.19	0.17	0.09
P166	H24 を切る	楕円形	0.79	0.50	0.49
P167	-	楕円形	0.24	0.20	0.16
P168	-	楕円形	0.38	0.28	0.16
P169	-	楕円形	0.40	0.30	0.30
P170	H9 を切る	楕円形	0.21	0.17	0.18
P171	H9 を切る	楕円形	0.27	0.23	0.12
P172	H26・28 を切る	楕円形	0.28	0.23	0.14
P173	-	楕円形	0.20	0.16	0.20
P174	H25 に切られ、H27 を切る	楕円形	0.32	0.22	0.16
P175	H27 を切る	楕円形	0.40	0.25	0.32
P176	F3、F2 を切る	楕円形	0.51	0.42	0.41
P177	Ta5・13、D23 を切る	楕円形	1.10	0.44	0.38
P178	溝内区外に掘ひる	-	-	-	0.46
P179	-	楕円形	0.55	0.47	0.24
P180	D49 を切る	楕円形	0.43	0.37	0.23
P181	H29 を切る	長方形	0.29	0.27	0.33
P182	H2 を切る	楕円形	0.28	0.21	0.27
P183	H2 を切る	円形	0.20	0.19	0.27
P184	Ta11 に切られる	楕円形	0.27	0.20	0.19
P185	D48 に切られる	-	-	-	0.10
P186	H24 を切る	楕円形	0.36	0.31	0.39
P187	-	楕円形	0.68	0.48	0.70
P188	Ta11 に切られる	楕円形	0.23	0.16	0.19
P189	-	楕円形	0.32	0.27	0.22
P190	H23 に切られる	-	-	-	0.18
P191	-	楕円形	0.34	0.30	0.30
P192	-	楕円形	0.25	0.22	0.34

ピット計測表(5)

連棟名	重埋関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁線高 (m)
P119	-	楕円形	0.27	0.24	0.11
P120	-	楕円形	0.68	0.62	0.29
P121	-	楕円形	0.23	0.12	0.28
P122	H9 を切る	楕円形	0.24	0.22	0.13
P123	H9 を切る	楕円形	0.25	0.23	0.25
P124	H9・19 を切る	楕円形	0.26	0.22	0.28
P125	H9・19 を切る	楕円形	0.18	0.14	0.10
P126	H19 を切る	楕円形	0.23	0.18	0.14
P127	H9・19 を切る	楕円形	0.29	0.26	0.19
P128	H19 を切る	楕円形	0.29	0.24	0.29
P129	H19 を切る	楕円形	0.21	0.15	0.20
P130	-	楕円形	0.22	0.19	0.15
P131	H19 を切る	楕円形	0.21	0.17	0.13
P132	H9 を切る	楕円形	0.24	0.22	0.17
P133	H9 を切る	楕円形	0.31	0.26	0.12
P134	-	楕円形	0.25	0.22	0.26
P135	-	楕円形	0.21	0.19	0.09
P136	-	楕円形	0.32	0.25	0.36
P137	-	楕円形	0.24	0.21	0.16
P138	-	楕円形	0.37	0.26	0.22
P139	-	楕円形	0.25	0.23	0.28
P140	-	楕円形	0.23	0.20	0.20
P141	-	楕円形	0.18	0.67	0.08
P142	H19 を切る	楕円形	0.20	0.18	0.15
P143	H19 を切る	楕円形	0.28	0.19	0.15
P144	H9・19 を切る	楕円形	0.67	0.44	0.26
P145	H9・19 を切る	楕円形	0.30	0.26	0.27
P146	H9・19 を切る	楕円形	0.28	0.24	0.19
P147	H9・19 を切る	楕円形	0.23	0.20	0.26
P148	H9・19 を切る	楕円形	0.18	0.14	0.11
P149	H9・19 を切る	楕円形	0.27	0.25	0.26
P150	H19 を切る	楕円形	0.27	0.23	0.14
P151	H19 を切る	楕円形	0.19	0.15	0.07
P152	H9 を切る	円形	0.23	0.23	0.22
P153	H9 を切る	楕円形	0.22	0.20	0.17
P154	H9 を切る	楕円形	0.28	0.19	0.22
P155	H9・19 を切る	楕円形	0.22	0.20	0.18
P156	H20 を切る	楕円形	0.26	0.21	0.10
P157	H9 を切る	楕円形	0.76	0.66	0.26
P158	H9 を切る	楕円形	1.03	0.70	0.21
P159	-	楕円形	0.21	0.17	0.12
P160	H22 を切る	楕円形	0.21	0.17	0.09
P161	H22 を切る	円形	0.21	0.21	0.30

H1 穿穴六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			重量等	成 形・調 整			備 考	出土層位
			□径(長)	底径(短)	器高(厚)		内 面	外 面			
1	土師器	環	—	—	<6.2>	—	ミガキ	—	回転式測	覆土	
2	土師器	環	13.4	—	<3.7>	—	ミガキ	—	完全式測	覆土	
3	土師器	高杯	—	—	<3.0>	—	ミガキ	—	回転式測	覆土	
4	土師器	皿	20.6	(6.0)	24.2	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式測	覆土	

H3 穿穴六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			重量等	成 形・調 整			備 考	出土層位
			□径(長)	底径(短)	器高(厚)		内 面	外 面			
1	土師器	環	—	(9.8)	(9.2)	<4.1>	—	ナデ→ケズリ	回転式測	覆土	
2	土師器	壺	23.4	—	<23.4>	—	ナデ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式測	覆土	
3	弥生土器	壺	—	(5.0)	<5.0>	—	ナデ	ハケメ→ミガキ	回転式測	覆土	
4	弥生土器	壺	—	(8.6)	<1.8>	—	ナデ、剥落	ミガキ	回転式測	覆土	
5	石器	編物石	11.2	7.5	3.6	343.0	縁刃に使用痕	—	完全式測	覆土	
6	石器	編物石	11.7	6.5	3.0	277.0	挟りあり	—	完全式測	覆土	
7	石器	編物石	12.6	7.2	2.5	316.5	—	—	完全式測	覆土	
8	石器	磨石	8.8	5.3	2.6	232.5	全体に磨り	—	完全式測	覆土	
9	石器	磨石	9.8	9.8	6.7	733.0	全体に磨り	—	完全式測	覆土	
10	石器	磨石	<10.8>	<5.4>	<3.0>	<273.5>	下部欠損、全体に磨り	—	完全式測	覆土	
11	石器	磨石	<12.4>	<9.9>	<4.5>	<625.0>	両側→裏面欠損	—	完全式測	覆土	
12	石器	使用痕のある剥片	3.0	1.8	0.8	3.10	石材加礫石、側面に使用痕	—	完全式測	覆土	

H4 穿穴六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			重量等	成 形・調 整			備 考	出土層位
			□径(長)	底径(短)	器高(厚)		内 面	外 面			
1	土師器	罎	24.3	9.1	28.1	—	ナデ、底部付正保付首	ケズリ→ミガキ	回転式測	No1	
2	須恵器	ハソウ	—	16.0	<11.5>	—	ナデ	カキメ→2本の平行花線間に帯状破綻、底面4目→ナデ	完全式測、穿孔あり	ケン	

H5 穿穴六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			重量等	成 形・調 整			備 考	出土層位
			□径(長)	底径(短)	器高(厚)		内 面	外 面			
1	土師器	環	10.0	10.3	6.5	—	ナデ	ケズリ	完全式測	No3	
2	土師器	鉢	(12.0)	(12.6)	<4.9>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式測	ケン	
3	土師器	鉢	16.7	9.6	9.4	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全式測	No1	
4	土師器	裏	(14.6)	—	<8.6>	—	ナデ	ケズリ	回転式測	覆土	
5	土師器	裏	—	5.9	<4.6>	—	ナデ	ケズリ	回転式測	覆土	
6	陶器	こ石片	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	磨片式測	覆土	
7	陶器	罎	—	(6.6)	<1.5>	—	ロクロナデ、施軸	ロクロナデ、付蓋台	回転式測	覆土	
8	石器	磨石	12.1	6.5	4.4	538.0	脱熱有、全体に黒化、裏面欠損、	裏面に磨り	完全式測	覆土	
9	鉄製品	不明	12.4	0.5	0.6	<11.0>	一部欠損	—	完全式測	覆土	

H7 号墓穴遺物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	内面	外面			
1	土師器	環	12.5	10.1	5.4	三ガキ	ケズリ		同底欠測		P49
2	土師器	環	13.0	13.2	<4.0>	三ガキ→黒色処理	三ガキ		同底欠測		カマド
3	土師器	環	13.2	(9.6)	<5.4>	三ガキ	ケズリ		同底欠測		カマド
4	土師器	環	13.2	(10.0)	<5.0>	三ガキ	ケズリ		同底欠測		覆土
5	土師器	高坪	13.6	(13.6)	<5.4>	三ガキ	三ガキ		同底欠測		覆土
6	石器	台石	<24.6>	<16.2>	<3.8>	<1985.0>片割欠損、磨面2、裏面縁上に斜内4枚の条痕	三ガキ		完全欠測		No1

H8 号墓穴遺物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	内面	外面			
1	弥生土器	甕	(9.8)	—	(8.8)	ナギ					同底欠測 No6、1区、ケン
2	弥生土器	甕	(18.8)	7.5	(23.7)	ハケム→三ガキ					完全欠測 No3、4、II区、ケン
3	弥生土器	甕	(22.0)	—	<10.9>	三ガキ					同底欠測 ケン、H13 IV区
4	弥生土器	甕	—	(9.8)	(11.4)	ハケム					同底欠測 No2、3、H8F9
5	弥生土器	台付甕	(12.0)	—	(9.1)	三ガキ					同底欠測 No6、1区、ケン
6	弥生土器	甕	(10.8)	(5.0)	10.0	三ガキ→赤形					同底欠測 No6、1区
7	弥生土器	甕	(14.0)	—	<22.7>	三ガキ					完全欠測 No2
8	弥生土器	甕	(15.0)	9.0	31.30	ハケム→三ガキ					完全欠測 No7、ケン
9	弥生土器	甕	(16.4)	—	(36.6)	ハケム					同底欠測 No1
10	弥生土器	甕	21.4	—	<29.2>	ハケム→三ガキ					同底欠測 No5、H13 1区、H17
11	石器	砥石	9.9	3.60	1.80	砥面取4					同底欠測 II区
12	石器	磨製石斧	16.0	7.4	4.3	840.00	正面に斜打痕、正面条痕、二次利用?				完全欠測 No9
13	石器	磨製石鏃	<1.40>	<1.70>	<0.15>	先端欠損、長φ0.30					完全欠測 II区
14	石器	磨製石鏃	<2.75>	<2.40>	<0.20>	先端及び後部欠損、長φ0.35					完全欠測 覆土
15	石器	磨製石鏃	<3.50>	<1.50>	<0.25>	<1.95> 先端欠損、長φ0.40					完全欠測 ケン
16	石器	磨・砥石	9.0	5.9	2.3	140.00	前面2、背面及び縁に斜打痕				完全欠測 II区
17	石器	磨・砥石	10.3	6.0	4.20	420.00	全体押痕(磨面除却)、側一裏面斜打痕				完全欠測 No8
18	石器	刮片	1.9	2.1	0.25	1.33	—				完全欠測 II区
19	石器	刮片	2.2	1.4	0.2	0.73	—				完全欠測 II区
20	石器	刮片	2.5	1.6	0.15	0.71	—				完全欠測 1区
21	石器	刮片	4.8	3.3	0.4	9.91	—				完全欠測 II区
22	石器	刮片	6.0	3.6	0.6	15.73	正面に押印強行				完全欠測 1区
23	鉄製品	不明	<5.8>	<0.5>	<4.60>	細穴					完全欠測 II区

H9 号墓穴遺物出土遺物総覧表(1)

No	器種	器形	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	内面	外面			
1	弥生土器	高坪	—	—	—	ナギ					同底欠測 ケン
2	弥生土器	甕	(13.8)	—	<5.2>	三ガキ					同底欠測 Ⅱ区ホリ
3	弥生土器	甕	(17.4)	—	<12.8>	ハケム、三ガキ					同底欠測 Ⅱ区、ケン
4	弥生土器	甕	(24.0)	—	31.4	ハケム→三ガキ					No2、3、II区、ケン
5	弥生土器	甕	—	8.7	<39.4>	同底面磨製欠文(片剥欠損)、全体ハケム→三ガキ、磨面取欠文					同底欠測 No2、1、IV区
6	弥生土器	甕	(10.4)	—	<19.2>	ナギ、三ガキ					同底欠測 No2、1区ホリ、IV区

H9 号整穴建物出土遺物総覧表(2)

No	器種	器形	法		量		成 形・調 整		備 考	出土層位
			口徑(長)底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面			
7	弥生土器	壺	12.1	<23.2>	—	ハクメ、ナギ	口内面縦文(内)、口縁と肩部へハクメ縦文、肩部ミガキ	回転式調	No3、ホリ、ケン	
8	弥生土器	壺	12.4	<28.9>	—	ハクメ、ミガキ	ハクメ→ミガキ、口内面縦文	回転式調	No1、T08ケン	
9	弥生土器	壺	—	<8.4>	—	ハクメ	横文(内)、へう指状線	完全式調	ケン	
10	弥生土器	壺	—	<10.6>	—	ハクメ	ミガキ	回転式調	No2	
11	弥生土器	壺	—	<11.1>	—	ハクメ	ハクメ→ミガキ、へう指状線	回転式調	No2	
12	弥生土器	壺	—	<22.5>	—	ハクメ	ハクメ	回転式調	No2、1、KV区	
13	弥生土器	壺	—	—	—	ハクメ	ハクメ	回転式調	No1	
14	弥生土器	製造品の未完成品	5.70	3.70	0.45	11.61	厚み成り不揃い	破片式調、拓本	No1	
15	石器	打製石鏃	1.85	1.30	0.30	0.72	磨面石	完全式調	No1ホリ	
16	石器	打製石鏃	2.10	1.00	0.25	0.51	磨面石	完全式調	No1	
17	石器	打製石鏃(未完成品)	2.50	1.60	0.35	1.53	正中央尖に磨面有	完全式調	No1	
18	石器	打製石鏃(未完成品)	2.65	2.20	0.60	2.23	—	完全式調	No1	
19	石器	磨製石鏃(未完成品)	5.60	2.60	0.30	6.41	—	完全式調	No1	
20	石器	石器丁(未完成品)	6.80	4.90	1.00	38.49	口縁穴、面取の取の磨面有	完全式調	No1	
21	石器	磨石	3.50	2.70	2.10	28.49	全体に磨り	完全式調	No1	
22	石器	磨石(有剥片)	7.20	3.90	0.90	27.88	磨面穴、正曲磨り	完全式調	No1	
23	石器	使用痕の有剥片	4.20	5.50	1.30	37.74	下部磨面有	完全式調	No1	
24	石器	二次加工の石剥片	9.10	6.10	1.00	96.73	縁辺に二次加工有	完全式調	No1	
25	鉄製品	角釘	2.60	0.50	0.40	1.14	—	完全式調	ケン	
26	鉄製品	不明	3.30	1.00	0.50	4.73	下部穴	完全式調	ケン	

H10 号整穴建物出土遺物総覧表(1)

No	器種	器形	法		量		成 形・調 整		備 考	出土層位
			口徑(長)底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面			
1	弥生土器	高杯	16.2	<5.6>	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	回転式調	N区	
2	弥生土器	台鉢	10.4	6.5	13.5	ミガキ	磨面縦文、磨面横文、ミガキ	完全式調	N区、ケン	
3	弥生土器	鉢	—	(6.8)	(20.5)	ミガキ	磨面縦文、ミガキ	回転式調	ケン	
4	弥生土器	甕	—	—	—	ミガキ	横文→磨面縦文、口内面縦文(RL)	回転式調、拓本	N区	
5	弥生土器	甕	—	9.8	(22.9)	ミガキ	横文(内)、へう指状線	回転式調	N区	
6	弥生土器	甕	—	—	—	ハクメ	へう指状線、口内面縦文(内)	破片式調、拓本	ケン	
7	陶器	鉢	—	—	—	ナギ	—	破片式調、拓本	甌土	
8	石器	砥石	5.1	<2.0>	<11.60>	上部穴粗、砥面粗	—	完全式調	甌土	
9	石器	磨製石鏃	2.3	(2.45)	(0.25)	(1.46)	上部穴粗、孔φ0.2-0.3	完全式調	P7	
10	石器	剥片	1.4	0.95	0.15	0.17	正面に磨面有	完全式調	甌土	
11	石器	剥片	1.9	2.4	0.5	2.37	縁辺に磨面	完全式調	甌土	
12	石器	剥片	2.1	1.4	0.25	1.11	—	完全式調	甌土	
13	石器	剥片	2.4	1.45	0.15	0.50	側面に磨面有	完全式調	ケン	
14	石器	剥片	3.7	2.6	0.25	2.30	—	完全式調	P7	
15	石器	剥片	3.8	2.5	0.4	4.92	—	完全式調	ケン	
16	石器	剥片	3.9	2.7	0.25	2.70	磨面有	完全式調	甌土	
17	石器	剥片	4.6	2.1	0.45	6.20	打撃痕、磨面部分有	完全式調	甌土	
18	石器	剥片	4.6	4.1	0.4	8.10	—	完全式調	P7	
19	石器	剥片	5.0	2.3	0.25	2.80	—	完全式調	P7	

H10 号穴六建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		重量	量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)				
20	石器	剥片	5.0	2.6	0.7	14.67	打撃痕、摩滅部分有			完全灰濁	覆土
21	石器	剥片	5.7	4.8	0.5	14.00	—			完全灰濁	P7
22	石器	剥片	6.0	4.4	0.4	10.39	—			完全灰濁	覆土
23	石器	剥片	9.0	4.5	0.7	33.90	—			完全灰濁	P7

H11 号穴六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		重量	量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)				
1	土師器	環	(10.2)	(10.1)	(4.1)	—	ミガキ→端文		ナデ→ケズリ	同様灰濁	I区
2	土師器	北式高型杯	13.0	12.4	4.2	—	ナデ		ケズリ→ケズリ	同様灰濁	カマド
3	土師器	環	(13.4)	(12.4)	<3.7>	—	ナデ		ケズリ→ナデ	同様灰濁	Ⅱ・Ⅳ区
4	土師器	有段口縁杯	(13.0)	(12.0)	<3.5>	—	ナデ		ナデ	同様灰濁	Ⅱ・Ⅳ区
5	土師器	有段口縁杯	(14.0)	(12.3)	<3.6>	—	ナデ		ケズリ→ナデ	同様灰濁	No8、Ⅲ区
6	土師器	環	(14.7)	6.0	5.2	—	ミガキ→黒色処理		ケズリ→ミガキ→黒色処理	同様灰濁	No2・5
7	土師器	環	(14.8)	(13.6)	<4.8>	—	ミガキ→黒色処理		ケズリ	同様灰濁	I区
8	土師器	環	(15.1)	11.5	7.4	—	ミガキ→黒色処理		ケズリ	同様灰濁	Ⅳ区
9	土師器	環	(15.4)	7.8	<4.1>	—	ミガキ→黒色処理		ナデ→ケズリ	同様灰濁	Ⅲ区ホリ、Ⅳ区
10	土師器	環	15.6	10.3	4.6	—	ミガキ→黒色処理		ケズリ→ナデ	同様灰濁	I・Ⅳ区
11	土師器	環	15.7	10.1	<4.5>	—	ナデ		ナデ	完全灰濁	Ⅱ区、Ⅳ区
12	土師器	環	15.8	12.9	4.7	—	ナデ		ケズリ→ナデ	完全灰濁	Ⅱ区、カマド
13	土師器	鉢	—	(11.4)	<4.7>	—	ミガキ→黒色処理		ケズリ	同様灰濁	Ⅳ区
14	土師器	鉢	(16.6)	—	(8.2)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	カマド
15	土師器	鉢	(18.4)	—	(7.0)	—	ナデ、黒色処理		ケズリ→ミガキ	同様灰濁	No3、Ⅳ区、ケン
16	土師器	鉢	20.9	7.1	13.5	—	ミガキ→黒色処理		ケズリ→ミガキ	同様灰濁	No2、Ⅳ区、ケン
17	土師器	鉢	21.2	9.4	(11.5)	—	ミガキ→黒色処理		ケズリ→ミガキ	同様灰濁	No6・14、カマド
18	土師器	鉢	(22.4)	(9.4)	(12.9)	—	ミガキ→黒色処理		ケズリ→ミガキ	同様灰濁	Ⅰ区、Ⅰ区ホリ、Ⅱ区、P4
19	土師器	裏	(15.0)	—	(10.7)	—	ナデ		ケズリ→ナデ	同様灰濁	No11、Ⅰ、Ⅱ区
20	土師器	裏	(16.0)	—	(18.6)	—	ナデ		ハケヌ、ナデ	同様灰濁	No2、Ⅰ区
21	土師器	裏	(16.0)	—	(21.9)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	No2、4、ケン、カマド
22	土師器	裏	(16.0)	—	(24.2)	—	ナデ、ミガキ		ケズリ	同様灰濁	No8、Ⅳ区
23	土師器	裏	(19.6)	—	(10.9)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	カマド
24	土師器	裏	(20.0)	—	(7.3)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	I区
25	土師器	裏	(20.0)	—	(17.0)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	カマド、Ⅰ区
26	土師器	裏	(21.0)	—	(11.7)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	カマド
27	土師器	裏	(21.6)	—	(8.0)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	No7、Ⅲ区
28	土師器	裏	(21.6)	—	(30.8)	—	ナデ		ハケヌ、ケズリ	同様灰濁	I・Ⅱ区、カマド
29	土師器	裏	(23.0)	—	(8.8)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	Ⅳ区
30	土師器	裏	—	6.7	(9.1)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	No9
31	土師器	裏	—	8.2	(5.5)	—	ナデ		ケズリ	同様灰濁	No10
32	土師器	壺	16.0	—	19.7	—	ナデ		ケズリ→ミガキ	同様灰濁	No1、Ⅳ区
33	弥生土器	壺	—	(9.6)	(16.8)	—	ハケヌ		ハケヌ、ケズリ	同様灰濁	Ⅰ区ケン、H20 Ⅳ区
34	弥生土器	壺	—	—	(10.7)	—	ハケヌ		ハケヌ、縄文(乱)	同様灰濁	I区
35	土製品	丸玉	1.0	1.0	0.9	—	—		—	完全灰濁	Ⅱ区

H11号窖穴建物出土遺物総覧表(2)

No	器種	器形	法		重量	成		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
36	土製品	丸玉	1.15	0.9	—	—	—	完全丸割	1区
37	土製品	人型土器	2.5	1.4	—	—	—	完全丸割	II区
38	石器	砥石	5.8	3.3	<21.6>	砥面数4、砥面削落	—	完全丸割	IV区
39	石器	砥石	8.0	3.4	<122.9>	孔φ0.5、砥面数4、正裏に条痕	—	完全丸割	No22
40	石器	台石	<20.2>	<16.1>	<5.1>	<2700.00>	3辺欠損、使用面3、3面とも磨り顕著	完全丸割	No16
41	石器	台石	29.1	25.3	8.0	<8300.00>	使用面2	完全丸割	No15
42	石器	石磯	1.8	<1.6>	0.2	<0.37>	黒曜石、磨光端欠損	完全丸割	IV区
43	石器	編物石	9.3	5.7	4.0	<175.70>	—	完全丸割	No18
44	石器	編物石	9.4	5.9	3.4	<238.00>	—	完全丸割	No25
45	石器	編物石	9.5	5.6	4.7	<291.00>	端部に使用痕	完全丸割	No28
46	石器	編物石	9.6	4.8	3.2	<231.50>	—	完全丸割	IV区
47	石器	編物石	9.7	5.1	2.8	<163.6>	棒り、使用痕有	完全丸割	No27
48	石器	編物石	9.8	5.6	3.7	<203.50>	棒り、使用痕有	完全丸割	No24
49	石器	編物石	10.0	4.4	4.0	<236.00>	端部に使用痕	完全丸割	No20
50	石器	編物石	10.2	5.7	4.3	<282.00>	端部に使用痕	完全丸割	No19
51	石器	編物石	10.3	5.3	4.0	<325.50>	—	完全丸割	No21
52	石器	編物石	10.8	5.1	4.0	<240.50>	—	完全丸割	No29
53	石器	編物石	10.9	5.6	3.5	<276.00>	—	完全丸割	II区
54	石器	編物石	10.9	6.5	4.0	<342.00>	—	完全丸割	No23
55	石器	編物石	11.2	5.2	3.3	<243.00>	—	完全丸割	No31
56	石器	編物石	11.6	5.4	4.3	<332.00>	端部に使用痕	完全丸割	No26
57	石器	編物石	11.9	6.0	3.2	<238.50>	使用痕有	完全丸割	No30
58	石器	磨石	3.0	2.8	2.4	<25.70>	全体に磨り	完全丸割	II区
59	石器	磨石	4.3	3.7	2.8	<47.40>	全体に磨り	完全丸割	II区
60	石器	磨石	<5.6>	<5.7>	<1.5>	<59.30>	被熱有、一部黒化、磨面1、裏面～下部欠損	完全丸割	II区
61	石器	磨石	6.6	5.1	3.8	<42.10>	全体に磨り	完全丸割	II区
62	石器	磨石	<7.6>	<7.0>	<2.0>	<156.00>	被熱有、全体に黒化、磨面1、左側～下部欠損	完全丸割	II区
63	石器	磨石	<9.0>	<7.8>	<2.3>	<209.50>	磨面3、右側～下部欠損	完全丸割	II区
64	石器	磨石	14.1	8.2	5.5	<951.00>	磨面1	完全丸割	No31
65	石器	磨石	20.3	8.5	7.5	<1600.00>	両端部と縁辺に敲打痕	完全丸割	No17
66	石器	剥片	—	—	—	<0.14>	1片	未図化	1区
67	石器	剥片	—	—	—	<0.39>	1片	未図化	ケン
68	石器	剥片	—	—	—	<0.61>	3片	未図化	1区
69	石器	剥片	—	—	—	<1.34>	3片	未図化	1区
70	石器	剥片	—	—	—	<3.03>	2片	未図化	IV区
71	石器	剥片	—	—	—	<7.84>	11片	未図化	ケン
72	石器	剥片	5.2	3.5	0.5	<22.32>	他に4片、側面に打撃痕	完全丸割	1区
73	鉄製品	角軸	<3.2>	<0.3>	<0.2>	<0.61>	両端欠損	完全丸割	No32
74	鉄製品	角釘	<3.2>	<0.4>	<0.3>	<1.08>	先端欠損	完全丸割	II区
75	鉄製品	角軸	<5.3>	<0.6>	<0.6>	<3.23>	上部欠損	完全丸割	1区
76	鉄製品	角釘	<7.4>	<0.5>	<0.4>	<3.31>	頭部、先端欠損	完全丸割	II区
77	鉄滓	—	—	—	—	<10.47>	—	未図化	ケン



H12 号整穴建物出土遺物調査表

No	器 種	器 形	法		量		成 形・調 整		備 考	出 土 層 位
			□径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	土師器	環	12.5	6.0	6.1	—	ケズリ→ナデ、ミガキ	回転式調	II区	
2	土師器	環	14.7	13.4	5.5	ナデ	ケズリ	完全式調	カマド	
3	土師器	環	16.0	8.5	4.7	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転式調	H18 II区	
4	土師器	甕	14.4	6.2	20.5	ハケス→ナデ	ケズリ→ミガキ	回転式調	II区、カマド、ケン	
5	土師器	甕	19.3	4.4	34.2	ナデ	ケズリ	回転式調	I区、カマド	
6	土師器	甕	6.9	7.3	6.6	ナデ、ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式調	No1、H11 III区	
7	石器	磨石	<6.2>	<3.8>	<1.7>	<46.00>	下部欠損、磨面1	完全式調	III区	
8	石器	磨石	10.2	6.2	2.9	243.00	一部黒化、磨面1	完全式調	IV区	
9	石器	磨・敲石	10.2	8.1	2.7	297.00	磨り面1、縁刃に敲打痕	完全式調	IV区	
10	石器	磨石	<10.3>	<5.3>	<0.9>	<82.00>	上部→裏面欠損、空体に磨り	完全式調	II区	
11	石器	磨・敲石	10.8	8.7	8.1	1102.00	全体に磨り	完全式調	III区	
12	石器	磨・敲石	11.5	11.8	4.2	797.00	磨面1、縁刃に敲打痕	完全式調	III区	
13	石器	剥片	4.1	2.9	0.3	6.00	磨面1	完全式調	ケン	
14	石器	石核	7.9	7.2	2.6	202.00	石核Aに剥片BとCが接合	完全式調	III区	
15	石器	石核	8.1	6.3	1.5	80.81	磨面1の残る石核(同一個体打合せしない)	完全式調	III区	
16	鉄製品	角釘	<10.3>	<1.4>	<0.6>	<20.00>	片部欠損	完全式調	ケン	

H13 号整穴建物出土遺物調査表

No	器 種	器 形	法		量		成 形・調 整		備 考	出 土 層 位
			□径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	土師器	環	12.0	11.4	6.1	—	ナデ	ケズリ	完全式調	No1、I区
2	土師器	環	13.2	10.1	5.8	—	順文状へラミガキ	ケズリ→ナデ→ミガキ	回転式調	No11
3	土師器	鉢	13.5	11.8	11.5	—	ナデ	ケズリ	完全式調	II、III、IV区
4	土師器	鉢	<17.0>	<12.2>	<9.9>	—	ナデ	ケズリ	回転式調	覆土
5	土師器	甕	10.4	—	<10.2>	—	ナデ	ケズリ	回転式調	No4
6	土師器	甕	<11.7>	4.6	9.6	—	ナデ	ケズリ	完全式調	No3、II、III区、H8ケン
7	土師器	甕	<25.6>	—	<9.6>	—	ナデ	ケズリ	回転式調	No9
8	土師器	甕	—	<6.2>	<9.5>	—	ハケス	ケズリ	回転式調	No8、10
9	土師器	甕	—	—	<10.4>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転式調	No2
10	土師器	甕	15.4	3.5	11.4	—	ナデ	ミガキ	完全式調	No7
11	弥生土器	台付甕	<14.2>	—	<13.0>	—	ミガキ	ミガキ	完全式調	No5
12	土製品	カマドの支脚	8.1	7.1	10.1	—	—	—	完全式調	No6
13	土製品	カマドの支脚	8.9	—	<3.7>	—	—	—	完全式調	覆土
14	石器	磨物石	10.7	4.7	3.7	258.83	—	—	完全式調	I区
15	石器	磨石	7.7	10.1	8.0	794.36	磨面3	—	完全式調	IV区
16	石器	磨石	8.3	5.2	2.2	125.24	磨面1	—	完全式調	IV区
17	石器	磨・敲石	<10.9>	<8.6>	<5.5>	<516.37>	磨面2、下部欠損、辺縁に敲打痕	—	完全式調	III区
18	石器	二次加工の磨る剥片	4.1	2.5	1.5	18.91	—	—	完全式調	I区
19	石器	剥片	2.1	2.4	0.2	1.27	磨面有	—	完全式調	I区
20	石器	剥片	2.6	2.0	0.2	1.53	磨面有	—	完全式調	IV区
21	石器	剥片	3.4	2.3	0.2	1.9	磨面有	—	完全式調	IV区
22	石器	剥片	4.0	1.9	0.2	2.26	磨面有	—	完全式調	IV区
23	石器	剥片	7.3	2.4	0.6	10.3	磨面有	—	完全式調	IV区

H14号竪穴建物出土遺物総覧表

No	器種	形状	法		量		内面	成形・調整	外面	備考	出土部位
			口徑(長)	底徑(短)	器高(厚)	重量等					
1	土師器	罎	—	—	<4.0>	—	ナデ	ミガキ→赤彩	ナデ	回転実測	覆土
2	須置器	甕	—	—	<3.9>	—	ナデ	ナデ	—	回転実測	覆土
3	石器	磨・敲石	9.3	6.5	1.60	123.67	磨面1、縁辺に敲打痕	—	—	完全実測	覆土

H15号竪穴建物出土遺物総覧表(1)

No	器種	形状	法		量		内面	成形・調整	外面	備考	出土部位
			口徑(長)	底徑(短)	器高(厚)	重量等					
1	土師器	環	(11.4)	(11.7)	5.5	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	No1
2	土師器	環	12.9	11.8	6(1)	—	ナデ	ケズリ→ナデ→ミガキ	—	回転実測	I・II区
3	土師器	環	(13.4)	—	(8.1)	—	ナデ→ミガキ	ミガキ	—	回転実測	カマド
4	土師器	環	(14.0)	(12.0)	(4.7)	—	陶文状ヘラミガキ	ケズリ	—	回転実測	I区、ケン
5	土師器	環	—	—	(1.6)	—	ミガキ	ミガキ	—	完全実測	III区
6	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ	ミガキ	—	鏡片実測	II区
7	土師器	高杯	(11.2)	—	(5.0)	—	ミガキ	ミガキ	—	回転実測	I区
8	土師器	鉢	(15.8)	—	(6.6)	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	II・IV区
9	土師器	鉢	(16.0)	(6.4)	(9.2)	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	No2、II区
10	土師器	鉢	(21.8)	—	(8.3)	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	I・II・IV区
11	土師器	甕	12.3	7.3	12.0	—	ナデ	ケズリ	—	完全実測	カマド
12	土師器	甕	14.4	6.3	15.5	—	ナデ	ケズリ	—	完全実測	No2、P2
13	土師器	甕	15.3	6.1	18.6	—	ナデ	ハケス	—	完全実測	No3、I・III区
14	土師器	甕	17.7	7.2	32.4	—	ナデ、ハケス	ナデ	—	完全実測	カマド
15	土師器	甕	(19.0)	(7.6)	(23.0)	—	ナデ	ケズリ→ナデ	—	回転実測	カマド
16	土師器	甕	—	6.8	(25.5)	—	ナデ	ケズリ、ナデ	—	回転実測	No4、IV区
17	弥生土器	台付甕	—	—	(5.1)	—	ヘラ描コの字文、円形貼付文	—	—	完全実測	I区ホリ、IV区
18	石器	砥石	(9.8)	(8.8)	(4.3)	<463.00>	上部欠損、砥面数3	—	—	完全実測	No24
19	石製品	石製網杓/瓦	(2.8)	(1.65)	(0.35)	(2.42)	右側と下部欠損、孔φ0.15	—	—	完全実測	III区
20	石製品	石製網杓/彫影	(3.65)	2.00	0.35	(4.53)	下部欠損、2孔とも孔φ0.20	—	—	完全実測	III区
21	石製品	鮮石製品	7.5	6.1	3.4	67.1	全体磨り、正面に孔φ0.7の穿孔	—	—	完全実測	III区
22	石製品	白土	0.65	0.65	0.35	0.24	孔φ0.15	—	—	完全実測	IV区
23	石器	編物石	13.0	6.0	4.6	449.00	—	—	—	完全実測	No9
24	石器	編物石	13.1	5.1	2.8	245.00	—	—	—	完全実測	No20
25	石器	編物石	13.2	6.5	5.3	611.00	—	—	—	完全実測	No17
26	石器	編物石	13.3	5.6	3.7	359.00	端部と正面に敲打痕	—	—	完全実測	No19
27	石器	編物石	13.7	6.5	4.6	547.00	—	—	—	完全実測	No22
28	石器	編物石	14.0	5.7	4.3	431.00	—	—	—	完全実測	III区
29	石器	編物石	14.0	6.2	3.9	474.00	裏面刻離は使用痕?	—	—	完全実測	No8
30	石器	編物石	14.3	6.0	4.4	560.00	正面刻離は使用痕?	—	—	完全実測	No12
31	石器	編物石	14.6	6.6	3.3	483.00	—	—	—	完全実測	No18
32	石器	編物石	15.1	6.4	3.5	604.00	—	—	—	完全実測	No13
33	石器	編物石	15.1	8.0	3.6	598.00	—	—	—	完全実測	No15
34	石器	編物石	15.2	5.7	5.0	682.00	—	—	—	完全実測	No25
35	石器	編物石	15.2	6.3	5.1	713.00	—	—	—	完全実測	No23
36	石器	編物石	15.4	5.4	3.8	442.00	—	—	—	完全実測	No11

H15 号竪穴建物出土遺物総覧表(2)

No	器種	器形	法			量	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)		内 面	外 面		
37	石器	編物石	15.6	5.0	4.2	423.00	—	—	完全表調 No16	
38	石器	編物石	15.7	5.5	3.8	424.00	使用痕有	—	完全表調 No6	
39	石器	編物石	15.7	9.6	4.2	607.00	正面剝離は使用痕?	—	完全表調 No5	
40	石器	編物石	15.8	7.1	3.4	459.00	両側抉り	—	完全表調 No21	
41	石器	編物石	16.1	6.5	4.7	615.00	—	—	完全表調 No10	
42	石器	磨石	6.6	3.4	0.6	18.50	正面全体磨り	—	完全表調 ケン	
43	石器	石鏃	6.5	5.7	3.2	58.3	正裏に条痕	—	完全表調 I区ホリ	
44	石器	剥片	2.7	1.8	0.3	2.42	擦痕有	—	完全表調 IV区	
45	石器	剥片	5.8	3.2	0.4	8.52	擦痕有	—	完全表調 IV区	
46	鉄製品	刀子	<12.9>	<1.4>	<0.4>	<23.54>	基部欠損、木質塊	—	完全表調 No26	
47	鉄製品	不明	<2.5>	<1.2>	<0.2>	<1.34>	両端欠損	—	完全表調 No26	

H16 号竪穴建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法			量	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)		内 面	外 面		
1	赤土器	鉢	(15.8)	—	(7.2)	—	ミガキ→赤彩	口縁部曲線成状文、ミガキ→赤彩	同表表調 IV区	
2	赤土器	高杯	—	(9.2)	(6.7)	—	ナデ	ミガキ→赤彩	同表表調 III区	
3	赤土器	甕	(16.4)	—	(14.7)	—	ミガキ	口縁部ナデ→曲線成状文、腹部曲線成状文、底部ハケメ→曲線成状文→ミガキ	同表表調 I→II区、ケン	
4	赤土器	甕	—	6.0	(6.6)	—	ミガキ	ケズリ	同表表調 II区、ケン	
5	赤土器	甕	—	6.4	(8.0)	—	ミガキ	總論成状文、ハケメ→ミガキ	同表表調 I・II・IV区、ケン	
6	赤土器	甕	(17.6)	—	(33.5)	—	口縁部ミガキ、腹部ハケメ、ナデ	口縁部曲線成状文→ミガキ、腹部へう曲線成状文→へう曲線成状文、底部ミガキ	同表表調 III区	
7	石器	磨製石鏃未成品	4.90	2.40	0.10	1.92	擦痕有	—	完全表調 III区	
8	石器	磨製石鏃未成品	(4.90)	(2.30)	(0.10)	<1.53>	片脚及び先端欠損、擦痕有	—	完全表調 III区	
9	石器	磨製石	(9.90)	(5.50)	(4.30)	<278.00>	端部→裏面直打痕、磨面1	—	完全表調 III区	
10	石器	剥片	4.20	2.30	0.15	2.88	擦痕有	—	完全表調 I区	
11	石器	剥片	4.30	3.80	0.45	7.83	—	—	完全表調 III区	
12	石器	剥片	6.5	2.3	0.25	5.22	擦痕有	—	完全表調 III区	

H17 号竪穴建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法			量	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)		内 面	外 面		
1	鉄製品	環	<2.3>	<1.6>	<0.5>	<21>	約1/2欠損	—	完全表調	覆土

H18 号竪穴建物出土遺物総覧表(1)

No	器種	器形	法			量	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)		内 面	外 面		
1	土師器	環	9.0	3.4	4.3	—	ナデ・磨耗	ナデ	完全表調 No13	
2	土師器	環	11.4	10.5	4.5	—	ミガキ	ケズリ、ナデ	同表表調 III区、H12 II区	
3	土師器	環	(13.2)	(11.4)	(5.4)	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	同表表調 No7	
4	土師器	環	(13.8)	—	(4.1)	—	ミガキ	ミガキ	同表表調 D1	
5	土師器	高杯	(14.6)	(11.4)	(6.0)	—	暗文伏へラミガキ	ナデ	同表表調 IV区	
6	土師器	高杯	17.0	15.1	13.2	—	環面直打痕へラミガキ	ナデ→暗文伏へラミガキ	完全表調 カマド	
7	土師器	高杯	—	12.8	(8.0)	—	ケズリ→ナデ	ミガキ	完全表調 No6	
8	土師器	高杯	—	14.1	(5.9)	—	ケズリ→ナデ	ミガキ	完全表調 No12、III区、H12 II区	

H18号竪穴建物出土遺物目録表(2)

No	器種	器形	法		量		内面		外面		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	成形調整	外面		
9	土師器	高坏	—	14.4	<7.3>	—	—	—	—	ミガキ	完全実測	No8 Ⅲ区
10	土師器	鉢	(11.6)	—	(6.1)	—	—	—	—	摩耗	同転実測	Ⅲ区
11	土師器	鉢	(11.8)	—	(5.0)	—	—	—	—	ハケメ→ケズリ	同転実測	DI
12	土師器	鉢	(12.4)	(8.4)	(7.0)	—	—	—	—	ナデ	同転実測	No4・7, Ⅱ区
13	土師器	甕	15.0	6.5	19.0	—	—	—	—	ナデ→ハケメ	同転実測	No5, Ⅰ区, カマド
14	土師器	甕	15.0	—	<12.0>	—	—	—	—	ナデ→ミガキ	完全実測	Ⅳ区, カマド
15	土師器	甕	(30.1)	10.3	29.6	—	—	—	—	ナデ	同転実測	No4・8・9, カマド, Ⅱ・Ⅳ区
16	土師器	甕	11.6	—	<11.0>	—	—	—	—	ミガキ	同転実測	No10・11, DI
17	土師器	甕	16.3	—	<11.9>	—	—	—	—	ハケメ→ナデ, 口縁赤彩	同転実測	No2, Ⅰ区
18	土師器	甕	—	5.8	<7.3>	—	—	—	—	ミガキ	同転実測	カマド
19	土師器	甕	(15.2)	(5.2)	(18.8)	—	—	—	—	ハケメ→ナデ	同転実測	No1
20	土師器	甕	(24.2)	(7.0)	(17.4)	—	—	—	—	上部ハケメ, 下部ナデ	同転実測	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区, Ⅳ区, 未リ
21	土師器	甕	(25.2)	—	<25.4>	—	—	—	—	ハケメ→ミガキ	同転実測	カマド
22	石器	砥石	(11.1)	(12.3)	(5.7)	<968.2>	—	—	—	上下欠損, 正面に稜角, 砥面敷3	完全実測	No22
23	石器	台石	29.0	25.7	8.7	8200.00	—	—	—	使用面1	完全実測	No17
24	石器	打製石斧	(4.9)	(5.6)	(2.0)	5900.00	—	—	—	両端と側面に敲打痕, 磨面1	完全実測	No21
25	石器	磨製石鏃	(16.5)	(2.30)	(0.25)	<1.04>	—	—	—	刃長0.25~0.50, 基部現存, 未成品?	完全実測	Ⅰ区
26	石器	磨・敲石	9.0	5.9	3.6	250.80	—	—	—	両端と側面に敲打痕, 磨面1	完全実測	Ⅲ区
27	石器	磨・敲石	10.0	8.0	5.7	610.80	—	—	—	両端と側面に敲打痕, 磨面1	完全実測	Ⅰ区
28	石器	敲石	16.9	7.1	6.2	1300.00	—	—	—	両端並に敲打痕	完全実測	No16
29	石器	不明	2.9	0.9	0.25	—	—	—	—	2.10両端欠損	完全実測	No15
30	複製品	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	完全実測	No24

H19号竪穴建物出土遺物目録表

No	器種	器形	法		量		内面		外面		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	成形調整	外面		
1	土師器	坏	12.3	17.7	5.6	—	—	—	—	ケズリ	同転実測	No1, Ⅳ区
2	土師器	坏	(14.6)	(14.0)	4.9	—	—	—	—	ケズリ, 木草痕	同転実測	Ⅱ・Ⅳ区
3	土師器	坏	(14.8)	(13.2)	(4.2)	—	—	—	—	ケズリ	同転実測	Ⅲ区, ケン
4	土師器	坏	(15.0)	(13.4)	(4.3)	—	—	—	—	ケズリ	同転実測	Ⅳ区
5	土師器	坏	(15.6)	(15.4)	(5.7)	—	—	—	—	黒色処理	同転実測	Ⅳ区
6	土師器	甕	(18.4)	—	<10.1>	—	—	—	—	ケズリ	同転実測	Ⅲ区
7	須臾器	甕	(10.4)	—	<2.3>	—	—	—	—	口縁部磨削波状文	同転実測	Ⅲ区, ケン
8	弥生土器	甕	—	5.7	(7.7)	—	—	—	—	櫛目斜走文, ミガキ, 赤彩付着	同転実測	No2, Ⅲ区
9	石器	石鏃	1.80	1.60	0.20	0.57	—	—	—	孔φ0.20~0.40, 再成品?	完全実測	ケン
10	石器	石鏃未成品	2.55	2.10	0.25	1.79	—	—	—	側面に磨面, 正面に磨痕有り	完全実測	ケン
11	石器	刺片	2.15	1.30	0.20	0.92	—	—	—	—	完全実測	Ⅲ区
12	石器	刺片	2.90	1.20	0.15	1.14	—	—	—	—	完全実測	Ⅰ区
13	石器	刺片	3.14	2.40	0.30	3.62	—	—	—	—	完全実測	Ⅲ区
14	石器	刺片	3.55	1.85	0.35	2.97	—	—	—	—	完全実測	Ⅳ区

H20 号整穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量		成 形・調 整 外 面		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	胴高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	弥生土器	甕	—	6.0	(3.2)	—	ハケム	ハケム→ミガキ	同転支測	No.1
2	弥生土器	台付甕	—	—	<(11.7)>	—	ハケム、ナデ	ハケム、ケズリ→ミガキ	同転支測	No.2
3	弥生土器	ミニチュア土器	3.2	3.4	5.4	—	ナデ	ミガキ	完全支測	No.3

H21 号整穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量		成 形・調 整 外 面		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	胴高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	弥生土器	台付甕	—	(6.6)	(6.9)	—	脚部ナデ	ミガキ	同転支測	Ⅱ区
2	弥生土器	台付甕	—	—	(3.5)	—	ミガキ、赤色顔料付着	ミガキ	完全支測	Ⅰ区ホリ
3	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	破片支測、拓本	Ⅱ区	Ⅰ区
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	口内面傾目	破片支測、拓本	Ⅱ区	Ⅱ区
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	脚部破片支、ミガキ→赤彩	破片支測、拓本	Ⅱ区	Ⅱ区
6	石器	砥石	8.1	3.8	1.9	92.43	正面及び左側に条痕、砥面数4	—	完全支測	Ⅱ区
7	石器	凹石	8.0	8.4	5.2	114.09	正面に複数の凹、凹φ0.7～1.5、凹深0.2～1.0	—	完全支測	Ⅱ区
8	石器	削片	3.7	1.8	0.2	1.97	—	—	完全支測	Ⅱ区
9	石器	剥片	6.5	4.0	0.4	13.85	植木の分割?	—	完全支測	Ⅱ区
10	鉄器	長細鎌	<(15.2)>	0.7	0.5	<(15.71)>	先端欠損?	—	完全支測	Ⅱ区
11	鉄製品	角釘	<(4.1)>	<(0.5)>	<(0.5)>	<(1.99)>	両端欠損	—	完全支測	Ⅱ区
12	鉄製品	角釘	<(4.8)>	0.3	0.4	<(2.56)>	先端欠損	—	完全支測	Ⅱ区
13	鉄製品	角釘	6.2	0.7	0.5	3.05	先端欠損	—	完全支測	Ⅱ区
14	鉄製品	角釘	<(6.5)>	0.9	0.5	<(6.22)>	先端欠損	—	完全支測	Ⅱ区
15	鉄製品	角釘	<(7.0)>	1.2	0.7	<(10.59)>	先端欠損	—	完全支測	Ⅱ区
16	鉄製品	不明	<(4.2)>	<(0.4)>	<(0.3)>	<(2.34)>	両端欠損	—	完全支測	Ⅱ区
17	鉄製品	不明	<(5.6)>	<(0.5)>	<(0.2)>	<(3.02)>	両端欠損	—	完全支測	Ⅱ区

H22 号整穴建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法		量		成 形・調 整 外 面		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	胴高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(13.2)	(11.8)	(4.5)	—	脚文状ヘラミガキ	ケズリ	同転支測	Ⅱ区
2	土師器	坏	(15.6)	—	(7.5)	—	口縁部ミガキ、体部嘴文状ヘラミガキ	ミガキ	同転支測	Ⅲ区
3	土師器	坏	—	—	<(3.1)>	—	ミガキ	ミガキ	同転支測	Ⅰ区
4	土師器	高坏	(16.0)	—	(6.9)	—	ミガキ	ミガキ	同転支測	Ⅱ区
5	土師器	高坏	—	(14.4)	(1.6)	—	ナデ	ミガキ	同転支測	Ⅲ区
6	土師器	高坏	—	(16.0)	(1.9)	—	ナデ	上部ミガキ、下部ハケム	同転支測	Ⅲ区
7	土師器	高坏	—	(6.9)	(6.9)	—	磨耗	ナデ	同転支測	Ⅲ区
8	土師器	甕	(11.9)	—	(10.1)	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	同転支測	Ⅰ区、カマド
9	土師器	甕	(12.4)	—	(9.3)	—	ナデ	ケズリ、ケズリ	同転支測	Ⅱ区、ケズ
10	土師器	甕	(14.4)	(6.8)	(14.4)	—	ナデ→ミガキ	ハケム、ケズリ、ミガキ	同転支測	Ⅰ区、カマド
11	土師器	甕	(16.6)	(4.2)	(28.3)	—	ハケム	ケズリ	同転支測	Ⅱ区
12	土師器	甕	—	—	5.6	(5.5)	ナデ	ケズリ	同転支測	Ⅱ区
13	土師器	甕	—	—	—	(4.9)	ナデ	破片支測、拓本	同転支測	Ⅱ区
14	須臾器	甕	—	—	—	—	ナデ	破片支測、拓本	同転支測	Ⅱ区
15	須臾器	甕	—	—	—	—	ナデ	櫛状工具による刺突	同転支測、拓本	Ⅱ区

H22号窖穴建物出土遺物総覧表(2)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面		
16	縄文土器	鉢	—	—	—	—	—	—	—	—
17	石製器	破片	<4.6>	<3.2>	<0.6>	<15.0>	<0.5>	波状口縁、孔縁文、後明	破片実測、拓本	I区ホリ
18	石製器	有孔円盤	2(6)	3(4.5)	0.55	7.15	2孔共φ0.3	完全実測	完全実測	III区
19	石製品	錐形	<4.9>	<1.8>	<0.55>	<6.83>	2孔共φ0.2、一部欠損	完全実測	完全実測	III区
20	石製品	錐形	<2.00>	<1.00>	<0.35>	<5.09>	2孔共φ0.2	完全実測	完全実測	IV区
21	石製器	石盤	<2.10>	<1.30>	<0.81>	<3.90>	片断欠損	完全実測	完全実測	IV区
22	石製品	白玉	0.50	0.50	0.20	0.07	φ0.2	完全実測	完全実測	II区
23	石製品	白玉	0.50	0.50	0.30	0.16	φ0.2	完全実測	完全実測	II区
24	石製器	扁物石	10.40	4.60	3.40	248.05	口縁に使用痕	完全実測	完全実測	III区
25	石製器	磨石	6.20	5.60	1.10	53.79	全体に磨り	完全実測	完全実測	III区
26	石製器	磨石	12.10	9.10	5.70	708.47	断面3	No.1	完全実測	No.1
27	石製器	刷片	2.90	2.00	0.40	2.49	—	完全実測	完全実測	III区
28	石製器	使用痕のある刷片	5.10	4.70	1.30	32.02	口縁に使用痕	完全実測	完全実測	IV区
29	鉄器	鏃	13.00	3.30	0.50	69.91	—	No.2	完全実測	No.2
30	鉄製品	不明	<5.9>	<3.1>	<0.6>	<23.95>	両端欠損	完全実測	完全実測	IV区

H23号窖穴建物出土遺物総覧表(1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面		
1	土製器	環	14.0	13.8	5.5	—	—	ケスウ→ミガキ	口縁実測	IV区
2	弥生土器	鉢	(19.4)	—	(6.2)	—	—	ミガキ→赤彩	口縁実測	P9
3	弥生土器	甕	—	6.6	(6.3)	—	—	ミガキ	口縁実測	III区
4	弥生土器	甕	—	6.8	(4.1)	—	—	ミガキ	口縁実測	IV区
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	口唇部と口縁部破文、口縁部にヘラ指波状文	破片実測、拓本	II区
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	口唇部破文	破片実測、拓本	II区
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	口唇部破文(6本1連止)、口唇部破文、赤彩	破片実測、拓本	I区ホリ
8	弥生土器	甕	(17.8)	—	(22.3)	—	—	口唇部破文(5本)、口唇部破文、赤彩	破片実測、拓本	III、IV区
9	弥生土器	甕	(18.2)	—	(3.9)	—	—	ヘラ指波状文、口唇部破文、口唇部破文、赤彩	破片実測、拓本	III区
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	ヘラ指波状文、口唇部破文、口唇部破文、赤彩	破片実測、拓本	III区
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	ヘラ指波状文、口唇部破文、口唇部破文、赤彩	破片実測、拓本	III区
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	口唇部破文、ヘラ指波状文内に唇部の磨痕	破片実測、拓本	III、IV区
13	石器	磨石	<17.4>	<12.7>	<5.2>	<1382.0>	右側欠損、使用面1	完全実測	完全実測	II区
14	石器	石鏡	19.60	13.40	1.90	579.0	正面に自然痕、刃部に磨痕	No.2	完全実測	No.2
15	石製品	砥石(石割?)	<7.2>	<3.5>	<1.3>	<37.0>	上部欠損、縁あり	完全実測	完全実測	IV区
16	石器	磨石	<7.9>	<5.7>	<1.8>	<111.0>	下部欠損、断面1	完全実測	完全実測	II区
17	石器	磨石	8.4	5.5	1.4	88.0	断面1、縁辺に磨行痕	完全実測	完全実測	IV区
18	石器	磨石	10.70	4.50	1.90	99.00	断面1、縁辺に磨行痕	完全実測	完全実測	II区
19	石器	磨製石鏡(未成品)	2.20	2.20	0.20	126.00	両側、正裏に磨痕	完全実測	完全実測	II区
20	石器	磨製石鏡(未成品)	<2.25>	<1.10>	<0.15>	<0.47>	片断欠損	完全実測	完全実測	IV区
21	石器	磨製石鏡	<2.40>	<2.20>	<0.25>	<1.67>	φ0.2 - 0.4、先端欠損	完全実測	完全実測	II区
22	石器	磨製石鏡	<2.45>	<1.40>	<0.20>	<1.05>	φ0.1 - 0.35、基部欠損	完全実測	完全実測	II区
23	石器	磨製石鏡(未成品)	2.85	1.70	0.20	0.94	穿孔あり、φ0.35	完全実測	完全実測	II区
24	石器	磨製石鏡(未成品)	3.50	2.40	0.30	2.53	—	完全実測	完全実測	I区

H23 号墓穴建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	先			量	備考	出土部位	
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)				重量等
25	石器	剥片	1.20	0.90	0.15	0.18	完全表割	Ⅱ区	
26	石器	剥片	1.20	1.05	0.20	0.71	他に1片、正面に擦痕	未図化	Ⅱ区
27	石器	剥片	1.50	0.95	0.15	0.20	正面と上面に擦痕	完全表割	Ⅱ区
28	石器	剥片	1.95	1.90	0.10	0.64	左側に擦痕	完全表割	Ⅱ区
29	石器	剥片	2.00	0.75	0.10	0.16	他に3片	未図化	Ⅱ区
30	石器	剥片	2.10	3.00	0.35	2.05		完全表割	Ⅱ区
31	石器	剥片	2.30	1.30	0.15	0.80	正裏に擦痕	完全表割	Ⅱ区
32	石器	剥片	2.40	1.10	0.20	0.59	他に1片、正面に擦痕	未図化	Ⅱ区ホリ
33	石器	剥片	2.50	2.05	0.25	1.65		完全表割	Ⅱ区
34	石器	剥片	2.60	1.80	0.30	1.31		完全表割	Ⅱ区
35	石器	剥片	2.65	2.05	0.20	1.96	右側と下面に磨り切り痕	完全表割	Ⅱ区
36	石器	剥片	2.70	2.70	0.35	2.56	正面に擦痕	完全表割	Ⅱ区
37	石器	剥片	2.85	0.80	0.25	0.69	両側に擦痕	完全表割	P9
38	石器	剥片	2.85	1.90	0.25	1.47		完全表割	Ⅱ区
39	石器	剥片	3.00	2.30	0.25	2.10		完全表割	Ⅱ区
40	石器	剥片	3.05	1.70	0.20	1.02		完全表割	Ⅰ区
41	石器	剥片	3.15	1.50	0.20	1.40		完全表割	Ⅱ区
42	石器	剥片	3.15	3.40	0.25	4.00		完全表割	Ⅱ区
43	石器	剥片	3.20	1.30	0.35	2.11		完全表割	Ⅰ区
44	石器	剥片	3.20	1.55	0.20	1.09		完全表割	Ⅱ区
45	石器	剥片	3.30	2.15	0.25	2.11		完全表割	Ⅰ区
46	石器	剥片	3.35	2.10	0.35	3.34	正面に擦痕	完全表割	Ⅱ区
47	石器	剥片	3.40	2.20	0.25	1.90		完全表割	Ⅱ区
48	石器	剥片	3.50	1.90	0.25	1.56		完全表割	Ⅱ区
49	石器	剥片	3.55	1.95	0.25	1.73	自然面残る	完全表割	Ⅱ区
50	石器	剥片	3.65	2.30	0.35	3.00		完全表割	Ⅱ区
51	石器	剥片	3.65	2.35	0.35	2.71		完全表割	Ⅱ区
52	石器	剥片	3.70	1.90	0.40	2.82		完全表割	Ⅱ区
53	石器	剥片	3.85	1.90	0.50	4.78		完全表割	Ⅱ区
54	石器	剥片	4.00	1.80	0.20	2.45		完全表割	Ⅱ区
55	石器	剥片	4.30	1.65	0.25	2.87		完全表割	Ⅱ区
56	石器	剥片	4.60	1.80	0.45	4.44		完全表割	Ⅱ区
57	石器	剥片	4.70	1.85	0.25	2.22	正裏と上面に擦痕	完全表割	Ⅱ区
58	石器	剥片	4.70	1.90	0.35	3.95		完全表割	Ⅱ区
59	石器	剥片	4.85	1.70	0.30	3.10	正面に擦痕	完全表割	Ⅱ区
60	石器	剥片	5.30	2.10	0.60	6.33		完全表割	Ⅱ区
61	石器	剥片	5.90	1.40	0.50	4.08	側縁に使用痕	完全表割	Ⅱ区
62	石器	剥片	8.40	1.40	0.35	5.33	正裏に擦痕	完全表割	Ⅱ区
63	石器	剥片	—	—	—	<24.49>30片		未図化	Ⅱ区
64	石器	剥片	—	—	—	0.81	1片	未図化	Ⅱ区ホリ
65	石器	剥片	—	—	—	0.17		未図化	Ⅱ区
66	石器	剥片	—	—	—	<19.86>8片		未図化	Ⅱ区
67	石器	剥片	—	—	—	<12.03>19片		未図化	Ⅱ区

H23号竪穴建物出土遺物総覧表(3)

No	器種	器形	法		量		内面	外形・調整	外面	備考	出土部位
			口径(径)底径(径)	断面(厚)	重量等	重量等					
68	石器	剥片	—	—	<4.67>	<6片>	—	—	—	未図化	II区
69	石器	剥片	—	—	<1.66>	<2片>	—	—	—	未図化	I区
70	石器	不明	9.70	3.2	2.60	1.160	片端部に剝離痕、全体に条痕、摺痕あり	—	—	完全図測	No1
71	鉄製品	鉄錐	<3.4>	<4.0>	<0.3>	<12.90>	口縁一部欠存	—	—	完全図測	ケン

H24号竪穴建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法		量		内面	外形・調整	外面	備考	出土部位
			口径(径)底径(径)	断面(厚)	重量等	重量等					
1	土師器	坏	11.2	—	5.2	—	ミガキ	ナデマウスリ	—	図解図測	II区
2	土師器	高杯	—	—	<7.3>	—	ナデ	ミガキ	—	図解図測	II区
3	土師器	鉢	<18.0>	—	<7.2>	—	ナデ	ナデ	—	図解図測	No4、II区
4	土師器	鉢	<21.0>	—	<8.9>	—	ナデ	ナデ	—	図解図測	III、IV区
5	土師器	鉢	<17.0>	—	<14.8>	—	ナデ	ナデ	—	図解図測	No2
6	土師器	甕	—	—	<15.0>	—	ナデ	ナデ?	—	図解図測	No1
7	土師器	甕	<18.6>	—	<5.1>	—	ナデ	ナデ	—	図解図測	I区、ケン、P6
8	土師器	甕	—	2.8	6.4	<3.5>	—	ナデ	ナデ	図解図測	No3
9	石器	石鏡(未成跡)	—	2.3	0.75	4.44	—	—	—	完全図測	ケン
10	石器	編物石	<12.6>	<7.9>	<4.6>	<745.47>	下部欠損、使用痕あり	—	—	完全図測	II区ホリ
11	石器	編物石	13.1	6.0	3.7	424.57	他に1片	—	—	未図化	IV区
12	石器	編物石	13.1	8.5	2.7	493.83	—	—	—	完全図測	P6
13	石器	編物石	<13.7>	<6.3>	<4.2>	<470.17>	下部欠損、使用痕あり	—	—	完全図測	II区ホリ
14	石器	編物石	13.7	6.5	4.6	545.23	使用痕あり	—	—	完全図測	ケン
15	石器	編物石	13.7	7.3	6.6	927.68	使用痕あり	—	—	完全図測	II区ホリ
16	石器	編物石	13.8	7.2	7.2	766.08	—	—	—	完全図測	No15
17	石器	編物石	14.5	6.5	3.3	397.92	抉りあり	—	—	完全図測	No11
18	石器	編物石	14.8	8.2	4.9	677.72	抉りあり	—	—	完全図測	No7
19	石器	編物石	15.4	7.2	5.3	803.84	—	—	—	完全図測	No24
20	石器	編物石	16.1	7.7	4.8	783.59	端部に使用痕あり	—	—	完全図測	No20
21	石器	編物石	16.2	7.8	5.3	964.03	—	—	—	完全図測	No13
22	石器	編物石	16.3	6.7	3.6	627.38	—	—	—	完全図測	No5
23	石器	編物石	16.3	7.3	4.4	842.90	使用痕あり	—	—	完全図測	No18
24	石器	編物石	16.6	7.3	4.8	773.92	—	—	—	完全図測	No25
25	石器	編物石	16.6	8.4	4.0	849.83	抉りあり	—	—	完全図測	No14
26	石器	編物石	16.9	6.5	4.8	687.72	抉りあり	—	—	完全図測	II区ホリ
27	石器	編物石	17.1	8.2	4.0	837.80	両側に抉りあり	—	—	完全図測	II区ホリ
28	石器	編物石	17.4	7.5	4.2	637.36	使用痕あり	—	—	完全図測	No10
29	石器	編物石	17.6	9.0	5.3	950.20	抉りあり	—	—	完全図測	No21
30	石器	編物石	17.9	7.3	4.4	745.56	使用痕あり	—	—	完全図測	No9
31	石器	磨石	14.3	11.6	10.3	1510.00	断面1	—	—	完全図測	No12
32	石器	磨石	7.4	8.0	6.4	417.00	端部に線子痕	—	—	完全図測	No23
33	石器	剥片	4.0	1.65	0.35	2.69	—	—	—	完全図測	I区



H25 号整穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法	量	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	—	—	内面黒色遺理	ケズリ	破行実測	覆土
2	土師器	甕	(22.8)	(5.7)	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
3	土師器	壺	(28.4)	(13.6)	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土

H26 号整穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法	量	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	甕	—	(7.4)	ナデ	ハケメ	回転実測、拓本	覆土
2	弥生土器	甕	—	(2.4)	ミガキ	口唇部斜目、頸部下脚指捺状文	破行実測、拓本	覆土
3	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	口縁部、頸部下脚指捺状文	破行実測、拓本	覆土
4	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	口唇部、口縁部縄文、頸部下脚指捺状文	破行実測、拓本	覆土
5	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	脚指捺状文	破行実測、拓本	覆土

H27 号整穴建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法	量	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	—	10.8	(2.0)	ミガキ	回転実測	Ⅳ区
2	須恵器	産	—	(3.4)	ナデ	ケズリ→ミガキ	破行実測	Ⅰ、Ⅱ区
3	土師器	甕	(15.4)	(13.6)	ナデ	ケズリ	回転実測	Ⅳ区
4	土師器	甕	(16.2)	(6.3)	ナデ	ミガキ	回転実測	Ⅱ区
5	土師器	甕	(20.2)	(11.5)	ハケメ	ハケメ→ミガキ	回転実測	Ⅲ、Ⅳ区、Ⅳ区ホリ
6	土師器	甕	(5.4)	(10.7)	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅳ区
7	土師器	甕	(6.2)	(16.0)	ナデ	ケズリ	回転実測	Ⅰ区ホリ
8	土師器	甕	—	(25.3)	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅱ区、カマド
9	弥生土器	高坏	(10.8)	(6.7)	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩、変形×4	回転実測	Ⅱ区
10	弥生土器	台付甕	—	(8.6)	ミガキ、ハケメ	ハケメ	回転実測、拓本	Ⅳ区
11	弥生土器	甕	—	(5.0)	ミガキ	脚指捺状文	破行実測、拓本	Ⅰ区
12	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	ハケメ→脚指捺状文	破行実測、拓本	Ⅰ区
13	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	縄文LR	破行実測、拓本	Ⅰ区
14	石器	砥石	(7.9)	(5.5)	(148.6)	下部欠損、敲打痕あり、砥面破1	完全実測	P3
15	石器	砥石	(19.1)	(18.9)	(2160.0)	極熱あり?、一部黒化、側面→裏面欠損、砥面数2	完全実測	Ⅱ区
16	石器	叩石	(11.5)	(8.7)	(176.9)	約1/2欠損	完全実測	Ⅰ区
17	石器	打製石斧?	(8.6)	(5.7)	(143.3)	下部欠損	完全実測	P1
18	石器	石鏝	2.3	1.5	0.3	0.8 黒曜石、正裏に首輪痕あり	完全実測	Ⅰ区
19	石器	編物石	(8.0)	(6.0)	(3.4)	一部欠損	完全実測	Ⅳ区
20	石器	編物石	8.1	5.8	3.6	272.0 使用痕あり	完全実測	Ⅳ区ホリ
21	石器	編物石	8.3	4.6	2.8	128.3 使用痕あり	完全実測	P2
22	石器	編物石	9.6	5.6	3.9	282.5 使用痕あり	完全実測	P3
23	石器	編物石	10.2	5.8	3.0	142.1 使用痕あり	完全実測	Ⅳ区
24	石器	編物石	10.4	5.1	4.0	289.5	完全実測	Ⅰ区
25	石器	編物石	10.6	6.4	3.8	345.5	完全実測	P3
26	石器	編物石	11.0	7.6	3.5	384.0	完全実測	Ⅰ区
27	石器	編物石	13.7	7.6	3.8	578.0	完全実測	Ⅲ区

H27号整穴建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	径(高)	厚(厚)	重量等	内面		
28	石器	編物石	14.2	5.7	3.8	427.0	—	—	完全共測	P3
29	石器	磨石	9.8	6.4	4.6	414.0	断面3	—	完全共測	P3
30	石器	削片	2.4	1.7	0.3	1.28	—	—	完全共測	Ⅲ区
31	石器	削片	2.6	1.7	0.15	0.61	—	—	完全共測	I区
32	石器	削片	2.9	1.8	0.25	1.3	断面面残る	—	完全共測	I区
33	石器	削片	5.1	1.1	0.35	3.09	—	—	完全共測	間仕切1

H29号整穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	径(高)	厚(厚)	重量等	内面		
1	青磁	碗	—	—	—	—	—	—	破片共測	N区
2	鉄器	刀子	23.4	1.9	0.4	48.12	木質残る	通弁文	完全共測	No1

Ta1号整穴建物址出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	径(高)	厚(厚)	重量等	内面		
1	土師器	高坏	—	—	—	—	—	—	—	Nホリ
2	青磁	碗	—	—	—	—	—	—	—	—
3	石器	磨石	<12.5>	<6.7>	<6.3>	<535.0>	全周欠損、使用面1	通弁文、ロクロナデ	—	Nホリ
4	石器	磨石	<11.7>	<10.6>	<3.4>	<571.0>	上部欠損、磨面1	—	—	Ⅲ区
5	石器	磨・敲石	11.6	7.3	3.4	452.0	磨面と削切に敲打痕、磨面2	—	—	Ⅱ区
6	石器	敲石	12.0	6.5	3.7	284.0	上下両面に敲打痕	—	—	Ⅱ区
7	鉄器	刀子	12.90	1.40	0.35	<15.19>	上部欠損、折れ曲がる	—	—	Ⅱ区

Ta2号整穴建物址出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	径(高)	厚(厚)	重量等	内面		
1	土師器	土師皿	(9.0)	(6.0)	(1.3)	—	ナデ	—	—	—
2	土師器	高坏	—	—	<4.7>	—	—	白地糸切、ヘラケズリケズリ	—	回転共測 I・N区
3	弥生土器	甕	(14.6)	—	<10.5>	—	黒色処理	—	—	回転共測 覆土
4	石器	敲石	15.5	6.0	2.8	369.0	辺縁に敲打痕	—	—	—
5	鉄製品	角釘	<6.1>	1.3	0.8	<8.26>	先端欠損	—	—	完全共測 Ⅲ区

Ta3号整穴建物址出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	径(高)	厚(厚)	重量等	内面		
1	須臾器	坏	—	(12.2)	<2.9>	—	ロクロナデ	—	—	N区、Ta4S区
2	須臾器	甕	—	(7.6)	<2.8>	—	ロクロナデ	—	—	覆土
3	須臾器	甕	(15.2)	—	<2.4>	—	ロクロナデ	—	—	S区
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	—	—	—
5	石器	削片	4.0	4.3	0.5	11.86	—	—	—	—

T04 号野穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長) 底径(短) 器高(厚) 重量等						
1	土師器	高坏?	—	(8.0) <7.3> —	ミガキ→黒色処理、脚部ハケメ	—	—	—	ケン
2	須置器	環	—	(11.0) <2.8> —	口方ロナデ	—	—	—	S区
3	弥生土器	甕	—	(19.0) <3.4> —	ミガキ	—	—	—	S区
4	弥生土器	甕	—	(7.0) <3.9> —	ミガキ	—	—	—	S区
5	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	—	—	—	ケン
6	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	—	—	—	ケン
7	弥生土器	甕	—	(11.0) <2.8> —	ミガキ、剥離	—	—	—	S区
8	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	—	—	—	S区
9	石器	扁平石	—	11.5 5.5 4.1 320.5	—	—	—	—	S区
10	石器	扁平石	—	12.2 5.2 2.7 263.0	—	—	—	—	S区
11	石器	剥片	—	5.1 1.4 0.3 2.0 摩滅存	—	—	—	—	S区
12	鉄製品	不明	—	<6.2> <3.7> <0.3>  15.6] 1個欠損	—	—	—	—	ケン
13	銅製品	占瓦	—	2.0 2.4 0.1 2.8	—	—	—	—	ケン
14	銅製品	占瓦	—	2.4 2.5 0.2 3.5 元部通瓦	—	—	—	—	ケン

T05 号野穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長) 底径(短) 器高(厚) 重量等						
1	石器	砥石	—	<4.3> <3.3> <1.5> <18.0>	全面欠損、砥面数2、2面に染痕	—	—	—	II区
2	石器	剥片	—	1.40 0.90 0.15 0.21	側面に擦痕	—	—	—	I区
3	石器	剥片	—	1.90 1.50 0.15 0.61	擦痕あり	—	—	—	I区
4	石器	剥片	—	—	—	—	—	—	II区
5	石器	剥片	—	—	—	—	—	—	I区
6	鉄製品	不明	—	<4.9> <2.50> <0.35> <9.90>	右側欠損か?	—	—	—	I区

T06 号野穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長) 底径(短) 器高(厚) 重量等						
1	須置器	揺鉢	—	(22.2) <11.1> —	ナデ	—	—	—	覆土
2	弥生土器	台付甕	—	(6.2) <4.4> —	ミガキ	—	—	—	覆土
3	銅製品	占瓦	—	2.5 2.5 0.1 3.09	—	—	—	—	覆土

T07 号野穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長) 底径(短) 器高(厚) 重量等						
1	土師器	環	—	—	ミガキ→黒色処理	—	—	—	II区
2	土師器	甕	—	(5.4) <1.7> —	ナデ	—	—	—	覆土
3	須置器	甕	—	—	青銅成文?	—	—	—	覆土
4	弥生土器	甕	—	—	青銅成文 (R2)	—	—	—	II区
5	弥生土器	甕	—	—	ミガキ	—	—	—	II区
6	石器	台石	—	38.0 <12.0> <17800.0>	正面一部欠損、使用面2	—	—	—	No.2、3
7	鉄製品	角釘	—	<2.8> <1.0> <0.7> <6.09>	先端欠損	—	—	—	覆土

Ta9 号整穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	成形調整	外面	備考	出土層位
1	石器	剥片	口徑(長)底徑(短)器高(厚) 5.5 2.9 0.4	重量等 9.1	正縁に押痕、摺切り痕あり		完全共測	N区

Ta10 号整穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	成形調整	外面	備考	出土層位
1	石器	砥石	口徑(長)底徑(短)器高(厚) 7.9 5.0 2.1	重量等 95.1	砥面敷2		完全共測	Ⅱ区
2	石器	砥石	口徑(長)底徑(短)器高(厚) (7.0) (5.6) (5.3)	重量等 (246.5)	両面欠損、砥面敷2		完全共測	N区
3	石器	硯?	口徑(長)底徑(短)器高(厚) (4.7) (5.1) (0.7)	重量等 (20.73)	1辺と裏面を現し欠損、条痕及び押痕有		完全共測	N区

Ta11 号整穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	成形調整	外面	備考	出土層位
1	鉄製品	不明	口徑(長)底徑(短)器高(厚) (2.2) (2.1) (0.3)	重量等 (2.10)	片断欠損		完全共測	覆土

F3 号独立柱建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	成形調整	外面	備考	出土層位
1	石器	石鏡	口徑(長)底徑(短)器高(厚) (2.40) (1.95) 0.4	重量等 (0.93)	石脚欠損、黒曜石		完全共測	P1

土坑出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法	量	成形調整	外面	備考	出土層位
1	青磁	基片文碗	口徑(長)底徑(短)器高(厚) (9.7) 6.1 10.2	重量等 —	ナデ、ミガキ	—	破片共測	D3
1	赤生土器	甕	(17.8) —	<11.9>	ナゲス、口唇部縮み液状文、口縁部縮み液状文、内形割付文、体部縮み液状文、轡面垂下文	—	同形共測	D4
2	赤生土器	甕	—	6.6 (3.8)	ナデ	—	同形共測	D4
3	赤生土器	甕	(20.8) —	<14.5>	ナゲス	—	完全共測	D4
4	赤生土器	甕	(20.8) (0.8)	<0.4>	ナゲス、口唇部縮み液状文、口縁部縮み液状文、体部縮み液状文、轡面垂下文	—	同形共測	D4
1	鉄製品	角釘	(5.6) (1.3)	<1.2>	頭部先端欠損	—	完全共測	D7
2	鉄製品	角釘	(5.6) (1.3)	<1.2>	頭部先端欠損	—	完全共測	D7
1	土師器	杯	(9.0) (5.8)	—	ナデ	—	同形共測	D16
2	赤生土器	甕	—	—	ナゲス	—	同形共測	D16
3	石器	編物石	12.3 7.8	3.7	245.2	両側に抉り	完全共測、柁本	D16
1	赤生土器	甕	—	—	ナゲス	—	完全共測	D20
1	赤生土器	甕	(12.0) —	<5.5>	ミガキ	—	同形共測	D21
2	赤生土器	甕	(13.6) —	<2.6>	ミガキ	—	同形共測	D21
3	赤生土器	甕	(18.6) —	<4.4>	ミガキ	—	同形共測	D21
1	鉄製品	角釘	(3.7) (0.4)	<0.4>	頭部欠損	—	完全共測	D22
1	鉄製品	古銭	(1.30) (2.00)	<0.15>	<1.34>	頭1/3残存	完全共測	D22
2	銅製品	銅環	0.9 0.9	0.2	—	—	完全共測	D23
1	赤生土器	甕	(14.0) —	<11.0>	ミガキ	—	完全共測	D28
2	赤生土器	甕	—	—	ミガキ	—	同形共測	D28
3	赤生土器	甕	—	—	ミガキ	—	同形共測	D28
1	石器	剥片	2.5 1.3 0.3	1.4	頭部あり	—	完全共測	D32

土坑出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			重量	内面			成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		器高(厚)	重量等	内面				
1	青磁	碗	—	—	—	—	—	—	ナデ文	—	—	破片実測	D38
2	鉄製品	不明	<5.2>	<1.4>	<0.6>	<6.38>	—	—	同端欠損、鉄有	—	—	完全実測	D38
1	土製品	土器片(内盤)	4.3	5.3	0.9	—	—	—	—	—	—	完全実測	D40
2	銅製品	古銭	2.4	2.4	0.2	3.13	—	—	開元通宝	—	—	完全実測	D40
1	青磁	鉢	—	—	—	—	—	—	ナデ文	—	—	完全実測	D42
2	陶器	鉢	<25.0>	—	<3.7>	—	—	—	ナデ文	—	—	完全実測	D42
3	石器	輪物石	11.50	6.20	4.50	280.50	—	—	右側に捺り	—	—	完全実測	D42
4	石器	磨・砥石	<5.8>	<4.7>	<2.4>	<80.60>	—	—	下部欠損、端部に敲打痕、正裏に条痕、磨面1	—	—	完全実測	D42
5	石器	砥石	9.00	5.90	4.70	300.50	—	—	同様に敲打痕	—	—	完全実測	D42
6	鉄製品	不明	2.9	1.2	0.50	2.85	—	—	一部重なる	—	—	完全実測	D42
7	銅製品	古銭	2.2	2.2	0.15	2.65	—	—	—	—	—	完全実測	D42

ピット出土遺物観察表

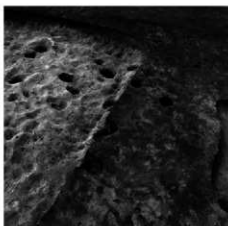
No	器種	器形	法			重量	内面			成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		器高(厚)	重量等	内面				
1	石器	砥石	<7.7>	<6.6>	<3.0>	<211.90>	—	—	下部欠損、端部に敲き	—	—	完全実測	P15
1	土陶器	鉢	16.00	15.40	0.20	—	—	—	ナデ→ミガキ	—	—	完全実測	P19
1	銅製品	古銭	2.40	2.40	0.15	3.2	—	—	開元通宝	—	—	完全実測	P117
1	石器	磨片	7.0	2.0	0.4	6.2	—	—	右側に磨面、他1点凹化なし	—	—	完全実測	P124
1	石器	磨石	<11.1>	<15.2>	<3.3>	<797.89>	—	—	下部欠損、磨面2	—	—	完全実測	P153

溝橋外遺物観察表

No	器種	器形	法			重量	内面			成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		器高(厚)	重量等	内面				
1	土陶器	碗	—	—	7.5	<2.7>	—	—	ミガキ→黒色鬼理	—	—	完全実測	ケン
2	土陶器	皿	—	—	7.0	<2.7>	—	—	ミガキ	—	—	完全実測	ケン
1	石器	原材	2.45	1.80	0.25	1.37	—	—	—	—	—	完全実測	ケン
2	石器	原材	3.40	2.10	0.40	3.41	—	—	—	—	—	完全実測	ケン
1	鉄製品	角釘	<5.1>	<0.5>	<0.5>	<3.09>	—	—	頭部先端欠損	—	—	完全実測	ケン
2	鉄製品	角輪	<4.0>	<0.4>	<0.3>	<1.31>	—	—	上部欠損	—	—	完全実測	表塚
3	鉄製品	角輪	<5.8>	<0.6>	<0.4>	<3.57>	—	—	下部欠損	—	—	完全実測	表塚
4	鉄製品	角輪?	<6.00>	<1.60>	<0.35>	<18.18>	—	—	推定径(11.2)	—	—	完全実測	表塚
5	鉄製品	不明	<2.0>	<1.1>	<0.1>	<0.5>	—	—	同端欠損、湾曲している	—	—	完全実測	表塚



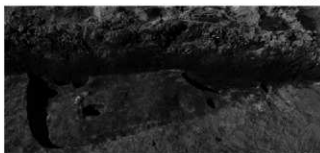
H 1号竪穴建物



H 2号竪穴建物



H 3号竪穴建物



H 4号竪穴建物



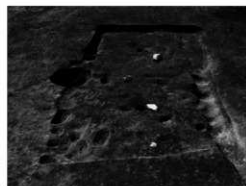
H 5号竪穴建物カマド



H 5号竪穴建物



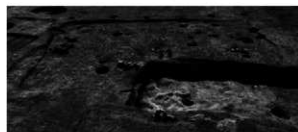
H 6号竪穴建物



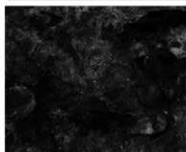
H 7号竪穴建物



H 8号竪穴建物



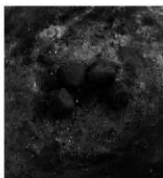
↑ H 9号竪穴建物



← H 9号竪穴建物炉



H10号竪穴建物



H10号竪穴建物炉



H11号竪穴建物カマド



H11号竪穴建物



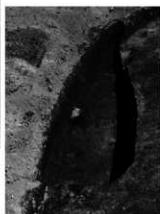
H12号竪穴建物



H13号竪穴建物



H12号竪穴建物カマド



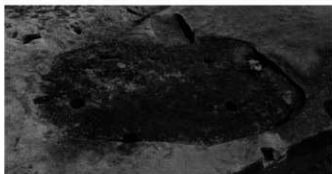
H14号竪穴建物



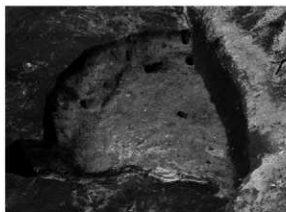
H15号竪穴建物



H15号竪穴建物カマド



H16号竪穴建物



H17号竪穴建物



H18号竪穴建物



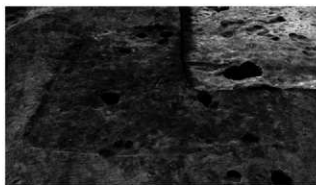
H19号竪穴建物



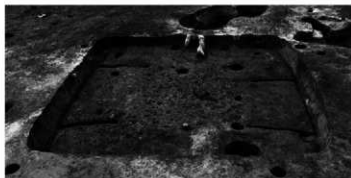
H19号竪穴建物カマド



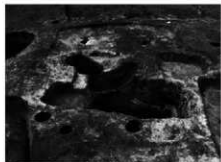
H18号竪穴建物カマド



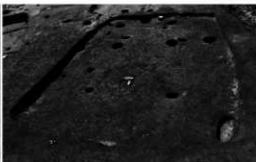
H20号竪穴建物



H22号竪穴建物



H21号竪穴建物



H23号竪穴建物

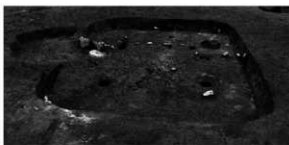


H22号竪穴建物カマド





H23号竪穴建物炉



H24号竪穴建物



H24号竪穴建物カマド



H25号竪穴建物



H26号竪穴建物



H27号竪穴建物



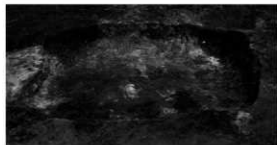
H28号竪穴建物炉



H29号竪穴建物



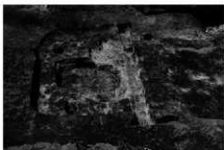
Ta1号竪穴建物、D6・D42号土坑



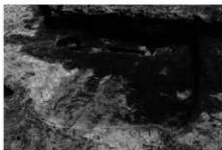
Ta3号竪穴建物



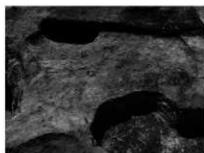
Ta2号竪穴建物



Ta4号竪穴建物、D16・17号土坑



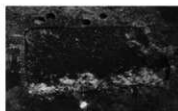
Ta5号竪穴建物



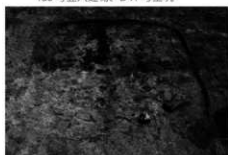
Ta6 号壁穴建物、D41 号土坑



Ta7 号壁穴建物



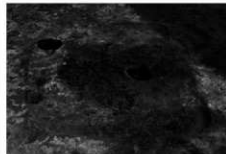
Ta8 号壁穴建物



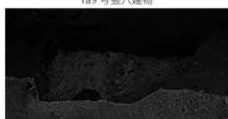
Ta9 号壁穴建物



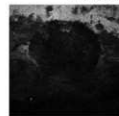
Ta10 号壁穴建物



Ta11 号壁穴建物



Ta12 号壁穴建物



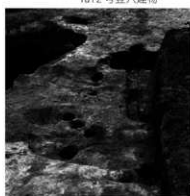
D 1 号土坑



D 2 号土坑



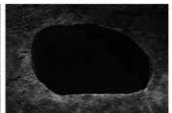
D 3 号土坑



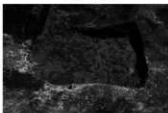
Ta13 号壁穴建物



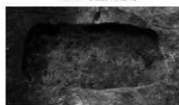
D 4 号土坑



D 5 号土坑



D 6 号土坑



D 7 号土坑



D18 号土坑



D 9～D15 号土坑



D 8 号土坑



D19 号土坑



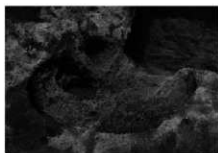
D21 号土坑



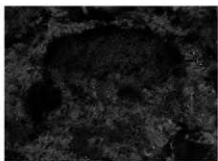
D22 号土坑



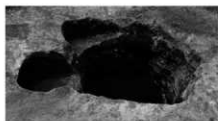
D23 号土坑



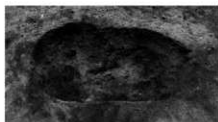
D24号土坑



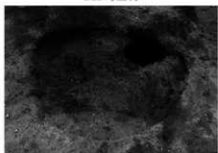
D25号土坑



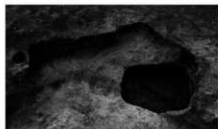
D26-27-42号土坑



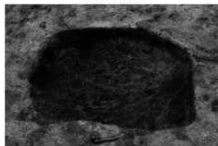
D28号土坑



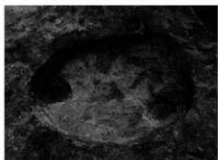
D29号土坑



D30-31号土坑



D32号土坑



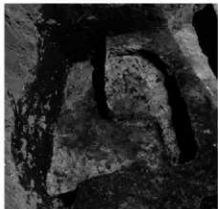
D34号土坑



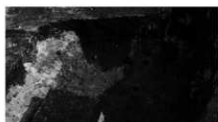
D35号土坑



D36号土坑



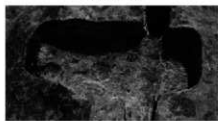
D37号土坑



D38号土坑



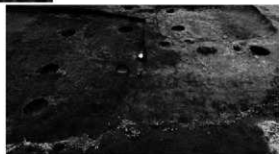
D39号土坑



D40号土坑



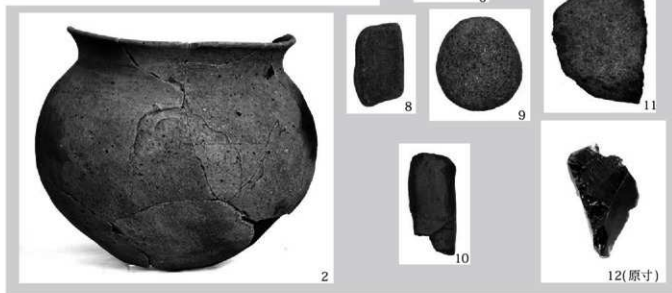
F 1号掘立柱建物



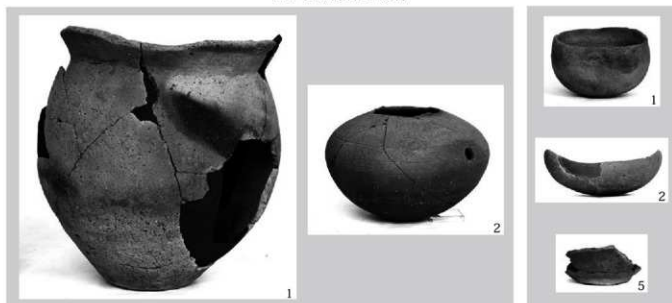
F 2号掘立柱建物



H 1号竪穴建物出土遺物

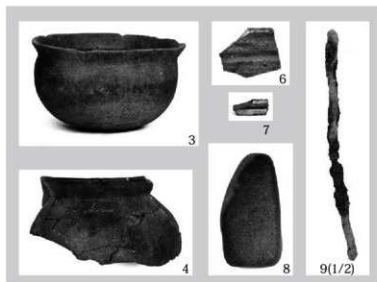


H 3号竪穴建物出土遺物



H 4号竪穴建物出土遺物

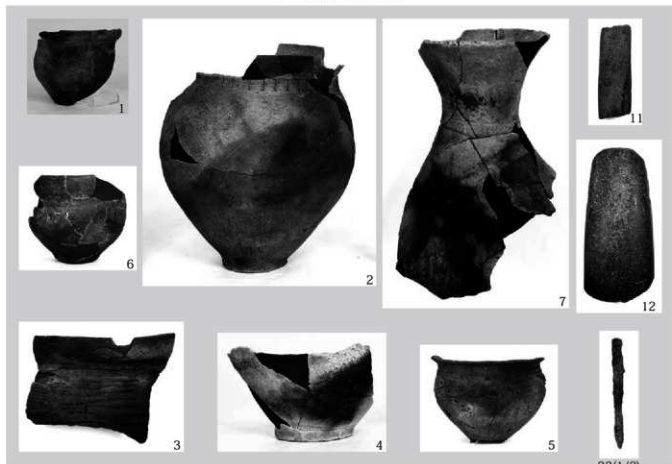
H 5号竪穴建物出土遺物 (1)



H 5号竪穴建物出土遺物 (2)

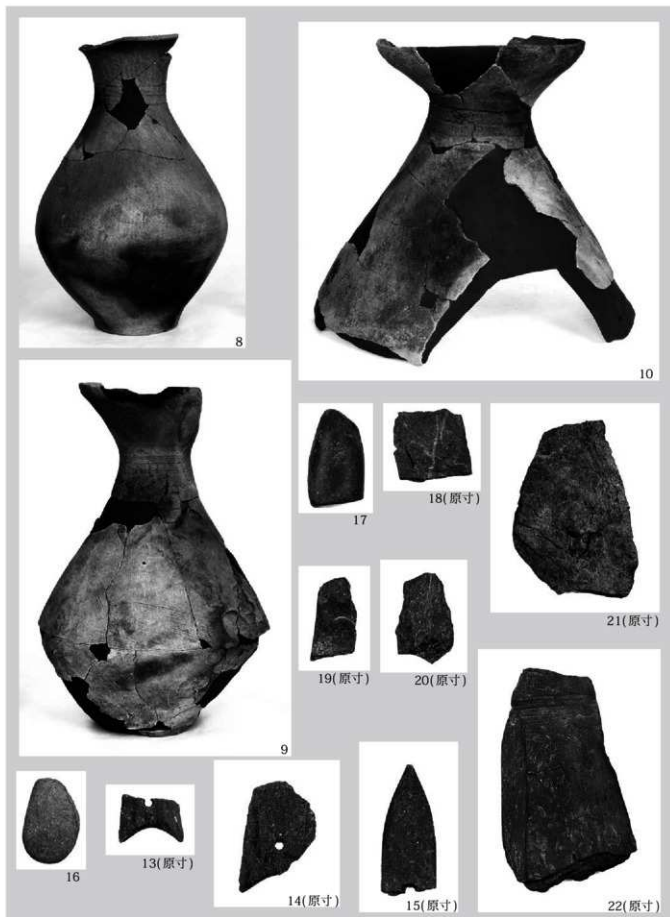


H 7号竪穴建物出土遺物



H 8号竪穴建物出土遺物 (1)

23(1/2)



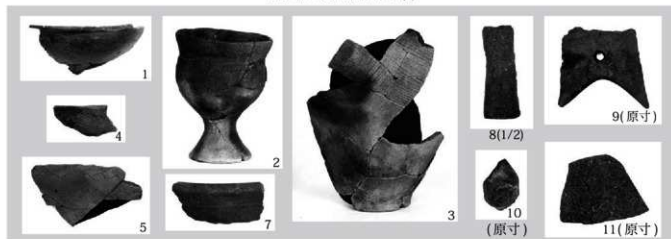
H 8号竪穴建物出土遺物(2)



H 9号竪穴建物出土遺物 (1)

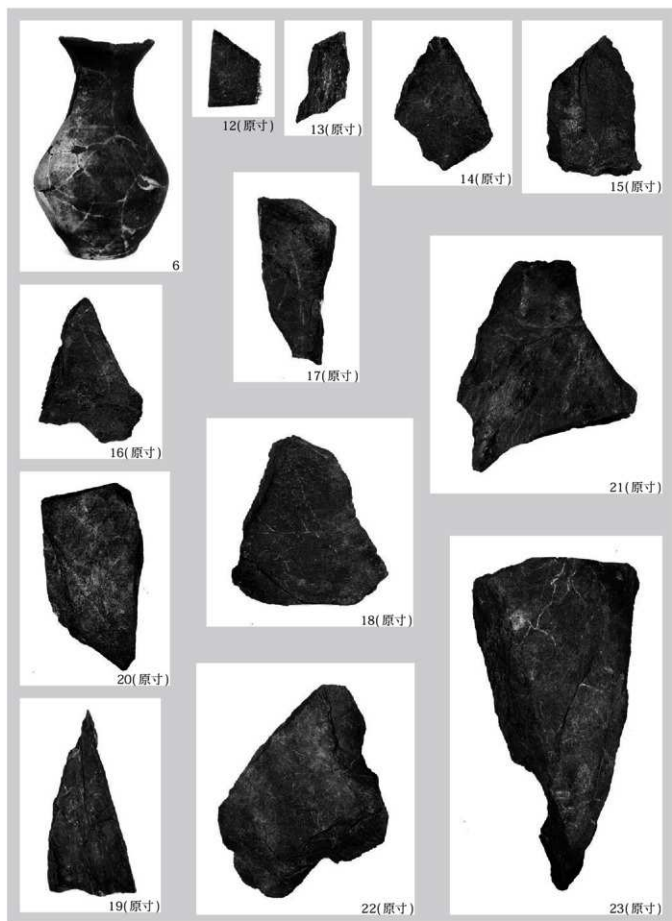


H 9号竖穴建物出土遺物 (2)

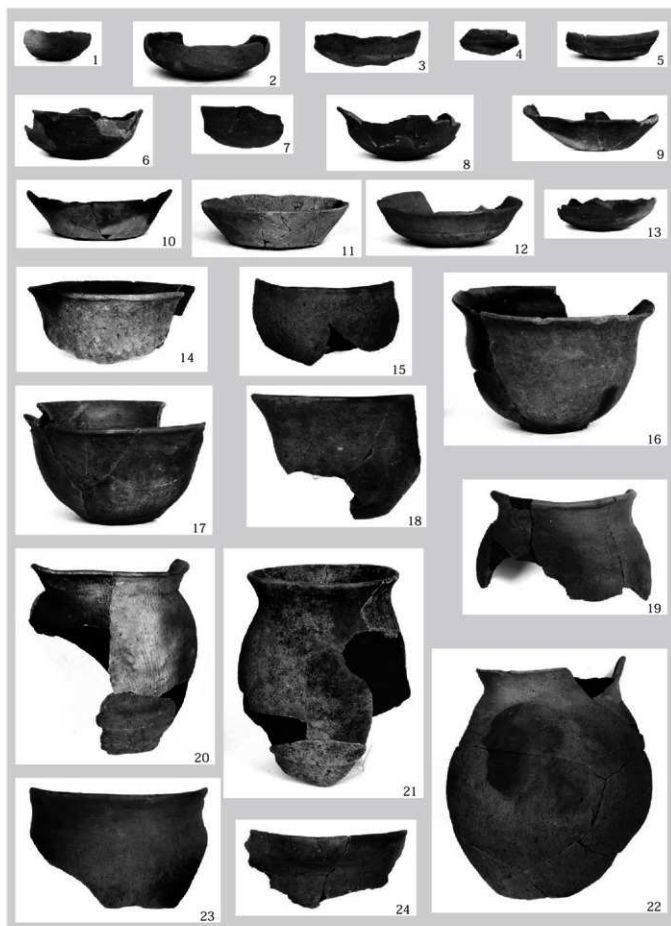


H 10号竖穴建物出土遺物 (1)

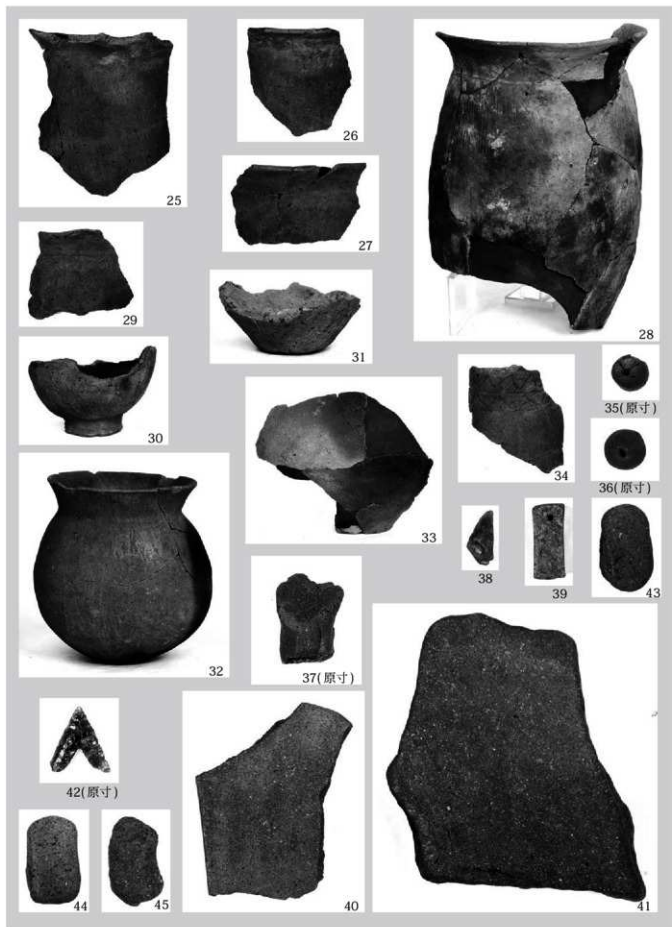




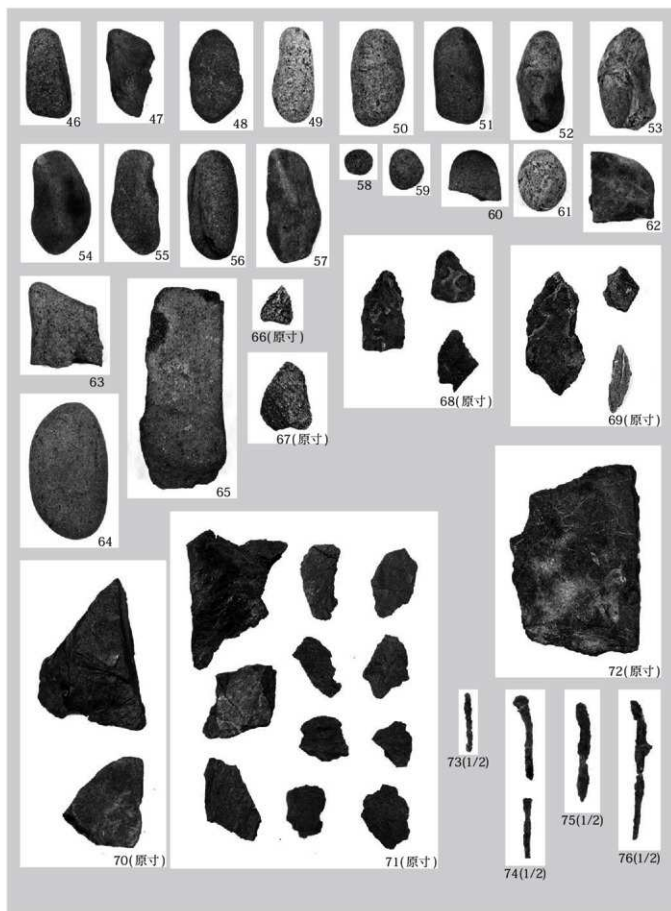
H 10 号竪穴建物出土遺物 (2)



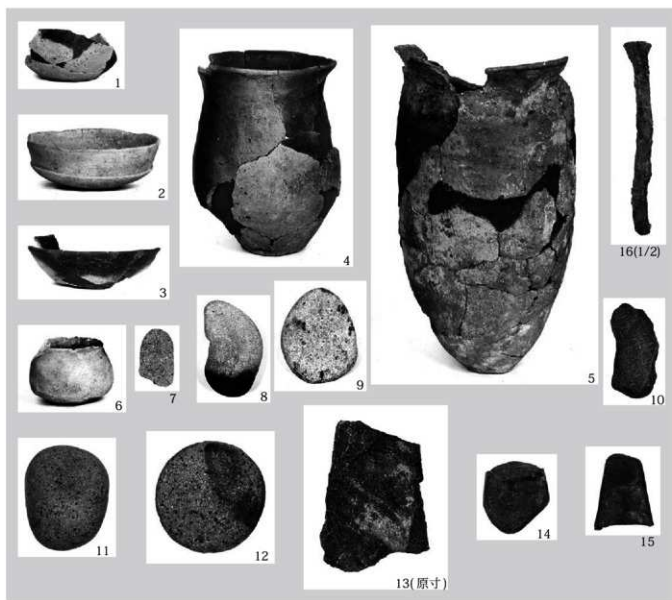
H 11 号竪穴建物出土遺物 (1)



H 11 号竪穴建物出土遺物 (2)



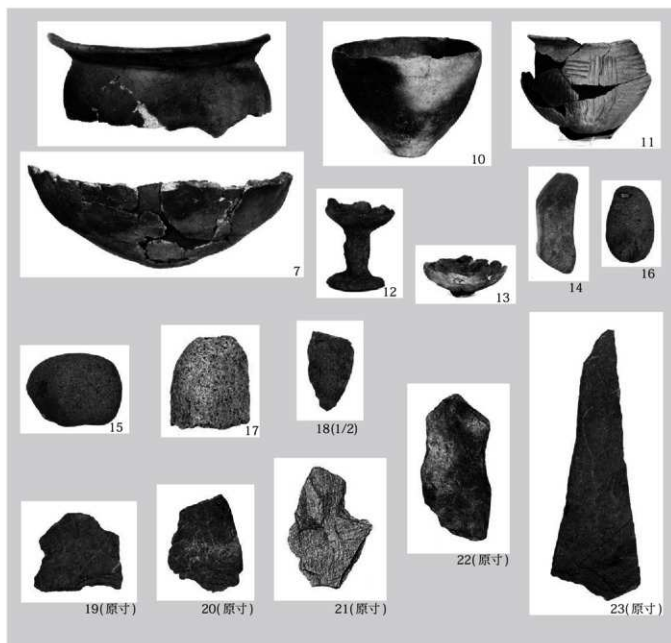
H 11 号竪穴建物出土遺物 (3)



H 12 号竪穴建物出土遺物



H 13 号竪穴建物出土遺物 (1)

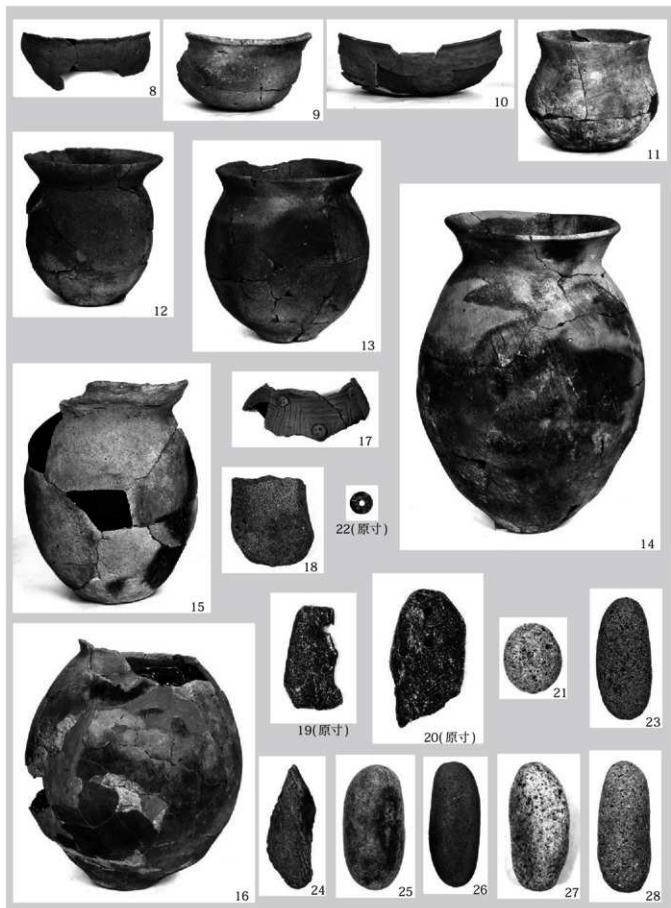


H 13 号竪穴建物出土遺物 (2)

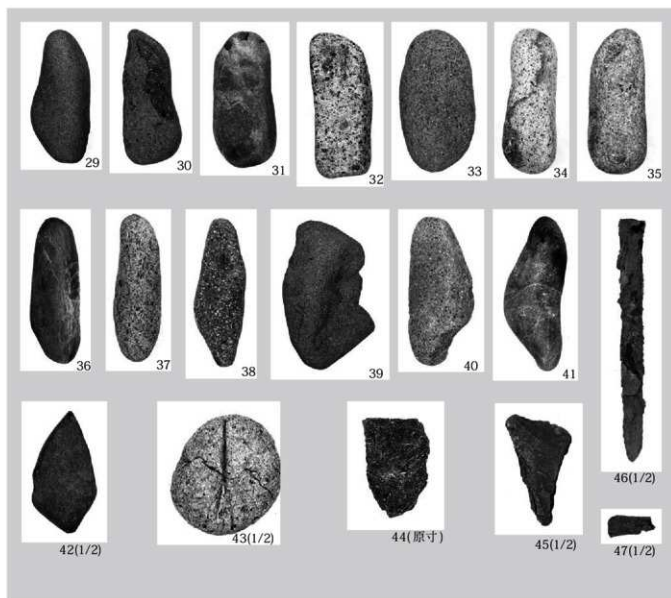


H 14 号竪穴建物出土遺物

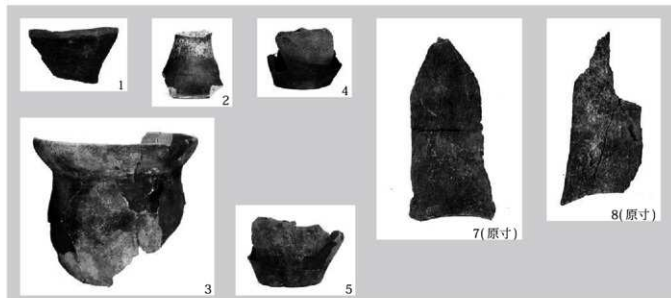
H 15 号竪穴建物出土遺物 (1)



H 15号竪穴建物出土遺物(2)



H 15 号竪穴建物出土遺物 (3)



H 16 号竪穴建物出土遺物 (1)



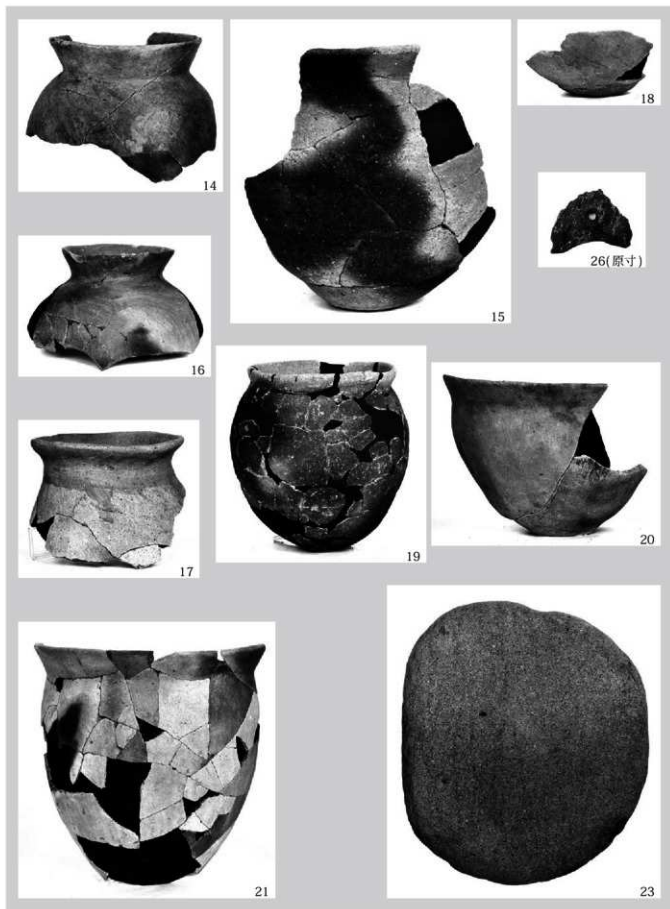


H 16号竪穴建物出土遺物(2)

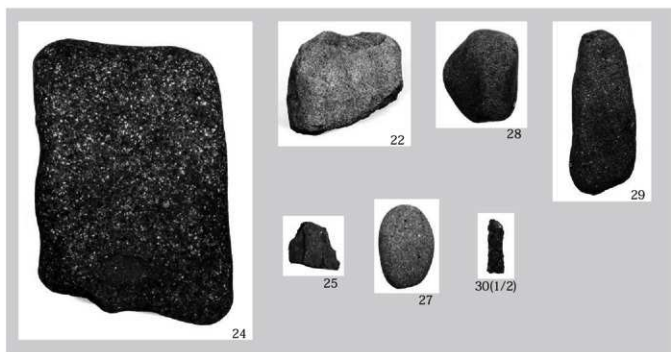


H 17号竪穴建物出土遺物

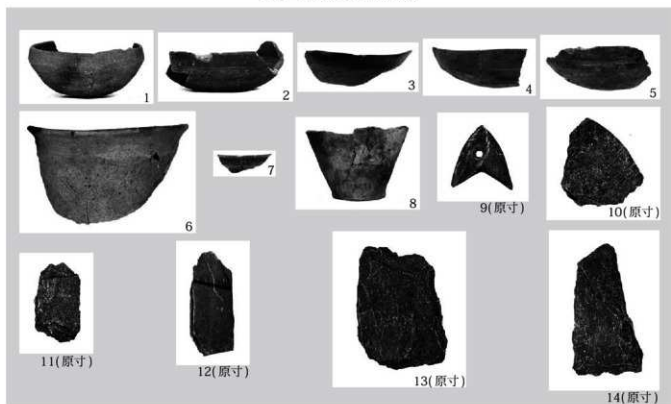
H 18号竪穴建物出土遺物(1)



H 18 号竪穴建物出土遺物 (2)



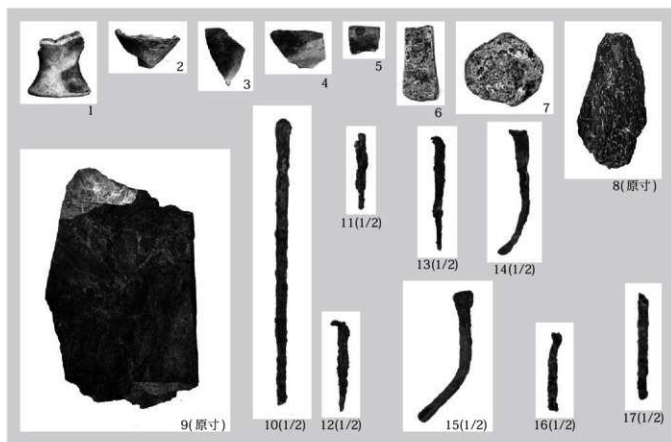
H 18 号竪穴建物出土遺物 (3)



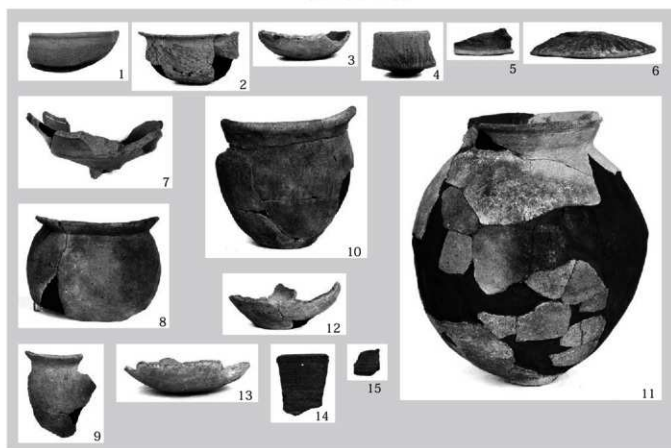
H 19 号竪穴建物出土遺物



H 20 号竪穴建物出土遺物



H 21 号竪穴建物出土遺物



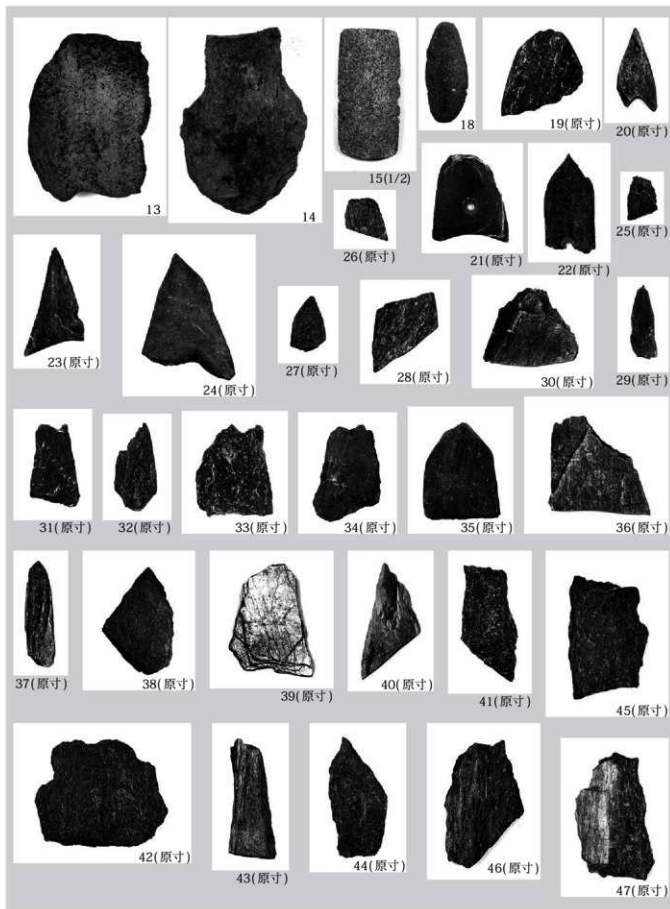
H 22 号竪穴建物出土遺物 (1)



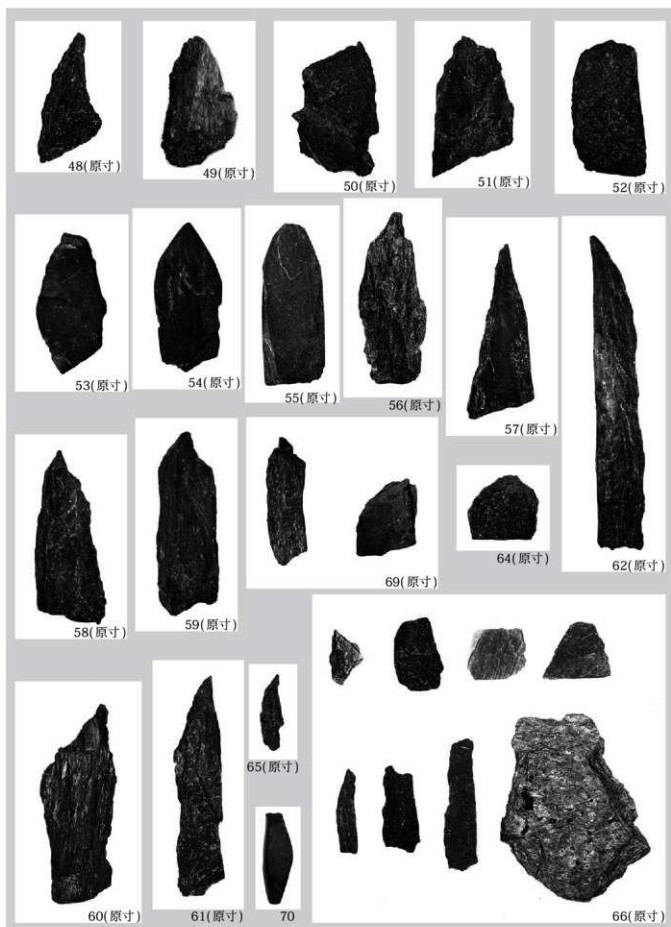
H 22号竪穴建物出土遺物(2)



H 23号竪穴建物出土遺物(1)



H 23 号竪穴建物出土遺物 (2)



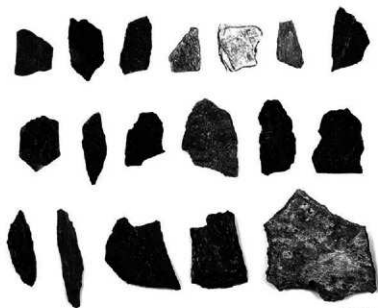
H 23 号竪穴建物出土遺物 (3)



63(原寸)



71(1/2)



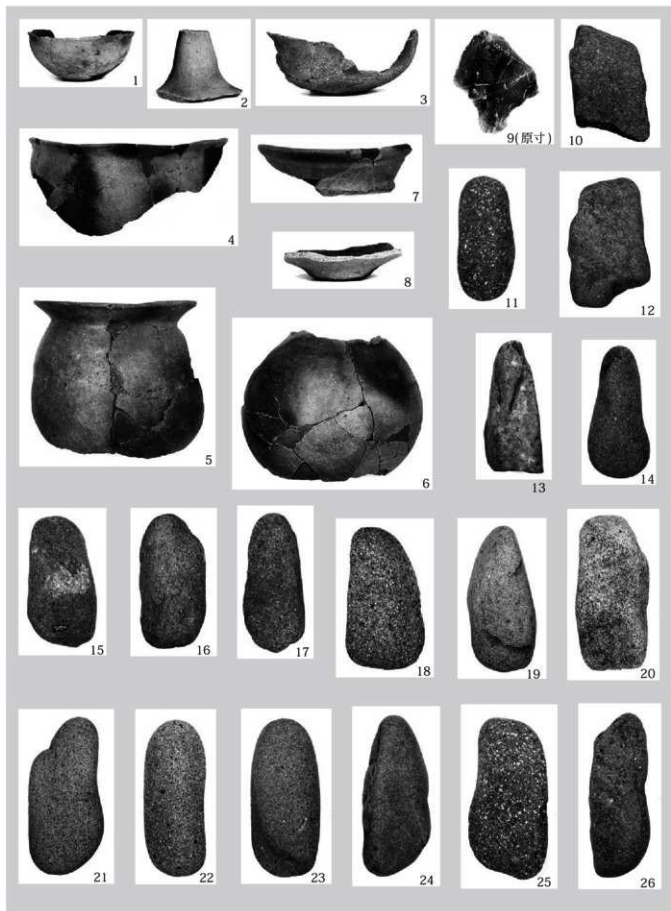
67(原寸)



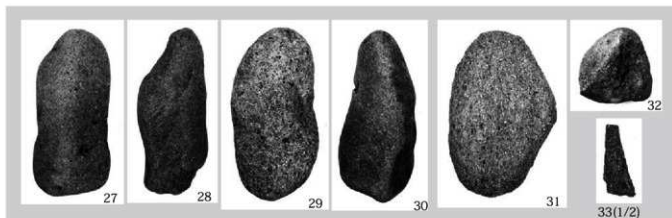
68(原寸)

H 23 号竪穴建物出土遺物 (4)





H 24 号竖穴建物出土遺物 (1)



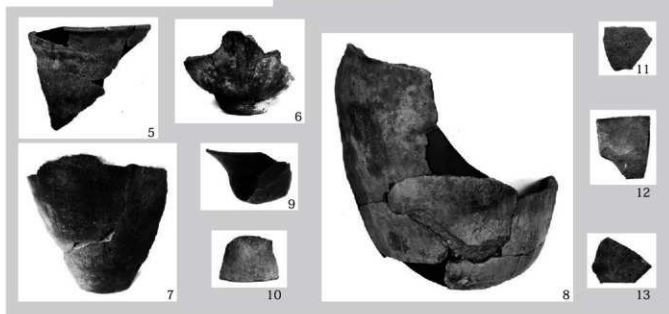
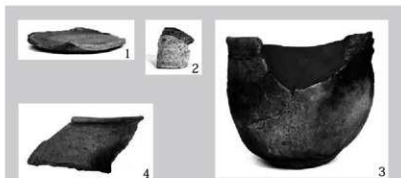
H 24 号竪穴建物出土遺物 (2)



H 25 号竪穴建物出土遺物



H 26 号竪穴建物出土遺物



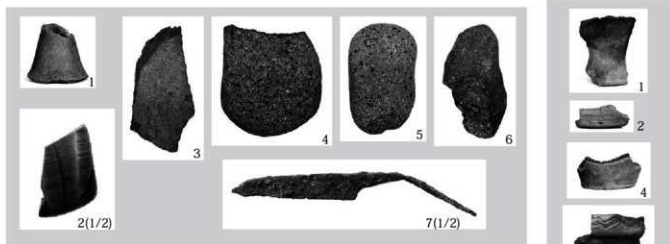
H 27 号竪穴建物出土遺物 (1)



H 27 号竪穴建物出土遺物 (2)



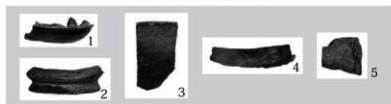
H 29 号竖穴建物出土遺物



Ta 1 号竖穴建物出土遺物



Ta 2 号竖穴建物出土遺物



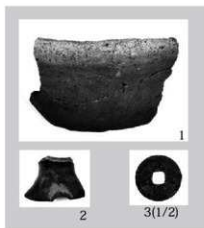
Ta 3 号竖穴建物出土遺物



Ta 5 号竖穴建物出土遺物



Ta 4 号竖穴建物出土遺物



Ta 6号竪穴建物出土遺物



Ta 9号竪穴建物出土遺物



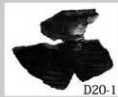
Ta10号竪穴建物出土遺物



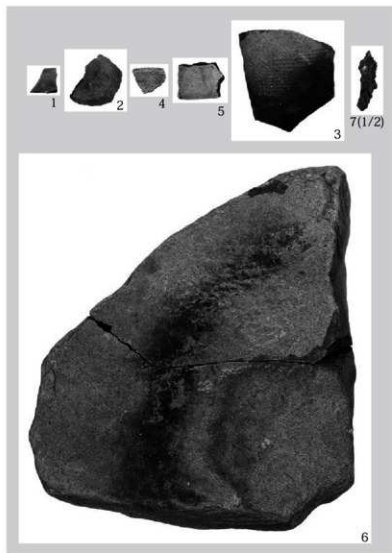
Ta11号竪穴建物出土遺物



D7-2(1/2)



D20-1



Ta 7号竪穴建物出土遺物



土坑出土遺物(1)



土坑出土遺物 (1)



掘立柱建物出土遺物

ピット出土遺物



遺構外出土遺物



ふりがな	いむらだいせきぐん にしいつぼんやなざいせき 24						
書名	岩村田遺跡群 西一本柳遺跡 XXIV						
副書名							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第289集						
編著者名	小林真寿						
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課						
所在地	長野県佐久市中込 2913 Ⅲ 0267-63-5321 FAX0267-63-5322						
発行年月日	令和4年(2022)3月						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号		令和元年 12月2日～ 令和4年 3月18日	1,687.47㎡	宅地造成
にしいつぼんやなざいせき 24	にしいつぼんやなざいせき 24	20217	52-13	36° 15' 53" 97248	138° 28' 15.50355°		
西一本柳遺跡XXIV	佐久市岩村田字中一本柳2274-1他						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
西一本柳遺跡XXIV	集落址	弥生・古墳・中世	竪穴建物址-42棟 古代以前-29棟 中世-13棟 掘立柱建物址-4棟 土坑-49基 ピット-192基	弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 石器・石製品 金属器	弥生時代中期終末～後期初頭の磨製石鏃製作址の検出。		
要約	湯川段丘上に営まれた集落遺跡である。弥生時代中期末～後期初頭、古墳時代中期後葉～後期前葉、中世の大規模集落が展開する。						

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第289集

岩村田遺跡群 西一本柳遺跡XXIV

2022年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込 2913

Ⅲ 0267-63-5321

印刷所

キクハラインク株式会社